

シスメックス
あんしんレポート
2015

CSR報告書
詳細版



目次

- 1 目次/編集方針
- 2 シスメックスグループ企業理念
- 3 社長メッセージ
- 5 シスメックスについて

7 特集 1 免疫測定装置・試薬の ラインアップを拡充し感染症や がんなどの早期発見・治療に貢献

9 特集 2 高品質な製品を安定的に お届けするために機器生産の 中核拠点「アイスクエア」を新たに設立

11 特集 3 がん撲滅を目指して 従業員ボランティアが 募金キャンペーンを開催

13 グローバルCSR活動トピックス

- 13 Japan 17 China
- 15 Americas 18 Asia Pacific
- 16 EMEA※ ※欧州・中東・アフリカ地域。

19 シスメックスのCSR

- 20 CSRマネジメント
- 21 CSR中期計画
- 23 ステークホルダーとの対話実績
- 25 CSRデータ一覧
- 28 社外からのCSR評価
- 31 コーポレート・ガバナンス
- 36 コンプライアンス

- 42 リスクマネジメント
- 44 ステークホルダーとの関わり
- 45 お客様との関わり
- 46 品質・安全性の確保
- 49 サービス&サポート／学術活動
- 52 安定的な供給
- 53 お客様満足度・社外評価の向上
- 54 医療課題解決への貢献
- 55 株主様との関わり
- 57 取引先との関わり
- 60 従業員との関わり
- 61 人権・多様性の尊重
- 64 評価・処遇・人材育成
- 69 ワークライフバランスの確保
- 71 労働者への権利の尊重
- 72 安全と健康への配慮
- 75 社会貢献活動
- 76 社会貢献方針
- 77 健康社会づくり活動
- 80 地域社会への貢献
- 84 従業員の社会貢献活動の推進
- 85 環境保全活動
- 86 環境方針
- 87 環境マネジメント
- 91 製品・サービス等の環境配慮
- 93 事業所の環境配慮
- 96 その他の環境配慮
- 97 グリーン調達
- 99 環境データ
- 101 ガイドライン対照表
- 110 第三者意見

編集方針

シスメックスの社会的責任(CSR)に関する考え方とその活動について、ステークホルダーの皆様へお伝えし、皆様との対話を深めることを目的として、毎年、CSR報告書「シスメックスあんしんレポート」(詳細版／ダイジェスト版)を発行するとともに、CSRサイトにおいて情報を開示しています。

各メディアの情報内容

- シスメックスあんしんレポート2015(詳細版)、CSRサイト:
当社のCSRの取り組みを網羅的に開示
- シスメックスあんしんレポート2015(ダイジェスト版):
ステークホルダーの皆様によりお伝えしたい内容を抜粋して掲載

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社 CSR・環境推進部
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1
Tel 078-265-0500(代表) Fax 078-265-0524

対象組織

原則としてシスメックスグループ(シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社)を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス(株)」は、シスメックス株式会社単体を指します。

対象期間

2014年度(2014年4月1日から2015年3月31日)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。

発行時期

2015年7月(前回の発行は2014年7月)

参考にしたガイドライン

- GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

シスメックスグループ企業理念

Sysmex Way

Mission

ヘルスケアの進化をデザインする。

Value

私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、人々への安心を追求し続けます。

Mind

私たちは、情熱としなやかさをもって、自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

行動基準

お客様に対して

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な待遇を提供します。

取引先に対して

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

株主様に対して

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様に安心を届けます。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

社会に対して

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。

社長メッセージ

**健康でありたいと願うすべての人々のために、
先進の技術に支えられた製品とサービス、
そして「安心」をお届けしていきます。**

検査を通じて「ヘルスケアの進化」に貢献

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」において「ヘルスケアの進化をデザインする。」をミッションに掲げ、医療の発展と人々の健やかな暮らしに貢献しています。1968年の創業以来、検体検査の分野で先進の技術をベースに、さまざまな製品やサービスを生み出し、現在では世界190カ国以上でご使用いただいているます。

医療を取り巻く環境は、近年大きく変わりつつあります。先進国においては高齢化の進展に伴う新たな課題や患者さん一人ひとりにあった医療(個別化医療)などの新たなニーズが生まれています。また、中国をはじめ、東南アジアや中南米などの新興国では、経済発展にともない医療インフラの整備とともに医療の高度化が求められています。

このような環境変化の中、疾病予防や病気の早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検査の重要性もますます高まっています。シスメックスは、このような環境変化をいち早く捉え、多様化、高度化する検査ニーズにお応えすることで「健康でありたい」というすべての人々の願いに貢献していきたいと考えています。

2014年度には、感染症やがん、心疾患、自己免疫疾患などの診断や治療経過観察に役立つ全自動免疫測定装置 HISCLシリーズの新製品として「HISCL-800」を発売しました。この製品は、シリーズの特長である「微量検体」「高感度」「迅速測定」を継承しながらも装置の横幅を約60%に縮小したコンパクトモデルです。また、多項目自動血球分析装置のコンパクトモデルとして、「XN-Lシリーズ」も発売しました。これらの製品は、先進国の中小規模施設や需要の増大が見込まれる新興国を中心に、さまざまな地域・場面で質の高い検査をお届けできるものと期待しています。

ステークホルダーの皆様に「安心」を提供

シスメックスは、企業理念にもとづき、ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けするという考え方を大切にしています。

2014年度は、グローバルな検査ニーズの高まりに応え、より品質の高い製品を安定してお届けできる体制を構築するために、機器生産体制を再編し、兵庫県加古川市に新工場「アイスクエア」を設立するとともに、国内グループ会社の2工場も拡張しました。今後、これらと加古川工場をあわせた4工場で、従来の3倍まで供給力を増強していきます。また、アイスクエア内に物流センターを設けて生産機能と物流機能を直結させました。あわせて製品梱包材の見直しや積載率の向上などの改革活動を推進し、ロジスティクスの効率化とともに、CO₂排出量の削減にも取り組んでいます。海外においてはシンガポールとドイツの試薬生産工場の生産能力を強化しました。これらの工場では、高品質・高効率なものをもちろん、従業員にとって働きやすい環境の整備に努めています。

シスメックスは、本業を通じた取り組み以外にもさまざまな社会貢献活動を展開しています。例えば、ヘルスケアに関わる企業として、スポーツを通じた健康社会づくりに貢献したいという想いで、第1回大会から「神戸マラソン」を支援しています。2014年11月に開催された第4回大会にも特別協賛するとともに、ランナーの皆さんへの給水ボランティアなどにより大会運営を支援させていただきました。

海外においても各地域の特性に応じたさまざまな社会貢献活動を展開しています。世界で最も死亡率の高い疾患である「がん」の撲滅に貢献するために、2014年度よりEMEA※において「Sysmex Against Cancer」と題したキャンペーンを展開しています。各地域の従業員ボラン

ティアがさまざまな募金イベントを企画・運営し、世界がん研究基金への寄付を行っています。

※欧州・中東・アフリカ地域。

さらなる進化を目指した中期経営計画の実行

このたび、シスメックスは2017年度を最終年度とする新たなグループ中期経営計画を策定しました。

お客様のニーズを先取りした付加価値の高い製品の開発、グローバルな事業戦略の展開を推進するとともに、内部統制システムの見直しなどを通じて経営の健全性・透明性の向上を図り、持続的な企業価値の向上を目指します。また、多様なステークホルダーの皆様との双方向コミュニケーションも強化してまいります。

さらに、中期経営計画の策定にあわせてCSRに関する中期計画の見直しを行いました。これは、2011年から参加している国連グローバル・コンパクトの10原則やISO26000、ならびに事業のさらなるグローバル化やステークホルダーの皆様からの要請、期待の多様化、高度化を踏まえ、今後の取り組み課題を再設定したものです。

シスメックスは、これからも持続的な成長とともに、さまざまなステークホルダーの皆様からの信頼を得られるように努めてまいります。今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年7月

代表取締役会長兼社長

家 次 恒



シスメックスについて

「検体検査※」に用いられる機器・試薬・ソフトウェアを提供し、世界中の人々の生命と健康を支えています。

※ 検体検査とは臨床検査の一つで、心電図・超音波など患者さんの身体を直接調べる生体検査に対して、検体検査では、血液や尿のように、患者さんの体から取り出した試料(検体)について、そこに含まれる成分や細胞の形や数などを調べる検査です。

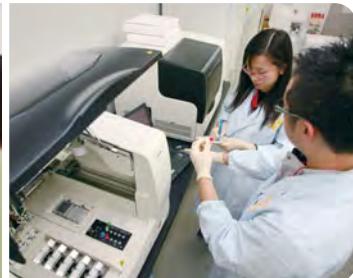
患者さんや
医療従事者の
課題を解決



患者さんの負担を軽減



医師の迅速な診断をサポート



検査技師の負担軽減、効率向上

シスメックスの
製品が
身近なところ
で活躍



**研究開発から
サービス&
サポートまでの
一貫体制**



研究開発

生産

販売

サービス&サポート

① 病院

ヘマトロジー(血球計数)分野

血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを測定・分析することにより、貧血や感染症などを調べることができます。

多項目自動血球分析装置
XNシリーズ「XN-2000」



血液凝固分野

血液が固まらない疾患(血友病など)や血栓が引き起こす疾患(脳梗塞など)の診断支援や治療のモニタリングができます。

全自动血液凝固測定装置
「CS-5100」



免疫血清分野

血液が沈殿した後の上澄み部分である血清を試料として、肝炎ウイルスの有無や甲状腺ホルモンの測定、がんの罹患などを調べることができます。

全自动免疫測定装置
「HISCL-5000」



尿分野

尿中の糖・たんぱく質・血液の有無や状態を調べることで、さまざまな病気を診断する手がかりを得ることができます。

全自动尿中有形成分分析装置
「UF-1000i」



ライフサイエンス分野

遺伝子やたんぱく質を分析する最新のテクノロジーによって、がんを中心とした疾患に関する分子診断を行うことができます。

当社が開発したOSNA(One-Step Nucleic Acid Amplification:直接遺伝子增幅)法は、リンパ節中の標的遺伝子を高精度、迅速、簡便に検出することができる技術で、現在は乳がん、大腸がん、胃がんに対して保険適用されています。また、抗がん剤の効果を調べる技術など、個別化医療の実現に向けた研究開発に注力しています。



遺伝子増幅検出装置
「RD-100i」

② 動物病院

動物用の当社製品は、犬や猫などをはじめ、水族館のイルカや動物園の動物たちの健康管理に役立っています。

動物用多項目自動血球計数装置
「pocH-100i/VDiff」



③ スポーツ施設

健康モニタリング装置は、採血せずにヘモグロビン推定値を測定でき、アスリートのコンディション管理に役立っています。

健康モニタリング装置
「ASTRIM FIT」



免疫測定装置・試薬のラインアップを拡充し 感染症やがんなどの早期発見・治療に貢献

① 世界中の多様なニーズに対応するコンパクトで高性能な免疫測定装置を発売

血液中のたんぱく質などを測定する免疫血清検査は、感染症やがん、心疾患、自己免疫疾患などの診断から治療経過観察まで幅広く利用され、病気の早期発見や治療において重要な役割を果たします。システムズは、免疫血清検査に関する多様な検査ニーズに応えるために、全自動免疫測定装置 HISCLシリーズのラインアップの拡充に取り組んできました。

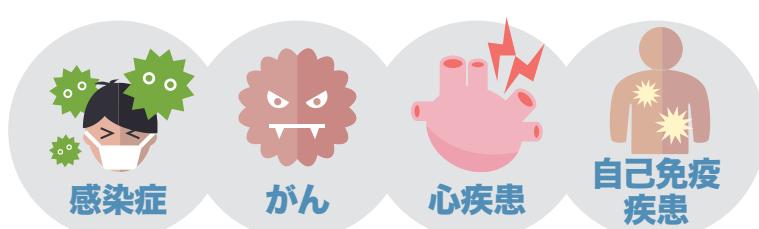
2014年9月には、同シリーズの特長である「微量検体」「高感度」「17分の迅速測定」を継承しながら、既存機種(HISCL-5000)と比較して装置の横幅を約60%にまで縮小した「HISCL-800」を発売しました。高機能、高性能と

省スペース性を兼ね備えた当装置は、今後需要が増大すると見込まれる中国・アジアなどの新興国に対しても付加価値の高い検査の実施に貢献します。インターフェースについても、21インチの大型カラータッチパネルディスプレイを採用し、大きめのアイコンを使用することで高い視認性・操作性を確保し、確実で効率的な検査を実現します。

また、お客様の装置の状態を把握して故障を未然に防止できるSNCS(Sysmex Network Communication Systems)※にも対応しているため、快適かつ安心して検査を実施できる環境の構築に貢献します。

※ 別途契約が必要です。

免疫血清検査が診断・治療経過観察に貢献する病気



全自動免疫測定装置 HISCLシリーズの主な特長



- 検査効率の向上
- 信頼性の高い検査結果
- 患者さんの負担軽減



全自動免疫測定装置
「HISCL-800」

（既存機種
「HISCL-5000」と比較）
約 **60%**
省スペース化

ウイルス性肝炎とは？

日本最大の感染症

約300万人が感染

「肝硬変」「肝細胞がん」に至る可能性

新試薬「HISCL M2BPGi」の特長

患者さんの負担軽減、

検査の効率化

肝臓の線維化を採血のみで迅速に測定

無症状の
ウイルス保有者、
急性肝炎

慢性肝炎

肝硬変

肝細胞がん

肝臓の線維化の進行

≒ 肝硬変・肝細胞がんに至る可能性

②

肝炎ウイルスに起因する
病気の診断に役立つ新試薬で
患者さんの負担軽減に貢献

2015年1月には、HISCLシリーズ用の新試薬として、「肝臓の線維化（肝線維化）」の進行を短時間で測定できる「HISCL M2BPGi試薬」が日本で保険適用を受けました。

国内最大の感染症であるウイルス性肝炎は、放置すると慢性肝炎や肝硬変に至り、肝細胞がんに進行する可能性もあります。治療においては、肝炎ウイルスによる肝線維化の程度を判定することが重要であり、現在、その検査は肝臓組織を採取して行う生体組織診断が主流です。しかし、そのためには入院の必要があり、患者さんの身体的・経済的負担が大きいことが課題でした。

「HISCL M2BPGi試薬」と免疫測定装置HISCLシリーズ（HISCL-5000/2000i/800）を用いることで、肝線維化の進行の程度を採血のみで迅速に測定できるようになり、患者さんの負担軽減、検査の効率化が期待されます。

③ アトピー性皮膚炎の診断に役立つ検査を自動化し、時間を大幅に短縮

2014年4月には、アトピー性皮膚炎診断に役立つ「HISCL TARC試薬」も発売しました。

アトピー性皮膚炎の診断においては、血液中の「TARC※」と呼ばれる物質の産生量が測定され、重症度評価や治療効果判定の客観的指標として役立てられています。しかし、従来この検査は手作業で行われており、3時間以上かかっていました。HISCLシリーズの機器と「HISCL TARC試薬」によってこの検査を自動化することで、約17分という短時間での測定が可能となりました。

シスメックスは、今後も免疫測定装置・試薬のラインアップを拡充し、検査の質の向上と患者さんの負担軽減に寄与していきます。

※ Thymus and Activation-Regulated Chemokineの略。血液中のアレルギー炎症を引き起こす細胞を皮膚へ遊走させる因子となる物質。

TARC産生量
測定検査の所要時間

大幅に
検査時間を短縮

約1/11に

(約3時間15分から約17分に)

お客様の声



HISCL-800を実際に使った印象は「使いやすく、手がかからない」

私たちの検査室にちょうどいいサイズであったこと、そしてシスメックスの営業・サービス・学術担当者の対応が迅速・丁寧で信頼できたことがHISCL-800導入の決め手になりました。装置自体がコンパクトなだけでなく、試薬もすべて装置内に収まるので、清潔で整然とした検査環境を実現できました。実際に使ってみると、タッチパネル式で画面操作もしやすく、また、メンテナンス作業もほとんど必要ないため、「使いやすく、手がかからない」装置だと感じています。

医療法人登誠会 諏訪マニティークリニック 検査室主任 酒井 百世様

高品質な製品を安定的にお届けするために 機器生産の中核拠点「アイスクエア」を新たに設立

① 検査ニーズの高まりに応えるために、グループ全体の生産体制を再編

シスメックスは、メイド・イン・ジャパンの高い技術力を活かして検体検査機器を生産し、世界190カ国以上のお客様にお届けしてきました。

近年では、先進国だけでなく中国などの新興国においても医療や検査に対するニーズが拡大し、当社の機器に対する需要が急速に高まっています。このような状況を受け、シスメックスは、2014年6月、兵庫県加古川市に新工場「アイスクエア」(敷地面積約3万m²)を設立しました。また、アイスクエアの設立を機にグループの機器生産体制

を整備しました。コンパクトモデルを生産する加古川工場、高機能モデルのユニット組立を専門とするシスメックスメディカ(兵庫県姫路市)、検体検査機器の周辺機器製造を専門とするシスメックスRA(長野県塩尻市)という役割に再編し、シスメックスメディカとシスメックスRAについては工場を拡張しました。

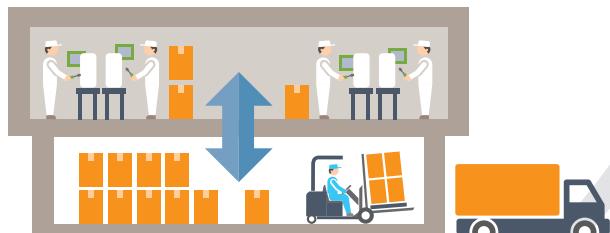
今後、グループの機器生産能力を従来の約3倍にまで増強させ、グローバルな検査ニーズの高まりに応えていきます。

アイスクエアの特長 生産



アイスクエアの特長 物流

業務の高効率化を実現



生産機能と
物流機能が直結

② 品質の高い製品を効率的に 生産・供給できる体制を構築

アイスクエアの生産エリアでは、「人と技術が融合する高品質な生産」をコンセプトに、ICT※を活用した「デジタルものづくり」を推進しています。作業者・検査者への指示、作業実績・検査実績の収集、製造記録・検査記録の作成などを担う生産支援システム「Smart Pro」や、このSmart Proと連携し、作業者のためにディスプレイ上に3次元のアニメーションで作業手順を表示する「3Dムーブマニュアル」などを活用し、高品質・高効率な生産を実現しています。

また、アイスクエアは機器の物流を管理する中枢としての機能も果たしています。従来は工場で生産した機器を外部にある物流倉庫に保管していましたが、アイスクエア内に物流センターを設け、生産機能と物流機能を直結することで、製品の完成と同時に在庫が管理できる体制を構築しました。これによって大幅に業務が効率化し、従来よりもさらに迅速に機器を市場に供給できるようになりました。

※ Information and Communications Technologyの略。
情報通信技術のこと。

機器生産拠点の概要

	シスメックス アイスクエア	シスメックス 加古川工場	シスメックス メディカ	シスメックス RA
所在地	兵庫県加古川市	兵庫県加古川市	兵庫県姫路市	長野県塩尻市
敷地面積	約30,000m ²	約12,000m ²	約7,300m ²	約6,100m ²
延べ床面積	約20,000m ²	約9,800m ²	約4,400m ²	約6,000m ²
主な生産品目	高機能モデル	コンパクトモデル	高機能ユニット	周辺機器

今後、グループ全体の
機器生産能力を

約3倍に

グローバルな検査ニーズの拡大に対応

アイスクエア



③自然環境や 地域コミュニティに配慮

アイスクエアの設計にあたっては、環境負荷の削減にも配慮しました。エネルギー消費とCO₂排出を削減するためLED照明や太陽光発電モジュールを導入するとともに、敷地内に木と水と光を取り入れ、緑に包まれた工場を目指しました。また、アイスクエアのシンボルの一つであるエントランス前の丘には、建設残土を利用することで場外排出を削減し、環境負荷低減にも貢献しています。

また、同工場がある工業団地は住宅地に隣接しており、近隣には多くの学校施設があります。そこでシスメックスは、児童・生徒の皆さんとの通学路歩道用地として敷地の一部を加古川市に寄贈したところ、地域の交通安全に貢献したとして加古川市から感謝状を贈呈いただきました。

シスメックスでは、今後も自然環境に配慮しながら、生産・物流体制の強化に努め、世界中に高品質な製品を安定的に供給していきます。

アイスクエアでの
自然エネルギー活用

環境負荷を削減

太陽光
発電で
110 kWh
を発電

(アイスクエアの全電力使用の10%)



2014年度、シスメックスの
工場および主要事業所からの
温室効果ガス排出量は、
アイスクエアの設立などによって
絶対値では増加しましたが、
売上高原単位では
前年度比で約9%
減少しました。

従業員の声



従業員にとって働きやすく、見学者などにも快適に感じていただける工場

アイスクエアは、「自然美」と「機能美」にこだわりました。働く人だけでなく工場見学に訪れる方々や周辺住民の方々にも快適に感じていただける「人に優しい」工場を目指し、木と水と光を豊富に取り入れています。また、生産エリアは、柱のない空間が特徴で、需要に応じて柔軟にレイアウトを変更できるようになっています。

シスメックス株式会社 機器生産本部 生産管理部 金鹿 航

がん撲滅を目指して 従業員ボランティアが募金キャンペーンを展開

① がん撲滅を目指したキャンペーン「Sysmex Against Cancer」

がんは世界で最も多くの死者を出している疾患です。今後もその数は増え続けると予測されており、その対策として治療法の改善だけではなく、「予防」と「早期発見」がますます重要になると言われています。シスメックスは、がんの早期発見に役立つ製品を製造・販売するとともに、アメリカ癌学会をはじめとする、がんの予防や研究を支援する団体への寄付※1など、がん撲滅を目指した社会貢献

活動にも積極的に取り組んできました。

2014年度には、新たにEMEA※2のグループ会社の従業員ボランティアが中心となって、がん撲滅のためのキャンペーン「Sysmex Against Cancer」を開始しました。

※1 詳細については、p15「がんの予防や研究を支援する団体に継続して寄付を実施」をご覧ください。

※2 欧州・中東・アフリカ地域。

② EMEA※1 でさまざまな募金活動を開催

「Sysmex Against Cancer」は、従業員が企画したさまざまなイベントを専用のWebサイトに掲載し、寄付を募るというものです。これらの募金はがん予防に関する啓発や研究支援に取り組む世界がん研究基金※2に寄付されます。

この取り組みは、北はロシアから南は南アフリカ、西はイギリスから東は中東まで、EMEA※1全体で行われています。開催したイベントは、食物や宝石、帽子などの販売や、オークション、専門家による講演など多岐にわたり、2015年4月までに実施されたイベント総数は162件に達しました。

※1 欧州・中東・アフリカ地域。

※2 イギリス・ロンドンに本拠地を置く非営利団体。がんが予防できることを啓発し、がんと食事、運動、肥満との関係を科学的に研究する資金を提供することを目的としています。



従業員の声



15カ国の従業員たちが力を合わせ、大きなプロジェクトを達成

私たちの多くは人生においてがんによるなんらかの影響を受けます。私たちシスメックスの従業員にとっても、2人の大切な同僚を同じ日にがんで失うという悲しい出来事がありました。そこでヘルスケアと関わりのある私たちに何かできないかと考え、「Sysmex Against Cancer」というキャンペーンを開始しました。そして2015年4月12日には、15カ国 の従業員たちが力を合わせ、一つの大きなプロジェクトを成し遂げることができました。

シスメックス ネザーランド(オランダ) IVD division **Jos van de Ven**

③ ロッテルダムマラソンを通じた募金活動を実施

2015年4月12日には、「Sysmex Against Cancer」最大のプロジェクトとしてロッテルダムマラソン2015を通じた募金活動を実施しました。同大会は毎年2万名以上が走るオランダ最大級の大会であり、シスメックスグループの従業員は、ヨーロッパから92名、中東から1名、アフリカから3名、計96名がランナーとして参加しました。この大会に参加を申し込みと同時に世界がん研究基金への募金活動に参画したことになります。

このような活動の結果、2015年4月末までに「Sysmex Against Cancer」キャンペーン全体で総額24万1,733ユーロ(約3,150万円)※を世界がん研究基金に寄付することができました。今後もこのキャンペーンを継続し、がんの撲滅に貢献していきます。

シスメックスは、今後もさまざまな課題の解決に向けて従業員や地域住民とともに積極的に社会貢献活動を展開していきます。

※ 2015年3月末レート
1ユーロ=130.32円換算。

「Sysmex Against Cancer」で集めた寄付金

世界がん研究基金へ寄付

24万1,733ユーロ

(約3,150万円)



寄付金贈呈式



ロッテルダムマラソンに参加したシスメックスグループ従業員

「Sysmex Against Cancer」キャンペーンの概要

ロッテルダムマラソンへの参加など

162件の募金活動を実施



さまざまな募金活動を展開

Japan



ヘマトロジ一分野 XNファミリーの コンパクトモデルを発売

シスメックスは2014年12月、血球計数分野のフラッグシップモデルである「XNシリーズ」のコンパクトモデル、多項目自動血球分析装置「XN-Lシリーズ」(XN-550、XN-450、XN-350)を新たに発売しました。データ処理部を含むシステム一式での横幅を従来のコンパクトモデルに対して約70%に抑えたコンパクトさ^{*}に加え、高機能と高い操作性を兼ね備えた同シリーズは、中小規模施設や大規模施設の緊急検査室などの活躍が期待されます。

* XN-350とXS-800i（本体+データ処理部）を比較した場合。

省スペース
装置横幅は既存機種の

約70%



コンパニオン診断薬の開発拠点を新設

がん治療の分野では、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する個別化医療の実現・普及が望まれており、医薬品の効果や副作用を投薬前に予測する「コンパニオン診断薬」への期待が高まっています。シスメックスは、コンパニオン診断薬の研究開発を加速するために、2014年12月、新たな開発および受託アッセイサービス拠点を神戸・ポートアイランド内に開設しました。

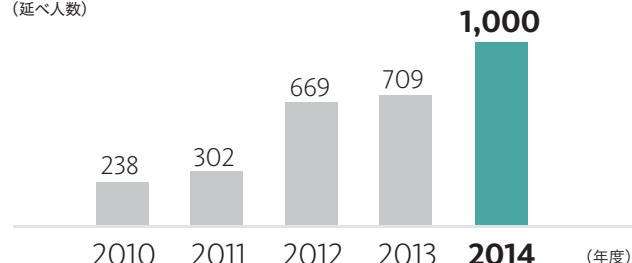


コンパニオン診断薬の
開発および受託アッセイ
サービス拠点

ものづくりトレーニングセンターでの技術教育

シスメックスは、加古川工場に「ものづくりトレーニングセンター」を設置し、新入社員のほかパートタイマー・派遣社員なども対象とする技術教育を行っています。2014年度には加古川工場の改修工事にあわせて同センターを拡張し、同時に教育項目を充実させました。また、同センターの教育ノウハウを各工場と共有し、現場での人材育成力の底上げを図りました。

「ものづくりトレーニングセンター」での教育受講者数
(延べ人数)



第4回神戸マラソンに協賛

システムズ(株)は、阪神・淡路大震災からの復興に手を差し伸べていただいた皆様への感謝の気持ちを込めて毎年神戸で開催されている「神戸マラソン」に、第1回大会から特別協賛しています。2014年11月に開催された第4回大会にも特別協賛するとともに、ランナーゼッケンなどの提供やボランティアによる運営支援を実施しました。また、同時開催の「神戸マラソンEXPO」にも出展しました。



給水ボランティア(グループ従業員およびその家族136名が参加)

従業員のボランティア活動を促進する 「社会貢献ポイント制度」を開始

システムズは、2014年4月に「社会貢献ポイント制度」を開始しました。この制度では、従業員が個人で社会貢献活動を行ったり、会社主催の社会貢献イベントに参加するとポイントが付与されます。そして年度末に貯まったポイントに応じて、会社から寄付を実施します。2014年度はユニセフを通じて、合計約97万円分のはしかワクチンやマラリア予防蚊帳、救急医薬品キットを途上国に寄付しました。

2014年度の社会貢献ポイント実績・寄付実績

国内グループ従業員の約**28%**、**837**名が参画

合計**9,722**ポイント= **972,200**円分を寄付

- はしかワクチン 10,600回分
- 救急医薬品キット 78キット
- マラリア予防蚊帳 770帳

1人当たり
平均研修時間(2014年度)

約**28**時間

1人当たり平均研修費用(2014年度)

約**16**万円

4つのコンセプトに基づく人材育成

システムズ(株)は人材育成の4つのコンセプトに基づき、選抜型研修、階層型研修、自律選択型研修を研修体系の軸とした計画的・段階的な人材育成に取り組んでいます。2014年度の1人当たり平均研修時間は28.2時間、平均研修費用は157,789円※となっています。また、2015年4月には、多様な文化や価値観を持つ人々が集い、日常業務や立場を離れて議論を深め、ネットワークを広げる場として、兵庫県芦屋市に「グローバルコミュニケーションセンター」を開設しました。

※ 人事部門が提供する研修対象とし、自己啓発および実地研修など業務の一部に該当するものは除く。



グローバル コミュニケーション センター(シアタールーム)



新入社員研修

人材育成の4つのコンセプト

- 1 研修と評価と仕事(成果発揮)を接続
- 2 システムズグループのグローバル化の促進
- 3 繙続的な人材開発投資
- 4 人を育て、人が育つ会社

Americas



お客様満足度向上に向けて充実したサポートを提供

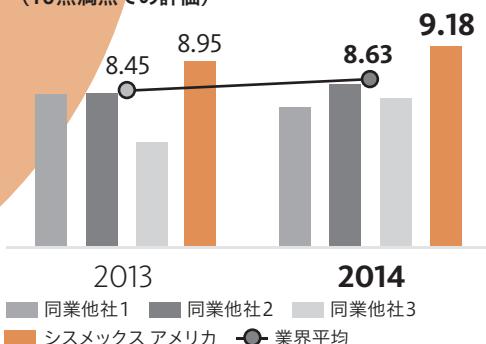
米州の統括現地法人シスメックス アメリカでは、長年にわたりお客様のサポート充実に努めてきました。このような取り組みが実を結び、血球分析装置メーカーを対象としたお客様満足度調査「IMV ServiceTrack」(IMV社主催)では15年連続で満足度No.1を獲得しています。また、お客様の声の活用に関して優れた実績を持つ企業を表彰する「ACE-Award」(Confirmit社主催)を4年連続で受賞しました。また、独自のアンケート調査においても、総合評価で10点満点中9.1点という好結果が得られています。



機器の使用方法などをお客様に配信する動画の撮影風景

15年連続で外部お客様満足度調査 No.1

「IMV ServiceTrack」の結果
(10点満点での評価)



がんの予防や研究を支援する団体に継続して寄付を実施

シスメックス アメリカでは、健康な社会づくりへの貢献を目指して、がんの予防や研究を支援している団体に継続して寄付を実施しています。2014年度は、アメリカ癌学会、アメリカ心臓協会、白血病リンパ腫協会に合計で約7万9,000ドル(約950万円※)を寄付しました。また、これらの団体が開催するイベントに、従業員がボランティアとして積極的に参加しました。

※ 募金活動で集めた寄付金を含む。2015年3月末レート1ドル=120.17円換算。



募金イベントに参加した従業員とその家族

「Companies That Care Honor Roll」を7年連続で受賞

シスメックス アメリカは、社会貢献活動や働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいることが評価され、「Companies That Care Honor Roll 2015」(米国NPO法人「Companies That Care」主催)を受賞しました。同賞の受賞は、今回で7年連続となります。





ケニアで医療体制構築に取り組むNPO法人を支援

ケニアでHIV/AIDSの医療体制構築に取り組んでいるNPO法人「イルファー」に対して、シスメックスは2010年度に血液分析装置を寄贈して以来、継続的な支援を行っています。同団体はHIV/AIDSに関する教育活動や無料診療を現地で定期的に実施しており、2014年9月にケニア・プムワニ村で実施した無料診療には2,300名以上の地域住民が訪れました。シスメックスは2014年度、1,100名分の検査費用に相当する金額を同団体に寄付しました。



シスメックスが寄贈した血液分析装置



診療風景

販売代理店や従業員に対する教育を実施

精度の高い検査を実現するためには、適切な技術や学術知識を身につける必要があります。EMEA※の統括現地法人シスメックスヨーロッパでは、主に販売代理店や従業員に対する教育を実施する組織「シスメックスアカデミー」を設置しています。また、EMEA※の各地に「トレーニングセンター」を設置し、シスメックスアカデミーがこれらを統括することで、同様の教育を行える体制を整えています。

※ 欧州・中東・アフリカ地域。



シスメックスアカデミーでの教育風景

スポーツを通じて健康を増進

2014年度、シスメックスヨーロッパでは各種スポーツ器具を備えた「シスメックスジム」を開設しました。本施設では、キックボクシングやピラティスをはじめ、さまざまなスポーツ教室を開催しています。また、多くの従業員にスポーツに興味を持つもらえるよう、プロのコーチによる入門トレーニングや専門家によるマッサージも提供し、楽しみながら健康管理にも取り組める環境を整えています。



シスメックスジム

China



医療従事者に 最新の学術情報を発信

シスメックスは、経済発展と人口増加を背景として医療と検査に対するニーズが急速に高まる中国において、現地の医療従事者の方々を対象とした学術セミナーを1998年から実施してきました。2014年11月1日には昆明において「第17回シスメックス中国学術セミナー」を開催し、中国全土から780名の方々にご参加いただき、臨床検査に関する最新の情報を発信しました。



会場の様子

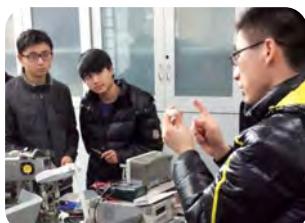
中国全土から
780名
が参加



次社長のごあいさつ

大学と共同でエンジニアを育成

検査ニーズが急速に高まっている中国では、専門的な知識と技術を備えた臨床検査機器のエンジニアの育成が急務となっています。そこでシスメックス上海は、Shanghai Medical Instrumentation College(SMIC)との共同プロジェクトとして、エンジニアを養成する研修拠点を運営しています。2014年度には、教育経験に優れたSMICの教員5名と豊富な実務経験と技能を持つシスメックス上海のエンジニア3名がこのプロジェクトに参加しました。



エンジニア育成風景

無錫の試薬工場が江蘇省の食品薬品監督局から「2014年度信用企業」として表彰

2014年度、シスメックス無錫が地元江蘇省の食品薬品監督局から「2014年度信用企業」として表彰されました。本表彰は、食品薬品監督局が医療機器の生産に携わる江蘇省の全企業を対象とし、法規制の遵守状況などを評価して選定されます。



シスメックス 無錫

Asia Pacific



安定供給のために シンガポール試薬工場を拡張

シスメックスでは、新興国を中心とした検査ニーズの高まりに応え、試薬を安定的に供給するために、試薬生産能力の拡大に取り組んでいます。2014年度には、地球環境への配慮、高品質・高効率なものづくり、将来の生産品目拡大への対応をコンセプトとして、シンガポール工場のリニューアルを実施しました。今後、同工場では、従来の約3倍にまで対応できるよう段階的に生産能力を拡張していきます。



新試薬工場が入居するビル

生産能力を 約3倍に 増強



工場内の生産エリア

アジア各国で検査の質向上に貢献

シスメックスは、アジアの新興国や途上国の医療インフラの整備や医療水準の向上を支援しています。例えば、現地の政府や学会とともに外部精度管理※などを実施し、検査結果の標準化に貢献しています。2014年度も、モンゴル、タイおよびフィリピンなどの外部精度管理を支援しました。また、現地医療従事者に対して技術的、学術的ノウハウも提供しています。

※ 自施設の検査機器の測定データと他施設や基準器（基準となる測定データを出す機器）の測定データを比較することで測定の精度を検証すること。

2014年度の主な支援内容

モンゴル	●血液分野と生化学分野で各2回外部精度管理を実施 ●外部精度管理支援の継続契約をモンゴル保健省と締結 ●外部精度管理に参加する施設向けのセミナーで講演を実施
タイ	●血液分野で外部精度管理を4回実施 ●外部精度管理に参加する施設向けのセミナーで講演を実施
フィリピン	●外部精度管理を血液分野で3回実施
カンボジア	●血液分野の外部精度管理支援に関する契約をカンボジア保健省と締結

インドネシアで遺伝性血液疾患の 無料検査イベントを開催

インドネシアでは、めまいなどの症状が出る「サラセミア」と呼ばれる血液疾患に多くの人が罹患していますが、軽症の場合は自らの病に気づかないこともあります。そこでシスメックスインドネシアでは、2014年5月に無料検査イベントを実施し、2,000名以上の方々に検査を受けていただきました。



検査イベントの様子

シスメックスのCSR

CSRマネジメント >

グループ企業理念やグローバルコンパクトの10原則などに基づいてCSR活動に取り組んでいます。

CSR中期計画 >

2015年度から2017年度年度までのCSR中期計画を策定し、CSR活動を推進しています。

ステークホルダーとの対話実績 >

ステークホルダーの皆様と直接対話する機会を大切にし、いただいたご意見・ご要望をCSR活動に活かしています。

CSRデータ一覧 >

ステークホルダーや社会貢献活動、環境保全活動に関連するさまざまなデータをご紹介しています。

社外からのCSR評価 >

代表的なSRIインデックスに選定されています。また、さまざま外部団体から、評価・表彰をいただいている。

基本的な考え方

シスメックスのCSRは「Sysmex Way」の実践を通じて皆様に「安心」をお届けすること

シスメックスのCSRとは、シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」の実践を通じて、ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けすることと考えています。「Sysmex Way」は、企業活動の最も基本的なあり方を示したもので、シスメックスが社会に貢献し、そして成長し続けるために必要なMission、Value、Mindの3つの要素で構成しています。Missionでは、創業から取り組んできた検体検査分野を事業の核としながら、より広く、より深く人々の健康に関する「ヘルスケアテスティング」の領域での進化に挑戦し、豊かで、健やかな、歓びに満ちた社会づくりに貢献していくことを表明しています。

さらに「行動基準」では、お客様、従業員、取引先、株主様、社会というそれぞれのステークホルダーの皆様に対する具体的な提供価値を明確にしています。たとえば、社会に対しては、法令遵守はもとより、常に高い倫理観に基づいた事業活動を推進し、社会のすべての皆様に安心をお届けしていくことや、環境問題をはじめ地球や社会が抱えるさまざまな問題の解決に、社会と共に取り組んでいくことを大切にしています。

グローバル・コンパクトの10原則やISO26000を参照してCSR活動を推進

シスメックスは、CSRへの取り組みをさらに積極化するために、2011年2月以降、国連グローバル・コンパクトに参加しています。また、国連グローバル・コンパクトの10原則や、SR(社会的責任)の国際規格ISO26000などを参考し、中期計画を策定してCSR活動に取り組んでいます。

■ 国連グローバル・コンパクトの10原則

人権	1. 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである。 2. 企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
労働	3. 企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持すべきである。 4. 企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである。 5. 企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである。 6. 企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
環境	7. 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである。 8. 企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである。 9. 企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
腐敗防止	10. 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。



企業理念の浸透活動

アメリカ在住の当社執行役員が日本でSysmex Wayをテーマとする講演会を実施

シスメックス アメリカのCEOでもある当社執行役員が日本国内の各部門で「Sysmex Way」の浸透について講演会を実施しました。

当日は、業務とSysmex Wayの関係や、それがお客様にどのような影響をもたらすかを、米州での経験を踏まえて解説しました。講演後には質疑応答が実施され、活発な意見交換が行われました。



講演会の様子

CSR中期計画

CSR中期計画

多様化・高度化する社会の要請・期待に応えるために新たなCSR中期計画を策定

事業のグローバル化やステークホルダーの皆様からの要請・期待の多様化・高度化を受け、2015年5月に新しいCSR中期計画を策定しました。

同計画では、リスクマネジメントやお客様満足度向上など、従来から取り組んでいたテーマについて、グローバルな観点での体制強化を進めます。さらに、魅力的かつ働きやすい職場環境の維持・向上を目指して、従業員満足度の向上についても新たに目標を設定しました。

今後、ステークホルダーの皆様の意見を踏まえて特に重視すべき課題を特定し、取り組みを加速させていく予定です。

■ CSR中期計画(2015～2017年度)

区分	CSR中期課題	施策	具体的展開(2015年度)
組織統治	グローバルリスクマネジメント体制の強化	グローバルリスクマネジメント体制の浸透	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント体制基盤の強化
		グループの重要リスクへの対応強化	<ul style="list-style-type: none"> ・情報漏えい対策の強化 ・グローバルな公正取引の推進 ・事業継続対策のグローバル展開
	コンプライアンス体制の強化	コンプライアンスの徹底および適用拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・公正な取引に関する苦情管理体制の整備 ・コンプライアンス方針の適用範囲拡大
		グローバルコンプライアンス体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家評価に基づく改善策の立案・実施
人権・労働慣行	多様な人材の育成・登用	女性の活躍促進	<ul style="list-style-type: none"> ・女性採用比率の向上 ・女性のキャリアアップ研修実施
		多様なグローバル人材の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人材採用比率の向上
		グローバルタレントマネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材育成プログラムの実施
	魅力的かつ働きやすい職場環境の維持・向上	従業員満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種制度の活用に向けた啓蒙活動の推進
環境	製品・サービスおよび事業所活動の環境負荷の低減	製品・サービスの環境配慮の推進 (グループ目標値エコビジョン2020の目標達成を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・製品・サービスの温室効果ガス排出削減
		事業活動の環境負荷の低減 (グループ目標値エコビジョン2020の目標達成を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー・廃棄物・水資源の使用の低減
公正な事業慣行	CSR調達の推進	CSR調達の継続的推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい調達方針に基づく新規取引先の選定と既存取引先への啓蒙活動実施
消費者課題	顧客満足度の向上	グローバルな顧客満足度評価体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルでの顧客満足度調査の実施
コミュニティへの参画・発展	社会貢献活動の推進	社会貢献方針に基づく企業市民活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動の継続実施 ・社会貢献ポイント制度の推進による従業員ボランティアの拡大

ステークホルダーとの対話実績

2014年度の主な対話実績

お客様との対話

- 各地域で顧客満足度調査を実施(シスメックス(株)と海外各地域のグループ会社)
- 学術セミナーを各地域で開催(シスメックス(株)と海外各地域のグループ会社)
- お客様のフィードバックを取り入れたカスタマートレーニングプログラムを各地域で継続的に実施(シスメックス(株)と海外各地域のグループ会社)
- 製品への正しい知識を伝えるユーザーグループミーティングを開催(シスメックス タイランド)



第37回学術セミナー

従業員との対話

- 全社員を対象とした自己申告制度により、海外勤務の希望の有無や職種の変更を含むキャリア設計に関する希望を調査し、人事ローテーションを行うための情報として活用(シスメックス(株))
- 多様な文化や価値観を持つ人々が集い、日常業務や立場を離れて議論を深め、ネットワークを広げる場として、兵庫県芦屋市に「グローバルコミュニケーションセンター」を開設(シスメックス(株))
- 各事業所で人材開発体系に関する説明会や意見交換会を実施(シスメックス(株))
- 労働組合との団体交渉や、労働環境改善などについて議論する労使協議会を開催(シスメックス(株))
- 労働組合との対話を実施(シスメックス ベトナム、濟南シスメックス、シスメックス 無錫)



東京支店での意見交換会

取引先との対話

- 国内取引先を対象とする「調達方針説明会」を開催し、CSR調達への理解を呼びかけ(シスメックス(株))
- 全組配先を対象として説明会を実施し、医療機器ユニット組立における工程変更を管理することの重要性を共有(シスメックスメディカ)
- 代理店会議を開催し、シスメックスの事業計画などについて説明(シスメックス ロシア)
- ビジネスパートナー・ミーティングを開催(シスメックス アジア・パシフィック)



調達方針説明会

株主・投資家との対話

- 第47回定時株主総会を開催(システムックス(株))
- 機関投資家・アナリスト向けの第12回技術説明会を開催(システムックス(株))
- 個人投資家向けの会社説明会を開催(システムックス(株))
- 株主様向け会社見学会を年2回開催(システムックス(株))



株主様向け会社見学会

地域住民との対話

- 研究開発拠点「テクノパーク」で地域交流イベントを開催(システムックス(株))
- 高校生向け理数系教育イベント「第7回サイエンスフェアin兵庫」に参加(システムックス(株))
- NPO法人の活動の一つである「Aim High Urban Mentoring Initiative」に参加し、地元高校生を支援(システムックス アメリカ)



テクノパークでの地域交流イベント

CSRデータ一覧

CSRデータ一覧

■ お客様関連

項目	2012年度	2013年度	2014年度	関連記事
シスメックス(株)ものづくりトレーニングセンターでの教育受講者数(延べ人数)	669	709	1,000	▶ P13
オンライン精度管理サービスに登録いただいている検査装置の世界累計(台)	23,829	28,723	31,859	▶ P50
シスメックス(株)カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ(件)	95,612	97,085	95,767	▶ P49
シスメックス(株)カスタマーサポートセンターに対するお客様満足度※(%) ※ シスメックス(株)による調査。	86.7	85.3	91.6	▶ P53
米国のお客様満足度※(点／10点満点) ※ シスメックス アメリカによる調査。	9.0	9.1	9.1	▶ P15
米国のお客様満足度※(点／10点満点) ※ IMV ServiceTrackによる調査。	5.42※ ※ 当年度のみ 6点満点	8.95	9.18	▶ P15

■ 従業員関連(すべてシスメックス(株)の実績数値)

項目	2012年度	2013年度	2014年度	関連記事
新卒採用	合計(名)	46	68	61
	うち男性(名)	28	43	40
	うち女性(名)	18	25	21
	うち外国人(名)	5	7	12
中途採用	合計(名)	33	42	69
	うち男性(名)	29	31	47
	うち女性(名)	4	11	22
	うち外国人(名)	2	1	1
離職※ ※ 正社員のみ、定年退職を除く。	離職者(名)	40	29	42
	離職率(%)	3.2	1.4	1.96
障がい者雇用	雇用者数(名)	49	47	47
	雇用率(%)	2.08	1.94	1.86
定年退職者再雇用	希望者(名)	9	16	20
	再雇用者(名)	8	16	20
	再雇用率(%)	89	100	100
育児・介護理由の退職者再雇用	新規登録者(名)	9	3	5
	再雇用者(名)	1	0	1
	再雇用率(%)	11	0	20

正社員への登用実績	契約社員(名)	12	6	15	▶ P65
	派遣社員(名)	1	3	4	
	合計(名)	13	9	19	
労働災害	労災による死亡(名)	0	0	0	▶ P72
	労災によるけが(名)	3	2	3	
	労働災害度数率	0.63	0.41	0.58	
	労働災害強度率	0.01	0.00	0.00	
	延べ労働損失日数(日)	63	2	20	
	延べ実労働時間数(時間)	4,731,407.25	4,895,594.75	5,129,491.25	
有給休暇	付与日数(日)	43,600	45,348	47,000	▶ P69
	取得日数(日)	22,727	22,335.5	22,255.5	
	取得率(%)	52.1	49.3	47.4	
産前産後休職利用者	女性(名)	23	29	48	▶ P69
	男性(名)	0	0	0	
育児休業利用者	女性(名)	25	31	41	▶ P69
	男性(名)	0	1	3	
育児のための勤務時間短縮制度利用者	女性(名)	42	51	50	▶ P69
	男性(名)	0	0	0	
介護休業利用者	女性(名)	0	2	1	▶ P70
	男性(名)	0	1	0	
育児休業からの復帰率	女性(%)	100	100	100	▶ P70
	男性(%)	-	100	100	
積立有給休暇利用者(名)		33	62	26	▶ P69
フレックスタイム利用者(名)		1271	1618	1678	▶ P69
社内託児所利用児童	年間延べ(名)	40	33	34	▶ P69
	年度末時点(名)	27	28	23	
研修実績※ ※ 2013年度分より派遣社員・アルバイト・役員などを除く。	従業員1人当たり費用(円)	100,000	122,396	157,789	▶ P13
	従業員1人当たり時間(時間)	10	10.9	28.2	
	研修プログラム数(個)	13	12	22	
インターンシップ生受け入れ人数	合計(名)	15	29	124	▶ P82
	うち外国人(名)	3	6	3	

注) 定義の変更にともない、過去の開示データから一部修正しています。

項目	2013年度	2014年度	関連記事
女性管理職比率 (課長以上の者)	シスメックス(株)(%)	4.8	▶ P63
	グループ全体(%)	10.6	

項目	2014年度			
グループ 男女比率※1	日本	男性(%)	63	正社員、受入出向者、有期雇用(派遣社員除く)
		女性(%)	37	
	米州	男性(%)	65	正社員、受入出向者、役員
		女性(%)	35	
	EMEA※2	男性(%)	58	正社員、受入出向者、有期雇用者、役員
		女性(%)	42	
中国		男性(%)	61	正社員、受入出向者、役員
		女性(%)	39	
	アジア・ パシフィック	男性(%)	61	正社員、受入出向者、有期雇用者、役員
		女性(%)	39	

※1 ハイフェン バイオメド(HYPHEN Biomed)、シスメックス アイノスティクス(Sysmex Inostics)、シスメックス パルテック(Sysmex Partec)を除く。

※2 欧州・中東・アフリカ地域。

■ 社会貢献活動関連

項目	2014年度			
社会貢献支出額(シスメックス(株))(円)	約324,954,000			
項目	2015年度	関連記事		
世界がん研究基金への寄付額 (EMEA※の各グループ会社)(ユーロ) ※ 欧州・中東・アフリカ地域。	約241,700	▶P12		
項目	2012年度	2013年度	2014年度	関連記事
がん関連団体への寄付額 (シスメックス アメリカ)(ドル)	約78,800	約100,000	約79,000	▶P15

■ 環境保全活動関連 (集計範囲については各関連記事に記載)

項目	2012年度	2013年度	2014年度	関連記事
物流におけるCO ₂ 排出量 トンキロ原単位(t-CO ₂ /千トンキロ)	0.12	0.15	0.14	▶P92
事業所での温室効果ガス排出量 売上高原単位※(t-CO ₂ /億円)	8.63	7.98	7.28	▶P93
事業所のリサイクル率(%)	89.5	88.9	90.3	▶P94
試薬工場での水使用量 生産量原単位(m ³ /千箱)	20.8	22.0	21.4	▶P95

※ 集計範囲の見直しにともない、温室効果ガス排出量売上高原単位については昨年度の報告数値から一部修正しています。

社外からのCSR評価

SRI(社会的責任投資)インデックスへの組み入れ

代表的なSRIインデックスに選定

持続可能な社会の実現に向け、経済的観点だけでなく、環境や社会的公正性といった観点から一定以上のパフォーマンスを示している企業を評価・選別する社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)が注目されています。

システムズ(株)は、代表的なSRIインデックスの一つである「FTSE4Good Index^{※1}」の構成銘柄に2008年度から継続して採用されています。また、2012年度から継続して「Dow Jones Sustainability Indexes^{※2}」のアジア・太平洋版である「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」の構成銘柄に組み入れられています。これに加えて、2011年度よりベルギーのSRI評価団体フォーラム・エティベルによる「Ethibel Excellence^{※3}」に選定されており、2014年度にはその中からさらに優れた企業を選定する銘柄「Ethibel Pioneer^{※3}」にも組み入れされました。

※1 FTSE4Good Index: 英国フィナンシャル・タイムズ紙とロンドン証券取引所の共同出資会社、英国FTSE社が開発・管理しているSRIインデックス。

※2 Dow Jones Sustainability Indexes: 米国のS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス(S&P Dow Jones Indices)社と、スイスのSRIに関する調査専門会社であるロベコSAM(Robeco SAM)社が共同開発したSRIインデックス。

※3 Ethibel Pioneer, Ethibel Excellence: 人権尊重や環境配慮といったCSR上の課題において、一定以上のパフォーマンスを示している企業を選出した株式銘柄群。

MEMBER OF
**Dow Jones
Sustainability Indices**
In Collaboration with RobecoSAM



外部からの評価、表彰

2015年

3月 ・ 第18回環境コミュニケーション大賞において「システムズあんしんレポート2014」が優良賞を受賞

3月 ・ 東洋経済『新入社員に優しいホワイト企業』トップ300』1位に選出

3月 ・ 「Companies That Care Honor Roll 2015[※]」に選出(システムズ アメリカ)

※ Companies That Care Honor Roll : 従業員とその家族、地域社会の幸福に寄与している企業を選出する企業ランキング。NPO「Center for Companies That Care」の調査による

2014年

- 12月 ▪ 日経「NICES」総合ランキング73位/538社
- 10月 ▪ 近畿地方発明表彰において文部科学大臣発明奨励賞(1件)と発明奨励賞(3件)を受賞
- 10月 ▪ 日経「人を活かす会社」総合ランキング30位/439社
- 10月 ▪ 日本証券アナリスト協会「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 8月 ▪ 「自動血球計数装置CC-1001」が「第3回分析機器・科学機器遺産」に認定
- 7月 ▪ 「市民の健康増進・栄養改善思想の向上に寄与」したとして神戸市より表彰
- 6月 ▪ 「直接核酸增幅法の発明」と「液体吸引監視方法」が平成26年度兵庫県発明賞を受賞
- 4月 ▪ 「尿中有形成分分析方法の開発」が平成26年度文部科学大臣表彰の科学技術賞(開発部門)を受賞
- 4月 ▪ バディ工場が地元の環境表彰で1位に(システムズ インド)
- 3月 ▪ 「Companies That Care Honor Roll 2014」に選出(システムズ アメリカ)
- 3月 ▪ 「Great Place to Work」50位/100社(システムズ ヨーロッパ)

2013年

- 12月 ▪ 多項目自動血球分析装置XN-2000とXN用診断薬が、ドイツのデザイン賞「German Design Award」(The German Design Council主催)を受賞
- 11月 ▪ 近畿地方発明表彰において兵庫県発明協会会長賞(1件)と発明奨励賞(3件)を受賞
- 11月 ▪ シカゴトリビューン紙が地域の優れた職場を表彰する「Top Workplaces」の1社に選定(システムズ アメリカ)
- 10月 ▪ 日本証券アナリスト協会「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 10月 ▪ 健康モニタリング装置「ASTRIM FIT」が日本デザイン振興会主催のグッドデザイン賞を受賞
- 7月 ▪ オンラインネットワークサポートサービスSNCS(Sysmex Network Communication Systems)が日経コンピュータ(日経BP社)主催の「IT Japan Award 2013」のグランプリ賞を受賞
- 6月 ▪ 「検体分析装置」と「白血球分類計数方法及び白血球分類計数キット」が兵庫県発明賞を受賞
- 4月 ▪ 「多項目自動血球分析装置における粒子分類計数方法の開発」が平成25年度文部科学大臣表彰の科学技術賞(開発部門)を受賞
- 3月 ▪ 「Companies That Care Honor Roll 2013」に選出(システムズ アメリカ)
- 1月 ▪ 多項目自動血球分析装置XN-2000とXN用診断薬がドイツのデザイン賞「iF product design award 2013」(International Forum Design GmbH主催)を受賞

2012年

- 11月 ▪ 近畿地方発明表彰において日本弁理士会会長奨励賞(1件)、発明奨励賞(3件)を受賞
- 10月 ▪ 日本証券アナリスト協会「個人投資家向け情報提供における優良企業」に選定
- 10月 ▪ 高い従業員満足度が評価され、「2012 Best Places to Work in Healthcare[※]」に選出(システムズ アメリカ)
[※] Best Places to Work in Healthcare: 医療業界から従業員にとって働きがいのある会社を選出・表彰する企業ランキング。業界誌「Modern Healthcare」の調査による
- 8月 ▪ システムズアニュアルレポート2011がアニュアルレポートコンテスト「第26回International ARC Awards」(米国MerComm社主催)で「Bronze賞」(ヘルスケア・テクノロジー部門)を受賞
- 8月 ▪ 売上の急成長が評価され、「Healthcare's Hottest Award[※]」に選出(システムズ アメリカ)
[※] Healthcare's Hottest Award: 医療業界において、2000万ドル以上の年間売上と、継続した成長がある企業が選出される。業界誌「Modern Healthcare」の調査による
- 5月 ▪ 神戸商工会議所での取り組みや地域産業の活性化に貢献されたとして兵庫県功労者表彰(産業振興功労)を受賞
 - 「自動分析装置の分注ピペット洗浄方法」と「自動標本作製装置」が兵庫県発明賞を受賞
- 3月 ▪ 「Companies That Care Honor Roll 2012」に選出(システムズ アメリカ)
- 3月 ▪ 高い従業員満足度が評価され、「Germany's Best Employers 2012[※]」の一社に選定(システムズ ヨーロッパ)
[※] ドイツの調査機関が実施する400社以上を対象とした従業員満足度調査に基づく
- 2月 ▪ サービス品質の高さが評価され、「Achievement in Customer Excellence Award[※]」を受賞(システムズ アメリカ)
[※] 米国MarketTools社による、顧客、従業員、およびパートナー満足について優れた実績を認定するプログラム
- 1月 ▪ 2012年Global 100(世界で最も持続可能な100社)に選出

2011年

- 12月 ▪ 「2011 Best Places to Work in Healthcare」に選出(システムズ アメリカ)
- 11月 ▪ システムズの新たなデザインコンセプト「サイレントデザイン®」を適用した臨床検査システムが高く評価され、「2011年度グッドデザイン賞」を受賞
- 8月 ▪ 「抗ヒトミトコンドリアCK 活性阻害抗体を用いたCK-MB 活性測定試薬『エルシステム・CK-MB』の概要」という内容で、日本臨床化学会から学会賞(技術賞)を受賞
- 5月 ▪ 白血球分類計数方法および試薬に関する技術が、平成23年度全国発明表彰「発明賞」を受賞
- 3月 ▪ 機器生産における取り組みが、社団法人兵庫工業会が主催する「第3回ひょうごものづくり技術大賞」の「兵庫県知事賞」を受賞
- 3月 ▪ 「Companies That Care Honor Roll 2011」に選出(システムズ アメリカ)
- 2月 ▪ システムズテクノパークR&DタワーがCASBEE建築賞(第1回神戸市都市デザイン賞CASBEE建築部門)を受賞
- 1月 ▪ 日経アニュアルリポートアウード2010(日本経済新聞社主催)にて、当社リポートが「構成・デザインともきれいで仕上がったバランスのとれたリポート」として評価していただき、「入賞」を受賞

2010年

- 11月 ▪ 近畿地方発明表彰において特許庁長官奨励賞(1件)、発明奨励賞(3件)を受賞
 - OSNA法がスペインで「Best Ideas in healthcare 2010※」(Diario Médico主催)を受賞
 - ※ 医療専門の日刊紙Diario Médicoが2002年から実施している賞で、医療に関する優れた取り組み・製品・プロジェクトに与えられる。2010年には、506のアイデアの中からシステムズのOSNA法が「研究・薬理学」領域における「Best Ideas in healthcare 2010」に選ばれた
- 10月 ▪ 知財功労賞経済産業大臣表彰を受賞
 - 神戸市環境功労賞を受賞
- 8月 ▪ システムズアニュアルレポート2009が「2009ビジョン・アワード」ヘルスケア部門ゴールド賞を受賞
- 7月 ▪ 全国発明表彰において発明賞を受賞
- 4月 ▪ 兵庫県発明賞を受賞
- 3月 ▪ 「Companies That Care Honor Roll 2010」に選出(システムズ アメリカ)
- 2月 ▪ 「食品廃棄物によるたい肥製造」の取り組みが、「ひょうごバイオマスecoモデル※」として認定(兵庫県主催)
 - ※ 兵庫県下でバイオマスを先導的に利用している取り組みが認定される

2009年

- 10月 ▪ 研究開発拠点テクノパークが「緑の都市賞※」において奨励賞を受賞(財団法人都市緑化基金主催)
 - ※ 緑豊かな都市づくり・街づくりを目指し、樹木や花などの「みどり」を用いた環境の改善などに成果を上げている企業などが表彰される
- 9月 ▪ 研究開発拠点テクノパークが「日経ニューオフィス賞※」において推進賞を受賞
 - ※ 創意と工夫にあふれ、快適かつ機能的、また感性を刺激し創造性を高めるオフィスが表彰される
- 9月 ▪ 外部精度管理調査サポート活動などが評価され、モンゴル国厚生省から名誉表彰を受章
- 4月 ▪ IRサイトが大和インベスター・リレーションズ「インターネットIRサイトの優秀企業580社」に選定
- 3月 ▪ IRサイトがゴメス「IRサイト総合ランキング」で優良企業賞を受賞
- 3月 ▪ 「Companies That Care Honor Roll 2009」に選出(システムズ アメリカ)

2008年

- 12月 ▪ 研究開発拠点テクノパークが神戸市CASBEE※で初めての最高Sクラスの評価
 - ※ CASBEE: 地球環境をはじめ、耐震性、バリアフリー、景観などに配慮した建物に対して評価する制度(建築物総合環境性能評価制度)
- 11月 ▪ 平成20年度近畿地方発明表彰にて「特許庁長官奨励賞」1件と「発明奨励賞」3件を受賞(財団法人発明協会主催)
- 10月 ▪ 「平成20年度こうべ男女いきいき事業所表彰」を受賞(神戸市主催)
- 3月 ▪ あんしんレポート2007が「環境コミュニケーション大賞」にて奨励賞を受賞(環境省主催)

2007年

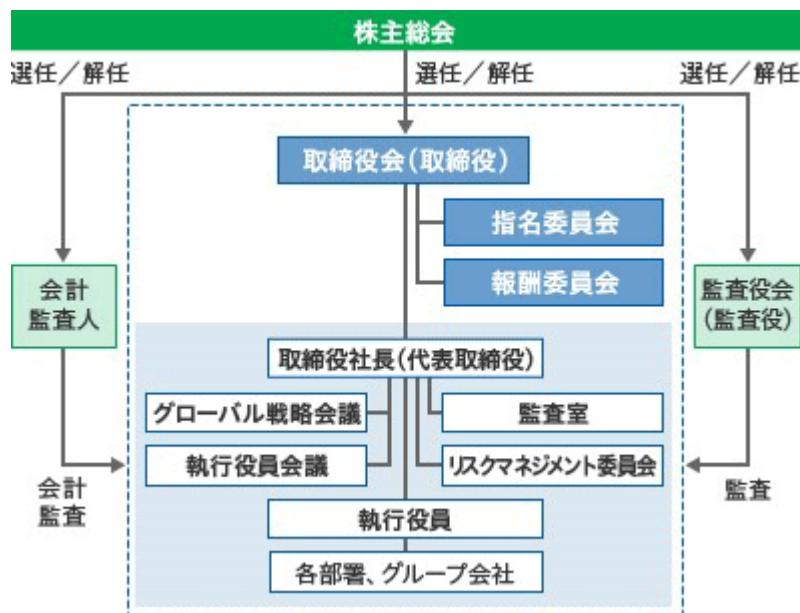
- 12月 ▪ アニュアルレポートが「日経アニュアルリポートアウード2007」にて特別賞を受賞
- 11月 ▪ 平成19年度近畿地方発明表彰にて「支部長賞」1件と「発明奨励賞」2件を受賞(財団法人発明協会主催)
- 4月 ▪ 「血液中の幼若細胞測定用試薬に関する技術」が、平成19年度文部科学大臣表彰を受賞(文部科学省主催)

企業統治の体制

企業統治の体制の概要

当社はコーポレート・ガバナンスの体制として監査役制度を採用しており、現在の経営体制は、取締役9名（うち社外取締役1名）、監査役4名（うち社外監査役2名）、執行役員20名（うち取締役兼任7名）にて構成されています。当社では、業務執行の意思決定スピードを高め、事業環境の変化に迅速に対応するため、2005年4月から執行役員制度を導入しています。

■ 体制図



取締役会は取締役9名で構成し、経営に関する重要事項を審議するため、1カ月に1回の定期取締役会と必要に応じて臨時取締役会を開催します。

グローバル戦略会議は取締役社長と担当執行役員で構成し、グループの経営の方向性や重要な戦略上の課題を審議するため、基本的に毎月1回開催します。

執行役員会議は取締役社長と執行役員で構成し、取締役社長の意思決定のための諮問機関としてグループの業務全般にわたる重要な事項を審議するため、基本的に毎月1回開催します。

この他、グループの業務執行に関する重要な活動の進捗報告を行うグループ経営報告会を取締役社長、執行役員および海外地域統括責任者、国内関係会社責任者、部門責任者で構成し、基本的に3カ月に1回開催します。

また、機能横断的な問題解決を図るために、部門責任者で構成する経営推進会議を毎月1回開催します。

企業統治の体制を採用する理由

当社は、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置づけており、経営の健全性、透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させるため、現状の体制を採用しています。

内部統制システムの整備状況

当社の取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制については、2015年4月22日の取締役会にて決議しています。決議内容は以下のとおりです。

- **取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制**

当社および当社の子会社（以下「当社グループ」といいます。）は、法令遵守とともに、高い倫理観に基づいた正々堂々とした事業活動を行うことをコンプライアンスの定義としており、以下のとおり、その体制を整備します。

当社グループは、コンプライアンス違反を、社会的信用を失墜させる最も重要なリスクととらえ、当社グループ全体のリスク管理体制の下で、コンプライアンスの統括組織としてコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを推進・強化します。また、当社グループの役職員に適用されるグローバルコンプライアンスコードを定め、教育・研修を通じてコンプライアンスを徹底します。さらに、内部通報制度の整備により、当社グループにおける法令または定款違反行為の早期発見と是正を図るとともに、内部監査部門によるコンプライアンス体制の監査などを行います。

- **取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制**

当社グループは、グローバル文書管理規程などを定め、これらに従って、取締役会およびその他の重要会議の議事録など、取締役の職務執行に係る情報を適切に保管および管理し、必要に応じて閲覧可能な状態を相当な期間維持します。

- **損失の危険の管理に関する規程その他の体制**

当社グループは、リスク管理に関する全社的な体制を整備するため、リスク管理に係る規程に則り、当社グループのリスクを統合的に管理するリスクマネジメント委員会を設置して、リスクの軽減などに取り組みます。リスクマネジメント委員会では、想定されるリスクを抽出し、重要なリスクを選定して、リスクに応じた責任部門の明確化と対応策を整備するとともに、当該対応策の実行状況を確認します。

- **取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制**

当社グループは、重要な経営の意思決定および職務執行の監督を行う機関として取締役会を位置づけております。当社は、執行役員制度を導入し、業務執行の意思決定スピードを高め、マネジメント機能を強化することにより、事業環境への迅速な対応を図ります。また、組織規程、職務権限規程、関係会社管理に係る規程などに基づき、当社グループにおける意思決定手続を明確にして、効率的な業務執行を確保するとともに、グループ中期経営計画およびグループ年度経営計画を策定し、これらの進捗状況の定期的な確認と必要な対応を実施します。

- **当該会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制**

当社は、当社グループの役職員に適用されるグローバルコンプライアンスコードに則り、当社グループ全体のコンプライアンスを推進します。また、リスク管理に係る規程に則り、当社グループ全体のリスク管理体制の整備を図るほか、子会社に内部監査部門を配置し、当社の内部監査部門が、地域と全社の観点で当社グループ全体の監査活動を統括します。なお、当社は、関係会社管理に係る規程に基づき、子会社など関係会社の経営の主体性を尊重するとともに、事業内容の定期的な報告を受け、重要案件に関する事前協議などを実施することにより、当社グループ全体の業務の適正を図ります。

- **監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項**

当社の監査役による監査では、内部監査部門の使用人は監査役が必要とする職務を補助します。当社は、監査役からの求めがある場合には、専任の補助使用人を監査役会に設置します。当該補助使用人は、専ら監査役の指揮命令に服するものとし、取締役は、当該補助使用人の人事（任命、異動、懲戒など）については、監査役会と事前協議を行います。

- **監査費用の処理に係る方針に関する事項**

当社は、監査役の職務の執行に必要な費用などを支弁するため、毎年、監査計画に応じた予算を設けます。また、監査役の職務の執行に必要な追加の費用などが生じた場合も適切な手続にて処理します。

- **監査役への報告に関する事項その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制**

当社の監査役は、当社グループの役職員が、法令もしくは定款に違反する事実または当社グループに著しい損害を与えるおそれのある事実を発見したときは、当該事実に関する事項について、所定の規程・手続に従つて、速やかに報告を受けます。また、取締役会などの重要な会議に出席するとともに、稟議書などの重要な文書を閲覧し、必要に応じ当社グループの取締役および使用人に報告を求めることができます。当社は、当社グループの役職員が上記各報告をしたことを理由として、当該役職員につき解雇その他不利益な取扱いを行うことを禁止します。

内部監査および監査役監査の状況

監査室は10名で構成し、内部統制、管理状況および執行状況をグループの健全な発展という観点から確認・評価を行い、その結果に基づく情報の提供ならびに改善・助言・提案などを通じて業務の適正な執行を推進し、グループの健全経営に寄与するように内部監査を行っています。

監査役会は、監査役4名のうち2名を社外監査役として選任しています。監査役は、取締役会および執行役員会議に出席し、取締役の職務執行を適正に監視できる体制をとっています。また、監査役は、監査室と必要な都度相互の情報交換・意見交換を行うなど連携を密にすることで業務の適正な執行状況を確認・評価しています。今後も、監査役会による法令に基づいた適正な業務執行の監視を行い、経営の健全性を高めていきます。

なお、会計監査人とは、会計監査計画報告(年次)および会計監査結果報告(年次)の他、財務報告に係る内部統制監査実施など必要な都度、相互の情報交換・意見交換を行うなど連携を密に行ってています。公認会計士監査については、有限責任監査法人トーマツと契約を締結しています。当社グループ全体に対する監査を実施するとともに、会計制度の変更などにも迅速に対応できる環境を整備しています。また、複数の弁護士事務所と顧問契約を締結しており、重要な事項について必要に応じアドバイスを受ける体制をとっています。

社外取締役および社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名です。

社外取締役である西浦進は、企業経営などの豊富な経験と幅広い見識を有しており、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと考えています。西浦取締役は、当社の取引先であるTOA株式会社の出身ですが、2010年6月に同社取締役を退任しています。なお、当社と同社との間に特別な関係はありません。西浦取締役は、一般株主との利益相反が生じる恐れがないことから、独立役員として東京証券取引所に届け出ています。また、西浦取締役と当社との間に取引関係、その他利害関係はありません。

社外監査役である前仲邦昭は、公認会計士としての財務・会計に関する専門的知識を有しており、経営の健全性、透明性を確保するために重要な職責を担っていただけるものと考えています。前仲監査役は、当社が公認会計士監査の契約を締結している有限責任監査法人トーマツの出身ですが、2010年9月に同監査法人を退職しており、在籍時も当社の会計監査に直接関与していません。なお、前仲監査役は、2015年3月末時点において、当社株式を4千株保有していますが、重要性はないものと判断しています。

社外監査役である大西功一は、経営者としての豊富な経験と幅広い知識を当社の監査に反映していただけるものと考えています。大西監査役は、日本高周波鋼業株式会社に所属していますが、当社と同社との間に特別な関係はありません。

社外監査役2名は、一般株主との利益相反が生じる恐れがないことから、独立役員として東京証券取引所に届け出ています。また、当該社外監査役と当社との間に取引関係、その他利害関係はありません。

社外取締役、社外監査役は、取締役会および監査役会などに出席する一方、社内の各種データベースにアクセスすることにより、必要な情報を入手しています。また、社外監査役は、監査役会において意見交換を行っているほか、必要に応じて情報交換を行うことができ、十分な情報のもと有効な監査を行う体制が整っています。

当社は、社外取締役または社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針として明確に定めたものはありませんが、選任にあたっては、東京証券取引所の「独立役員の独立性に関する判断基準」を参考にし、各人の経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で社外役員として職務を遂行できる十分な独立性を確保できることを個別に判断しています。

社外取締役・社外監査役メッセージ



社外取締役
西浦 進

執行役員会議では、白熱した前向きな議論が活発に行われており、取締役会では執行役員会議での検討結果を受けて的確に結論が下されています。発言の際は、企業価値向上のための、売上拡大、利益確保、成長投資の妥当性に対して十分配慮がなされているかという観点を重視しています。

長期経営目標のポジショニングおよび2015年度からの中期計画の内容は、さらなる事業規模拡大を目指しています。そのために、大型な成長投資も出てくると思いますが、その投資効果と収益性のチェックを重視して業務を遂行しています。また、シスメックスは近年グローバル化、業容拡大が急速に進んでおり、社内ルールや、仕組みの再設定が必要不可欠になっています。そこで、社外取締役として、内部統制システム、特にコンプライアンス、リスクマネジメントを重視して業務遂行していきたいと考えています。



社外監査役
前仲 邦昭

社外監査役としての私の役割は、経営意思決定プロセスや下された結論の妥当性を第三者的、株主的視点で客観的に見ること、これまで社内にはなかった新鮮なカルチャーや経営マインドを吹き込むことなどを考えています。

特に海外市場や海外の利害関係者は我が社の経営をどう見ているのか、彼らの期待に応える行動を取っているか、ワールドワイドでの社会的責任をきちんと果たしているのかという視点を中心に、もっぱら海外のビジネス界で勤務した会計士としての経験をもとに発言・行動しています。今後も、厳しい眼を持つ海外・国内のステークホルダーにきちんと説明できる経営がなされているか、企業価値向上に資する経営ができているかという観点から、量的・質的発展の段階で起こりがちなリスクへの適切な対応や、内部管理面でのほころびの芽を事前に摘み取る観点から業務を遂行してまいりたいと考えています。



社外監査役
大西 功一

今年は就任一年目ということもあり、シスメックスの実態把握に多くの時間を費やしました。国内の各支店、営業所、グループ会社を回り、自分の意見が空理空論に陥らぬよう、現場、現実、現物の三現主義を心掛けています。

執行役員会議・取締役会では、社内の人にとっては常識になっていることでも、ガバナンス、コンプライアンスの観点を重視しながら積極的に質問するよう心掛けています。急成長の会社らしく、全員が攻めの姿勢に徹しておられ、すごいパワーを感じていますが、拡大する戦線に、規程類の整備などの守りの整備もより一層整備する必要があります。今後も社外の目を持ち続け、企業価値向上に向けて、企業統治やコンプライアンスの徹底に尽力していきます。

役員報酬の内容

■ 役員区分ごとの役員報酬などの総額、報酬などの種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬などの 総額 (百万円)	報酬などの種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	799	236	125	437	-	8
監査役 (社外監査役を除く)	36	36	-	-	-	2
社外役員	11	11	-	-	-	4

■ 報酬などの総額が1億円以上である者の報酬などの総額など

氏名	役員区分	会社区分	報酬などの種類別の額(百万円)				報酬などの 総額 (百万円)
			基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
家次 恒	取締役	システムズ 株式会社	59	43	191	-	293

役員の報酬などの額またはその算定方法の決定に関する方針の内容および決定方法

当社の役員の報酬などの額またはその算定方法の決定に関する方針は、成果責任を明確にした業績連動型の報酬制度です。取締役の報酬を固定報酬と変動報酬に大別し、固定報酬については役位をもとに決定、変動報酬については成果に応じて配分しています。なお、監査役については固定報酬のみです。報酬額は報酬委員会にて審議した後、取締役会に上程し決定しています。

コンプライアンス

コンプライアンス体制

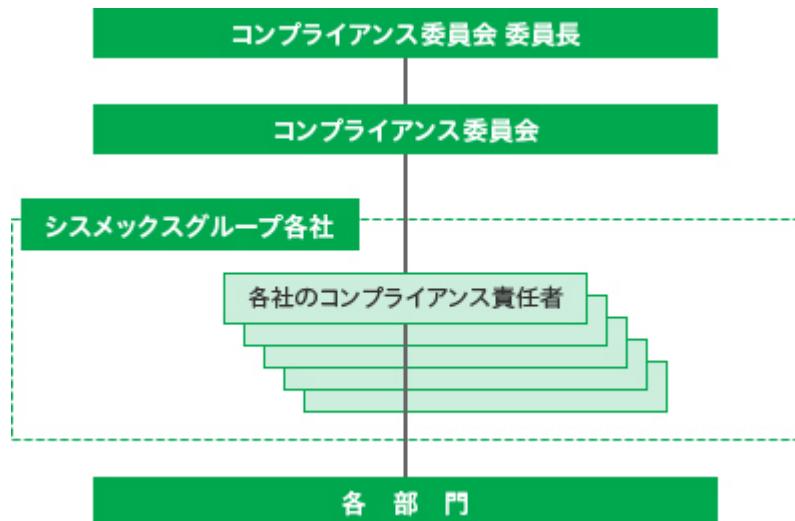
「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、グループ企業理念である「Sysmex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義し、グループの全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定しています。さまざまな教育機会において同コードの周知を図り、各国・地域の法令を遵守した事業活動に努めています。

2013年10月には、コンプライアンスの体制を見直し、リスクマネジメント委員会から独立して、「コンプライアンス委員会」を設置しました。また、グループのコンプライアンス統括責任者と関係会社のコンプライアンス責任者との連携を強化してコンプライアンスを推進できる体制にしました。2014年5月にはグローバルコンプライアンスコードの内容を見直し、研究開発に関する倫理、贈収賄禁止、世界人権宣言など配慮すべき国際規範の支持や研究開発に関する考え方などを追記しています。また、社内外の環境変化などに対応するため、原則として2年に一度見直しを行うことを附則に明記しました。

また、グローバルコンプライアンスコードの「2. 公正な取引と自由な競争の促進」および「9. 社会との健全な関係の保持」について、より詳細かつ具体的に展開した「シスメックスプロモーションコード」も制定し、啓発活動に努めています。

■ コンプライアンス体制



グローバルコンプライアンスコード

1. お客様への安全と安心の提供

私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。

2. 公正な取引と自由な競争の推進

私たちは、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守し、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。

3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底

私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、各国・地域の関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。

4. 適正な研究開発活動の実施

私たちは、研究開発を行うにあたっては、被験者の尊厳及び人権を守るとともに、遺伝子や他の研究におけるプライバシーを保護し、各国・地域の関連する法令等を遵守するとともに高い倫理観をもって活動を行います。

5. 知的財産権の尊重

私たちは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりいたしません。

6. 國際的な平和と安全の維持

私たちは、各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。

7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

9. 公私のけじめと利益相反行為の禁止

私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品ならびに情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。

10. 社会との健全な関係の保持

私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。

11. 地球環境の保護

私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、各国・地域の環境に関する国際基準等にもとづき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

2014年05月改定

グループのコンプライアンス推進体制と運用状況について外部機関による評価を実施

社会情勢や各種の法規制を踏まえて、コンプライアンスに関する取り組みや規程の妥当性を確かめ、必要に応じて内容の見直しなどを行っています。2014年度には、コンプライアンス推進体制の強化を目的として、取り組みの基本となる「グローバルコンプライアンス規程」を改訂しました。また、グループのコンプライアンス推進体制と運用状況について、外部機関による評価を実施しました。この結果をもとに課題を抽出し、改善を検討していきます。

また、製品についても、設計などが法規制に違反していないかを適宜検証しています。2014年度には、薬事申請を行っている製品について、設計が申請内容と整合しているかを確認するため、チェックリストを作成し、整合性の確認を完了しました。

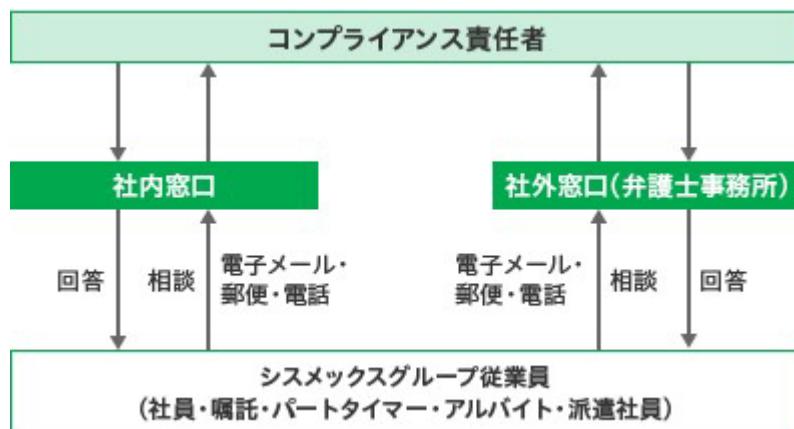
内部通報制度を設置

コンプライアンス上の問題があれば原則として職制で解決することとしていますが、職制での解決が難しい場合は「カンパニュラライン」を利用し、早期に解決を図るようにしています。「カンパニュラライン」では、社内・社外の2つの窓口で、電子メール、郵便、電話による相談や通報を受け付けています。

寄せられた情報は匿名で取り扱い、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。また、海外グループ会社でも内部通報制度を設置しています。

なお、国内グループ会社において、2014年度は17件の相談が寄せられました。それぞれの相談案件に対し、事実調査を行った上で適切に対処しました。

■ 内部通報制度「カンパニュラライン」



コンプライアンス教育

コンプライアンス教育を継続して実施

グループ各社にコンプライアンス責任者を設置し、コンプライアンス教育を実施しています。国内グループ会社では、入社した従業員に「コンプライアンスハンドブック」を配付し、全従業員への周知・浸透を図っています。国内グループ会社では、定期的なコンプライアンス教育に加え、毎年重点テーマを設定し、各テーマに関連する部門に対して教育を実施しています。2014年度は、「グローバルコンプライアンスコード」「公正な取引推進」「医療機関等との関係の透明性確保」に関する教育を実施しました。特にグローバルコンプライアンスコードについては、理解促進を図るべく新たに動画教材を作成しました。

一方、海外グループ会社については、各国の状況に合わせてコンプライアンス教育を実施しています。

■ 2014年度の主なコンプライアンス教育実績(国内)

- (1)「グローバルコンプライアンスコード」関連
 - eラーニングを実施
 - 理解促進用ツールとしての動画教材の作成
- (2)「公正な取引推進」関連
 - 贈収賄禁止法に関するeラーニングを実施
 - シスメックスプロモーションコードの改定内容をシスメックスTMC、シスメックスCNAに説明
- (3)「医療機関等との関係の透明性確保」関連
 - 海外事業推進本部にてサンシャイン法※
 - 透明性ガイドラインに関する研修を実施

※ サンシャイン法：ヘルスケア関連企業に対して医師や医師教育病院への支払いに関する情報公開を義務づける法律の通称。米国、フランスなどで制定されている。

■ 2014年度の主なコンプライアンス教育実績(海外)

- 济南 シスメックス(中国)：業務改善に関する研修の中でコンプライアンス教育を実施
- シスメックス 無錫(中国)：全社員を対象とするコンプライアンス教育を実施
- シスメックス アジア・パシフィック：業務改善に関する研修を実施
- シスメックス インドネシア：新入社員の入社時のほか、年間を通じてコンプライアンス教育の機会を提供

医療機器関連法規制体系に関する講演会を開催

グローバルにコンプライアンスを推進していくためには、製品の販売先である海外各国の法規制について知ることも重要です。

シスメックスでは、2014年12月、中国での薬事申請の際に実地試験を実施する北京市医療器械検査所(BIMT)のメンバーが研修にて来日された際、講演会を実施しました。当日は薬事部門、開発部門などから80名以上が参加。中国の薬事法を中心に、近年改正された内容についての講話を聴講したあと、質疑応答で活発に意見を交わしました。



講演会の様子

安全保障貿易

安全保障貿易の管理体制を整備

シスメックスは、社内管理規程を制定し、管轄官庁である経済産業省に承認登録されています。さらにコンプライアンス委員会の下部組織として安全保障貿易管理委員会を設け、その社内管理規程に基づいた、貿易管理の強化と輸出先や貿易貨物・技術の使用用途の確認を徹底しています。

講習会やeラーニングを実施することで、安全保障貿易ならびに米国再輸出規制に対する意識向上を図り、さらに監査を実施し、管理を徹底しています。また、グループ全体の安全保障管理体制を強化するために、海外の統括現地法人にERPシステム(統合基幹業務システム)と連携する管理システムを導入し、管理の徹底と効率化を推進しています。

知的財産権の尊重

シスメックスは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。新製品の開発プロジェクトごとに、自社の知的財産を確保するための出願活動や第三者の知的財産情報について、パテントレビューにて審議しています。その中で知的財産部門の担当者と研究開発者をメンバーとする「出願検討会」を開催して、開発中の技術に関して特許出願の方針、計画を立案しています。また、第三者の知的財産権を調査し、知的財産に関わるリスクを低減しています。

研究倫理

適正な研究開発活動の実施

シスメックスは、臨床研究開発やヒトゲノム・遺伝子の解析研究に取り組む企業として、「人間の尊厳の尊重」「個人情報の保護の徹底」などを基本方針とする「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社Webサイトで公開し、透明性を確保しています。

また、動物実験および遺伝子組換え実験に関しても、「実験管理委員会」を設置し、実験計画が関連法規制に準拠しているかを厳格に審議しています。

贈収賄の防止

国内外の関係法令の遵守を推進

シスメックスは、グローバル・コンパクトの10原則の一つである「10.企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の実践に努めています。

国内の関係法令だけでなく、米国や英国、中国などの主要国の法令に関する解説書を作成し、周知啓発活動を行なっています。

税の透明性

適切な納税を実施し、情報を開示

シスメックス(株)は、グローバルコンプライアンスコードにおいて「7. 適切な会計処理と納税の実施」について定めています。また、海外のグループ会社間取引価格については、国際的なコンセンサスであるOECDガイドラインなどに従って算定しています。

有価証券報告書などにおいて、グループとしての法人税などの納税額を開示するとともに、法定実効税率との差異要因などの情報も開示しています。

グローバルコンプライアンスコード(抜粋)

7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

7-1 適切な税務処理

国内外の租税や外国為替関連法令等を遵守し、常にその正しい理解に努め、適切な税務処理を行わねばならない。

7-2 適正な会計処理

売上計上や経費の支出等の会計処理は、関連法令や社内規定を遵守して適正に行わねばならない。また、伝票や帳簿その他の会計記録は正確に記載し、虚偽や偽装などの不正な処理を行ってはならない。

7-3 公正・透明な財務諸表の作成

財務諸表は、会社法ならびに関連する法令等を遵守し、公正かつ透明に作成しなければならず、決して粉飾決算等の不正な行為を行ってはならない。

医療機関等との関係の透明性に関する指針

はじめに

シスメックスは、「ヘルスケアの進化をデザインする。」をグループ企業理念に掲げ、お客様をはじめとする、さまざまなステークホルダーの皆様に安心をお届けすることを目指して事業活動に取り組んでいます。当社では、研究開発から生産、販売、サービス＆サポートに至るまでのすべての段階で、医療機関・医療関係者の皆様と連携する機会が増えており、私たちの事業活動が高い倫理観に基づいて行われていることを、広く社会からご理解をいただくことが重要であると考えています。

2012年に、一般社団法人日本臨床検査薬協会において企業活動と医療機関等の関係の透明性を確保するためのガイドラインが制定されましたので、会員企業であるシスメックス(株)、シスメックス国際試薬(株)もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開していきます。

公開方法

当社 Webサイト等を通じて、前年度分の関連情報について公開します。

公開時期

2013年度分を最初の対象として、2014年度に公開しました。

公開対象

一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」に基づきます。

リスクマネジメント

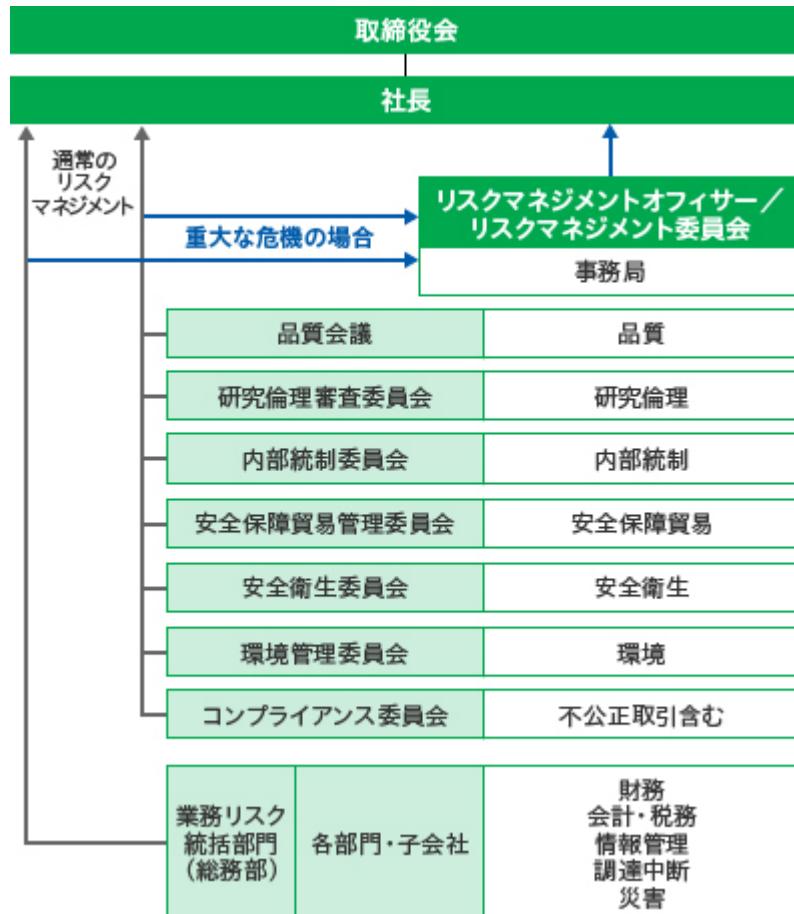
リスクマネジメント体制

委員会を設置してリスクマネジメントを推進

グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、最高責任者「リスクマネジメントオフィサー(RMオフィサー)」を委員長とする「リスクマネジメント委員会」(RM委員会)を設置しています。RMオフィサーはシステムズ(株)の専務執行役員が務めており、RM委員会においてグループとして事業に与える影響が大きい重要リスクの特定や、各部門・関係会社が実施したリスク対策・モニタリング結果を継続して監視しています。

通常のリスクマネジメントに関してはRM委員会以外の各委員会および部門・関係会社が自律的に業務リスクに対応し、RM委員会ではグループの重要リスクに対応するよう、責任と役割を明確にしており、迅速かつ確実にリスク対応が行われるリスクマネジメント体制になっています。

■ リスクマネジメント体制



緊急時に迅速に対応できる体制を構築

シスメックスでは、事業継続計画の策定や災害対応に関する規程の制定を行い、緊急時に迅速に対応できる体制を整えています。また、緊急連絡手段としてシスメックス(株)で導入している「安否確認ツール」を国内関係会社にも導入し、グループ間での安否確認を迅速に行える体制を整えています。国内関係会社を含むグループの事業所では、定期的に防災訓練を実施し、災害時にとるべき行動の浸透を図っています。

シスメックス(株)が運用するグループのIT基幹システムについては、災害などに強い社外データセンターに配置するとともに、万一、災害等の発生時に通常稼働しているシステムがダウンした場合でも、速やかにバックアップシステムへ処理を移行できるように、ITシステム基盤を構築しています。

情報セキュリティー

意識向上とルールの運用定着を目的とする研修を継続的に実施

シスメックスでは、お客様や研究開発などの実験に協力いただいた方々からお預かりしている情報など、重要な企業秘密を保持していることから、企業秘密の漏えいをグループにとって重要なリスクの一つとみなし、その顕在化防止に取り組んでいます。

そのため、シスメックス(株)と国内関係会社では、本部長以下の全従業員を対象として、情報管理の重要性に対する意識向上と企業秘密管理ルールの運用定着を目的とする研修を継続的に実施しています。2014年度には、企業秘密管理に関するeラーニングを実施したほか、東日本・西日本営業本部の係長・課長を対象として、個人情報保護に関する研修を行いました。

ステークホルダーとの関わり



お客様との関わり

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。



株主様との関わり

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様に安心を届けます。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。



取引先との関わり

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。



従業員との関わり

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

お客様との関わり

— 行動基準 —

常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。



品質・安全性の確保 >

グローバルなマネジメント体制を構築し、製品・サービスの品質・安全性の確保に取り組んでいます。

安定的な供給 >

グローバルな検査ニーズの高まりにお応えしていくために、検査機器・試薬の供給体制強化を推進しています。

医療課題解決への貢献 >

先進の技術をベースとして革新的な製品やサービスを生み出し、さまざまな医療課題の解決に貢献しています。

サービス＆サポート／学術活動 >

きめ細やかなサービス&サポートを提供するとともに充実した学術情報を発信し、お客様の業務効率向上を支援しています。

お客様満足度・社外評価の向上 >

お客様満足度調査を実施し、収集したお客様のご意見・ご要望を製品・サービスの開発・改善に活かしています。

品質・安全性の確保

品質の確保

品質方針

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、
豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

- お客様のニーズを把握し、お客様の期待を超える製品やソリューションを提供します。
- 品質とは顧客満足であるという認識のもと、お客様の立場に立って行動します。
- お客様に安心していただくために、徹底した品質保証とあらゆる業務における質の向上に努めます。
- 独創的な新しい技術とナレッジによって、新たな価値を創り続けます。
- 使用される国または地域の法令、規格等を遵守し、安全な製品を提供します。
- 品質マネジメントシステムの有効性を維持するとともに継続的な改善を図ります。
- 品質方針から品質目標を設定し、目標達成に向けて計画的に取り組みます。

2007年5月改定

グローバルな品質マネジメントシステム

シスメックスでは、「品質方針」「行動基準」および「シスメックスコード レーション品質コンプライアンス方針」に基づき、国際的な法令、規格などを遵守するための体制を整備し、活動しています。

品質マネジメントシステムについては、開発・生産機能を持つほぼすべてのグループ会社で国際規格ISO9001またはISO13485※1に則ったマネジメントシステムを構築しており、グループ全57社中、ISO9001は31社、ISO13485は18社が認証を取得しています。これらのマネジメントシステムが確実に運用されていることを確認するために主要なグループ会社の品質活動についてマネジメントレビューや品質監査を実施しています。教育については、全従業員を対象とした品質方針教育に加えて、特定の部門・職種を対象とした専門的な品質教育も実施しています。2014年度は、品質苦情処理や製品回収に関する教育、また中国で適用される法規制に関する教育などを実施しました。

さらに、グループ全体で品質に関する情報を共有し、体制を強化するために、毎年1回、シスメックス(株)と、米州、EMEA※2、中国、アジア・パシフィックの各統括現地法人や関係会社から品質関連部門の担当者が参加する「グローバルRAQA(レギュラトリー・アフェアズ・クオリティ・アシュアランス)会議」を開催しています。2014年度の会議は10月に日本で実施し、各地域の統括現地法人および海外関連会社の薬事部門、品質保証部門のメンバーが参加しました。参加者は部門ごとのディスカッションや工場見学などを通じて、最新の品質保証に関する認識を共有しました。



品質教育



グローバルRAQA会議でのセッション

※1 医療機器産業向けの品質マネジメントシステム規格。

※2 欧州、中東、アフリカ地域。

製品品質を維持・向上するためのしくみを強化

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守るうえで極めて重要な役割を果たしています。そのため、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全規格を満たすことはもちろん、さまざまなしくみを構築して、製品品質の維持・向上を図っています。

2014年度には、品質管理強化を目的として機器の生産に関する業務基準の制定・改定を行ったほか、生産ラインでの品質改善活動を強化するため、「QMS強化プロジェクト」を新設しました。また、シスメックス ヨーロッパの試薬工場で、地元ドイツの医薬品法における「GMP(製造品質管理基準)」への準拠を完了させました。

新製品の開発においては、市場に導入するまでのプロセスにおいて5つの「クオリティ・ゲート」を設けて品質を確認しています。このほか、シスメックスが販売する他社製品についても製造業者への監査や製品の検査を実施し、品質確保に努めています。こうした取り組みに加えて、万一不具合などがあった際には、すぐにそれを把握し、対応できるよう体制を整えています。

2011年4月から導入したグローバル品質苦情処理システムによって、グローバルかつタイムリーに市場から品質情報を収集しています。不具合情報を入手した際は、直ちに原因を究明し不具合品の市場流出を防止しています。また、こうした不具合情報や是正処置・予防処置をグローバルに共有しています。

ICHビジネスユニット(ICH-BU)への品質教育に注力

シスメックスの3つのビジネスユニットのなかでも、ICH※ビジネスユニット(ICH-BU)が取り扱う製品には、高度な診断や治療を行うための医療判断に用いられるものが少なくありません。信頼性の高い製品を提供し続けるため、シスメックスでは本ビジネスユニットで働く従業員、なかでも技術者への品質教育を徹底しています。

2014年度には、ICH-BUに所属する初級技術者を対象として、「品質を意識した設計」をテーマとした集合教育を実施。「基礎編」5回と「実践応用編」4回からなるプログラムで、「製品評価(妥当性評価)」「品質特性設計」について正しい理解を促しました。また、2015年1月にはICH-BUの社員全員を対象とする集合教育を行い、医療に関わる製品の品質向上の重要性や、リスクマネジメントに基づく製品設計の考え方を伝えました。



集合教育の様子

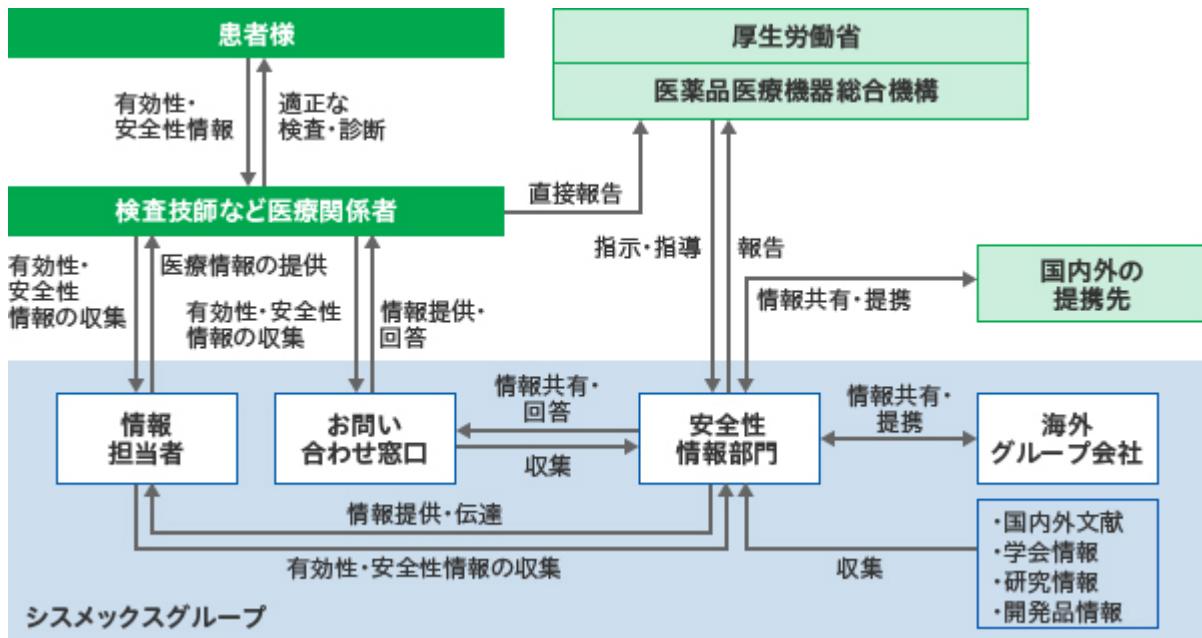
※ Immunochemistry testing: 免疫検査、Clinical chemistry testing: 生化学検査、Hemostasis testing: 血液凝固検査の頭文字。

品質・安全性に関する情報

お客様からの情報を社内で共有化

シスメックスは、製品の品質と安全性に関する情報を管理する安全性情報部門を設置しています。お客様などから寄せられた品質や安全性に関する情報を調査・分析し、その結果をお客様にお伝えするとともに、当社設計・製造部門などの関連部門と共有することで、品質の改善や新製品の開発などに活かしています。

■ 製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



Webサイトで回収・改修の情報を開示

シスメックスでは、製品の回収・改修などの情報を「製品に関する重要なお知らせ」としWebサイトに掲載しています。

偽装試薬の積極的な取締まり

シスメックスでは、正確な検査結果を確保するために、医療機関のお客様には純正の装置と試薬のセットで使用いただくようお願いしています。近年、一部の地域でシスメックス製試薬を偽装した試薬の流通が発見されています。これら偽装試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が確保できず、場合によっては患者様に健康被害をもたらす危険性もあります。

こうした偽装試薬の市場流通状況を継続的に監視しており、偽装試薬を発見した場合は、現地の行政機関や司法機関を通じて徹底的に取締まりを実施しています。また現地の新聞に広告を掲載し、医療機関が偽装試薬を使用しないよう注意喚起しています。

サービス&サポート／学術活動

サービス&サポート

お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

シスメックス(株)では、日本国内のお客様のための相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、365日24時間体制(別途契約が必要)でお問い合わせに対応しています。同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。

昨年度発足したVOC(voice of customer)グループでは、2014年度、国内市場より約12,000件のお客様の声を収集し分析を行いました。結果は関係部門へフィードバックし、新たな製品開発や業務改善に活用されています。今後は、活動範囲をグローバルに展開していきます。

■ カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ内容の内訳

その他 14.3%

苦情 0.2%

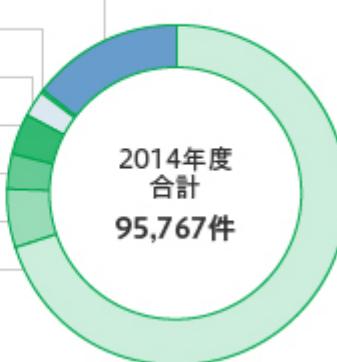
データに関するお問い合わせ 2.5%

操作に関するお問い合わせ 4.1%

精度管理に関するお問い合わせ 3.1%

商品に関するお問い合わせ 5.6%

修理・メンテナンスのご依頼 70.2%



カスタマーサポートセンターでのお問い合わせ対応

お客様の日々の精度管理をサポート

病院などの医療機関では、毎日の検査データの信頼性を確保するために検査装置・試薬の精度を日々管理しています。一般には「コントロール」と呼ばれる専用の試料を測定し、その結果を参考値ならびに日々の測定結果と比較することによって、検査装置・試薬の状態をチェックします。シスメックスは、このコントロールを提供してお客様の精度管理をサポートしています。さらに、お客様のもとにある検査装置と、当社のカスタマーサポートセンターをオンラインで結ぶSNCS(Sysmex Network Communication Systems)を構築しています。カスタマーサポートセンターでは、このSNCSを通じてお客様の検査装置から送られてくるコントロールの測定値を受信し、同じ検査装置の結果の集計や比較を行い、データ異常の予兆を察知・判定して結果を返信するサービスを提供しています。

また、動作回数やメンテナンス時期、装置各部のセンサー情報をベースに、トラブル発生を予防するサービスを実施しています。

サービス&サポートグローバルミーティングを開催

シスメックスは、サービス&サポートにおける課題や考え方をグローバルで共有することを目的として、「サービス&サポートグローバルミーティング」を2014年10月に開催しました。

当日は海外統括現地法人を含む8つの地域から、実務責任者44名が参加。「自動血球分析装置『XNシリーズ』の販売に伴う顧客サポート」と「SNCSサービスの提供」をテーマとしたワークショップを通して、各地での課題や、それぞれが顧客に提供すべきと考えている価値について情報を共有し、活発な議論がなされました。

さらにSNCSに関しては、グローバルでの情報共有を目的とする「グローバルSNCSチーム」と、直近で取り組むべき重点課題に共同で取り組むワーキンググループを発足し、一丸となってサービス向上に取り組んでいくことを決定しました。今後も地域を越えた密接なコミュニケーションを続け、グループ全体でサービス&サポートの質向上を図っていきます。



ミーティングの様子

精度管理の質を向上するため、ISOを活用

シスメックス(株)は、2013年度に、当社が提供している血球分析装置の校正サービスについてISO/IEC 17025※1の認定を取得しました。また、SNCS※2あるいはeQAPi※3にて、一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、その他の検査における外部精度管理サービスを提供していますが、こちらは臨床検査分野のみならず全産業分野で国内初となるISO/IEC 17043※4の認定を取得しました。これによって国際規格で認定された校正機関および外部精度管理(技能試験)提供者として、お客様により価値の高いサービスを提供しています。

2014年度には、約640台の血球分析装置に対してISO/IEC 17025に基づく校正を実施し、国際基準測定法に対してトレーサブル※5であることを保証する認定シンボルマーク付き校正証明書を発行しました。また、ISO/IEC 17043の認定エリアを拡大し、日本国内に加えてヨーロッパ、アフリカ、中東、台湾でもISO/IEC 17043に準拠した報告書を発行することが可能になりました。今後もエリア拡大を進めていきます。

※1 ISO/IEC 17025:「試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項」の国際規格。

※2 SNCS:上記記事「お客様の日々の精度管理をサポート」参照。

※3 eQAPi:大規模なリアルタイム外部精度管理サービス。リアルタイムに測定データの判定結果が得られ、日常検査の精度向上に役立てられる。

※4 ISO/IEC 17043:「適合性評価-技能試験に対する一般要求事項」の国際規格。

※5 トレーサブル:「ある計測器を校正する際に用いる計測器や実量器は、より上位の計量標準に基づいて校正されている」ということを前提にして、その校正の過程を一次標準である国家標準や国際基準まで明確にさかのぼることができる状態。

■ オンライン精度管理サービス(SNCS、eQAPi)に登録いただいている検査装置の世界累計



海外事例(ヨーロッパ) : ベルギーのトレーニングセンターがISO29990の認証を取得

2014年度、シスメックス ベルギーのトレーニングセンターが国際規格ISO29990の認証を取得しました。この規格は非公式の教育・訓練を行う学習サービスについて、そのプログラムや教育者の質が一定の水準を満たしていることを保証する国際規格です。これまでに、シスメックス ネザーランド(オランダ)でもこの規格の認証を取得しています。

学術活動

医療従事者向けの学術セミナーを開催

シスメックスは、医師や臨床検査技師などの医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会を開催し、学術情報を発信しています。

2014年6月には、札幌・東京・神戸・福岡の4会場を衛星中継で結び、第37回シスメックス学術セミナーを開催しました。今回のテーマは「進化し続ける疾患バイオマーカー～疾患バイオマーカー研究の最前線 バイオマーカーによってがん診療が変わる～」であり、825名の方々にご参加いただきました。



第37回学術セミナー

学術雑誌の発行

シスメックスでは、「シスメックスジャーナル」(日本語版)、「シスメックスジャーナル・インターナショナル」(英語版、中国語版)を、世界100カ国以上の医療機関や大学図書館に配布し、多くの医療関係者の方々に臨床医学および検査に関する最新の情報を発信しています。

海外事例(アジア) : 韓国、マレーシア、ベトナムで学術セミナーを開催

シスメックスは、中国以外のアジア各国でも学術セミナーを開催しています。2014年度は韓国、マレーシア、ベトナムで実施しました。

なかでも韓国では2014年12月、2015年2月にソウルでセミナーを開催。特に後者では、韓国全土から臨床検査専門の医師100名に参加いただき、血液学などの最新トピックについての講演などを実施しました。参加者からは内容・雰囲気ともに昨年度より良いとのコメントをいただいています。



マレーシアで開催した学術セミナー

海外事例(ベトナム) : お客様の学術イベントを支援

シスメックス ベトナムでは、お客様に当社の製品の使い方などを正しく学んでいただくためにセミナーなどを実施しています。これに加えて、血液学など当社が知見を有する分野について理解を深めていただけるよう、さまざまな学術イベントの開催を支援しています。

安定的な供給

検査機器の安定供給

グローバルな需要拡大に備えるために工場の新設や設備拡充を推進

シスメックスでは、検査機器に関して、製品ごと・拠点ごとに適正在庫を設定し、常に安定した供給ができるようっています。さらに、グローバルな需要拡大に備えるために工場の新設や設備拡充を進めています。

2014年6月には、兵庫県加古川市に機器生産工場「アイスクエア」を設立しました。新工場「アイスクエア」は、安定供給に配慮して地震発生時にも生産インフラや倉庫を保護する免震構造などを採用しています。また、2014年度に国内の機器関係会社についても拡張工事を完了させました。

試薬の安定供給

適正在庫の設定や調達リスクのある原材料の代替化などを推進

試薬に関する限り、適正在庫の設定など、さまざまな角度から安定供給に努めるとともに、災害時に備えた対応として海外生産によるリスク分散や調達リスクのある原材料の代替化を進めています。

2014年度には、アジアにおける需要増加に対応するためにシンガポールの試薬工場を、2015年度には、ヨーロッパにおいて今後予測される試薬の需要増加に対応するためにドイツの試薬工場を拡張しました。また、西神工場において、中国向け需要が増加している試薬について製造工程を見直し、製造リードタイムの短縮を図りました。あわせてこれら試薬の原材料入手リスク評価などを実施しました。



ドイツの試薬工場

お客様満足度・社外評価の向上

お客様満足度の向上

国内外でお客様満足度調査を実施

シスメックス(株)では、全国規模の学会や展示会にご来場いただいたお客様に、当社の営業・サービス活動に関するアンケート調査を実施しています。また、ソリューションセンターで開催しているカスタマートレーニングの参加者に対しても、カスタマーサポートセンターに関するアンケート調査を実施しています。2014年は274名にご回答いただき、全体の満足度は91.6%と、昨年から6.3ポイント向上しました。

いただいたご要望やご意見には迅速に対応・改善し、お客様の満足度向上に努めています。また、新製品をご購入いただいたお客様には、製品の機能、操作性に関するご意見・ご感想を直接お伺いし、設計開発部門にフィードバックしています。こうした取り組みに加えて、お客様に関するさまざまな情報を一元的に管理できるCRM(カスタマーリレーションシップマネジメント)システムの構築を進めています。2014年度には、お客様の声を収集する仕組みをCRMに搭載するとともに、得られた情報を設計開発部門などにフィードバックする取り組みを開始しました。当システムを活用して、お客様の要望を製品開発や業務改善に活かせるよう活動していきます。

海外のお客様については、来日された際の事業所・工場見学の機会などにご意見を伺うとともに、海外グループ各社が、独自にお客様満足度の調査を実施しています。

海外事例(世界各国):グローバルな販売・サービス網を強化

シスメックスは、2014年5月にコロンビア、11月にはオーストラリアに、新たに現地法人を設立しました。またインドでは、2014年4月、これまでの尿検査分野に加えて凝固検査、生化学検査分野についても製品の直接販売・サービスを開始しました。

経済成長や高齢化、医療費増加などを背景に医療需要が高まるこれらの地域で、お客様ニーズに的確・迅速に応えていけるよう、販売・サービス体制を強化していきます。

事業による社会貢献に対する評価

CC-1001が「第3回分析機器・科学機器遺産」に認定

シスメックスが開発した「自動血球計数装置CC-1001」が「第3回分析機器・科学機器遺産」の認定を受けました。「分析機器・科学機器遺産」は、一般社団法人日本分析機器工業会と一般社団法人日本科学機器協会が2012年に設立したもので、国内で唯一、分析機器・科学機器分野に特化した遺産認定制度であることが特徴です。日本国民の生活・経済・教育・文化に貢献した分析技術／分析機器や科学機器を文化的な遺産として後世に伝えることを目的としています。

今回の認定では、CC-1001が国内で初めて開発された自動血球計数装置であり、静電容量方式としては世界でも始めて実用化されたものであること、国際的に日本の技術・機器発展の独自性を示すものであること、国内の健康診断制度の確立・運営に大きく貢献したことが評価されました。



授賞式の様子



自動血球計数装置CC-1001

医療課題解決への貢献

医療課題の解決に貢献する製品・技術の開発

簡便・廉価なHIV/AIDS検査の普及を目指して

シスメックスは2013年、研究領域およびHIVやマラリアなど感染症検査市場において高いプレゼンスを有するパルテック社をグループに迎え入れました。パルテック社は、フローサイトメトリー(FCM)法による研究用機器を1968年に世界で初めて製品化したパイオニアです。この技術を活かして開発された新興国・途上国向けの製品は、世界3大感染症であるHIV/AIDS、結核、マラリア患者の治療・モニタリングに役立てられています。これらは、医療設備が十分でない環境でも検査が可能な小型のポータブル式で、使用する試薬も他社製品の数分の一の低価格です。また、各地で手軽に検査できる移動ラボラトリーや展開しており、特にアフリカのHIV/AIDS検査市場では高いシェアを獲得しています。

今後はシスメックスのグローバルなネットワークを活用することで、アフリカだけでなく、アジアや中南米などでもパルテック社の製品の認知度・普及度を高め、さまざまな新興国・途上国の医療環境改善に貢献していきます。



小型・ポータブル式の感染症検査装置



慢性骨髄性白血病の治療効果をモニタリングする検査用試薬の製造販売承認を得

慢性骨髄性白血病(CML)は、血球の元となる細胞の染色体異常によって引き起こされる病気です。この治療に効果的なのが「分子標的治療薬」を用いる方法であり、治療の効果を正確にモニタリングするための遺伝子検査※が日本をはじめ各国における診療ガイドラインで推奨されています。しかし日本にはガイドラインに基づいた遺伝子検査を行える検査試薬として厚生労働省から製造販売承認を受けたものは販売されていませんでした。

そこでシスメックス(株)は、ガイドラインに基づいた効果的なモニタリングを可能とする検査用試薬の製造販売に着手。2014年8月、日本で初めて、検査用試薬「ipsogen BCR-ABL1 Mbcr IS-MMR DX」の製造販売承認を取得し、さらに2015年4月に保険適用を受けました。今後、国内での市場導入を進めています。



ipsogen BCR-ABL1 Mbcr IS-MMR DX
試薬

※ 日本血液学会が作成する造血器腫瘍診療ガイドライン(2013年版)は、モニタリングの正確性を期すため、「BCR-ABL1 mRNA検査」を用いて、結果を国際標準値で報告することを求めている。

その他の新製品・サービス(2014年度)

- 採血無しでヘモグロビン推定値を測定し、手軽に健康チェックができる「ASTRIM FIT」を発売
- 簡便な血液検査でアトピー性皮膚炎の診療前検査を実現する検査試薬「HISCL TARC試薬」発売
- 子宮頸がんスクリーニング検査の効率化への貢献が期待される「剥離細胞分析装置LC-1000」を発売 など

株主様との関わり

— 行動基準 —

経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様に安心を届けます。堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。



情報開示

株主総会・株主懇談会の開催

株主の皆様との直接対話の機会を大切にし、できるだけ多くの方々に総会に参加していただけるよう努めています。

総会後は株主懇談会を開催し、株主の皆様との対話を深めています。2014年度も昨年度に引き続き、「安心をお届けするシステム」をテーマに、当社の事業活動やIR活動、人事施策、グローバルな社会貢献活動、そして当社に対する社外評価などについてパネルや映像でご説明した後、ご意見・ご質問にお答えしました。

一方、当日、総会に出席することが難しい株主の皆様は、書面やインターネットで議決権行使することができます。さらに、総会の招集通知と決議通知の読みやすさにも配慮しています。いずれも海外の方のために英文版を作成しているほか、カラーの招集通知をお配りし、Webサイトでも閲覧できるようにしています。



株主懇談会

さらなる情報開示の充実を目指して

システムでは、証券取引に関する法令や証券取引所の定める適時開示規則などを遵守することはもとより、当社独自の基準を設け、投資判断に影響を与えると判断した情報を積極的に開示するよう努めています。

年2回の決算説明会(期末・第2四半期決算時)に加え、さらなる情報開示の充実を目指し、第1・第3四半期決算発表時に、カンファレンスコールを開催しています。

外部からの評価

「個人投資家向け情報提供における優良企業」に3年連続選定

2014年度、システムズは、日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会が主催する「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」の「個人投資家向け情報提供における優良企業」に3年連続で選定され、全業種の評価対象企業251社の中で第2位にランキングされました。また、直近3回連続して上位の評価を受けた、高水準のディスクロージャーを維持している企業として称賛状を受領しました。

個人投資家向け会社説明会は、社長などが参加して説明を行い、説明会の内容は動画配信され、写真、図表などを用いた見やすい内容になっていることが高く評価されました。また、個人投資家向けのホームページでは、事業内容や強みなどが探しやすい構成になっている点、株主通信においては、内容が充実している点が高く評価されました。



「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」授賞式

取引先との関わり

— 行動基準 —

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。



バリューチェーンにおけるCSRの推進

CSRに配慮した調達方針の設定

シスメックスでは、取引先の選定や調達取引の基本的な考え方を示す「調達方針」を制定し、これに沿ってバリューチェーンの構築を進めてきました。2013年度にはCSRに配慮した調達の推進を目指して本方針を改定し、ヘルスケア分野でグローバルに事業を展開する企業として「BCP(事業継続計画)体制の構築」、「各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進」などの項目を追加しました。

取引先でのCSR活動を確認するために、「労働安全衛生」「人権問題への対処」「国内外の公務員に対する贈賄禁止」などの項目を含むCSR調査を実施しており、2014年度は269社中225社から回答を得ました。また、新規の取引検討先7社に対しては、CSR調査に加えて経営者との面談も行い、CSRへの取り組み状況を確認しました。

調達方針

シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」で定める「ヘルスケアの進化をデザインする」というMissionのもと、公平・公正を基本とした調達活動を行い、取引先の皆様に安心をお届けします。また相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業を目指します。我々は、法令や契約の遵守とともに高い倫理観のもと、ヘルスケア分野で事業展開する企業にふさわしい品質の部品・原材料の安定調達を行い、世界中のお客様に安心してご使用いただく製品をお届けできるよう、本方針に従い活動しています。取引先の皆様には、下記7項目において、将来の価値の創造、改善につながる取り組みを期待しています。

お取引先様へのお願い

1. ヘルスケアにふさわしい品質
2. 継続的な供給体制の構築
3. ヘルスケアの発展に貢献できる技術力
4. 安定した経営基盤とBCP(事業継続計画)体制の構築
5. 各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進
6. 地球環境保全に向けた環境マネジメントの推進
7. 適正価格での供給と積極的な価格低減活動の実施

2014年3月改定

取引先との関係強化に向けて

当社の事業の方向性や調達方針をご理解いただいた上で取引ができるよう、取引先との関係強化に努めています。

2014年度は、国内取引先を対象とする「調達方針説明会」を開催しました。システムズがCSRを重視していること、それにともない取引先として対応していただきたい内容などをご説明しました。



調達方針説明会

調達部品・原材料の品質向上に向けて

お客様に、高品質の製品を安定的に提供するためには、調達原材料・部品の品質を維持・向上する必要があります。そこで、2009年度から、品質に関する要求事項を明示した品質保証協定書を作成し、その内容への理解を深めていただくための手引き書も準備したうえで、取引先と契約を締結しています。

また、新規の取引先に対しては、もれなく品質監査を実施し、品質マネジメントシステムが適切に運用されているか確認しています。既存の取引先に関しては、納入された部品の品質監視の結果、是正および予防措置の実施が必要と判断された場合に品質監査を実施しています。

工程変更の管理について重要性を共有する説明会を開催

医療機器の製造においては、製造工程の変更内容を把握し、それによって品質に影響が及ぶことがないよう管理していく「工程変更管理」が極めて重要です。

検査機器の高機能ユニットの生産を担うグループ会社システムズメディカでは、2014年12月に、組配先(ユニットの組立を行う取引先)を対象とする説明会を開催しました。当日は、すべての組配先に参加いただき、医療機器の品質の不具合が社会におよぼす影響や、工程変更管理の重要性について説明しました。参加者からは積極的に質問がなされ、活発な議論が交わされました。



組配先向け説明会

取引におけるコンプライアンスの徹底

調達関連法規制遵守を目指した社内啓発活動

電子調達システム(STM)を構築し、不当な代金減額や返品を防止するとともに、同システムに関する研修を毎年実施しています。

2014年度は、研究開発資材を発注する部門の新規配属者・新入社員を対象に、STMの使い方や資材発注後の受取から支払までの注意点、下請代金支払遅延等防止法などの遵守すべき法令について説明しました。このほかにも、調達部への新規配属者を対象として「下請法」「調達方針」「CSR」に関する教育を実施しました。

販売代理店にコンプライアンスに関する方針などを説明

シスマックスは、販売代理店と良きパートナーシップを維持するために、コンプライアンスの徹底に取り組んでいます。販売代理店との関係において、従業員が遵守すべきルールとして「優越的地位の濫用禁止」「過剰な接待・贈物の禁止」などを定め、これらを遵守しています。販売代理店に対しては、新製品発売時に開催する「製品説明会」などでシスマックスのコンプライアンスに関する方針や活動を説明し、コンプライアンスの重要性と当社の取り組み姿勢を認識いただいています。なお、海外の販売代理店に対しては、定期的に現地を訪問しての打ち合わせや必要に応じてテレビ会議を実施するほか、代理店会議を開催するなどして、継続的にコミュニケーションをとっています。

2014年度には、シスマックス ロシアが初の代理店会議をモスクワで開催しました。また、シスマックス アジア・パシフィックでは、ビジネスパートナー・ミーティングを2年に1回開催しており、2014年度はスリランカで会合を実施しました。



代理店会議(ロシア)

従業員との関わり

— 行動基準 —

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。



人権・多様性の尊重 >

世界人権宣言とILO中核的労働基準を支持し、人権侵害防止に努めるとともに、多様な人材の確保・活用を取り組んでいます。

評価・処遇・人材育成 >

従業員に対する公正な処遇に努めるとともに、多彩な人材育成プログラムを設け、自己実現と成長の機会を提供しています。

ワークライフバランスの確保 >

育児支援をはじめとして、従業員のワークライフバランスを支援するためのさまざまな制度を整備しています。

労働者への権利の尊重 >

グローバル・コンパクトの原則とILO中核的労働基準に基づいて組合結成の自由と団体交渉の権利を尊重しています。

安全と健康への配慮 >

各事業所長(役員)と従業員代表が参加する安全衛生委員会が中心となって、安心して働ける職場づくりに努めています。

人権・多様性の尊重

人権の尊重

世界人権宣言とILO中核的労働基準を支持

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「8.人権の尊重と安全・衛生の向上」において、基本的な人権を尊重する上で遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインを定めています。このコードでは、あらゆる差別的取り扱いを行わないこと、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントなどの人格を無視した行為をしないこと、児童労働・強制労働などをさせないこと、安全で快適な職場環境を確保することを明示しています。また、これらを実践するため、随時研修などを実施しています。

さらに、2014年5月にはグローバル企業として世界的な人権課題を踏まえて同コードを改定し、世界人権宣言とILO中核的労働基準を支持することを明記しました。

グローバルコンプライアンスコード(抜粋)

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

8-1 差別および嫌がらせ等の禁止

性別、年令、国籍、人種、民族、信条、宗教、社会的身分、門地、疾病、障害などに関する差別的言動、ならびにセクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの人格を無視する行為を行ってはならない。

8-2 プライバシーの尊重

個人の多様な価値観を認めあうとともに、一人ひとりのプライバシーを尊重し、知り得た個人情報をみだりに話したり、不必要に知ろうとしてはならない。

8-3 強制労働・児童労働の排除

強制や意思に反しての不当な労働を強制してはならない。また、各国・地域の法令等に定める雇用最低年齢に満たない児童を就業させてはならない。

8-4 職場の安全・衛生の確保

誰もが安心して働くよう、各國・地域の安全・衛生関連法令等を遵守するとともに、心身の健康の維持向上に取り組み、安全で快適な職場づくりに努めなければならない。

人権に関する相談・通報制度

国内グループ会社向けに内部通報制度「カンパニュラライン」を設置し、セクシャルハラスメントやパワーハラスマントに関する相談をはじめとする人権相談を受け付けています。また、海外グループ会社でも内部通報制度を整備しています。

人権侵害防止に向けた教育を実施

シスメックス(株)は、ハラスメント(いじめ)の防止や、労働に関する正しい知識の浸透などを目的とする教育を実施し、人権侵害の防止に努めています。

2014年度は新任役職者向け研修で、ハラスメント、労務管理、労働派遣法に関する研修を行ったほか、加古川工場では管理職を含む全社員を対象としたハラスメント研修を実施しました。

多様性の確保

多様な人材を受容する「Diversity & Inclusion」

シスメックス(株)では、単に多様な人材が在籍する「Diversity」から、多様な人材が働きやすい環境を整備し、受容する「Diversity & Inclusion」を目指して、国籍・人種・性別・障害の有無に関係なく人材を登用し、適材適所の配置を実施しています。

就職機会の均等化を目指して

シスメックス(株)では、性別・国籍・人種・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位で採用を実施しています。具体的には、就職が不利な状況に置かれている既卒学生や海外留学生などに対する就職機会の均等を図るために、いつでも応募できる通年採用を実施しています。

また、世界中のどこからでも応募できるよう、海外現地での説明会や面接に加え、インターネットを通じたWeb説明会やWeb面接も実施しています。2014年度は、期中入社を含む新卒採用者のうち、外国人比率は19.7%となりました。

障がい者雇用を推進

シスメックス(株)は、障がいの方の雇用を進めています。それぞれの適性や能力を活かして、長期的に活躍できる雇用形態で就業いただいている。2014年度の障がい者雇用率は、1.86%です。

このように採用に注力する一方で、オストメイト(人工肛門・人工膀胱保有者向けのトイレ)などのバリアフリー設備を導入するほか、月に一回安全衛生委員が職場を巡回し、車椅子が通行しやすいように整理されているかを確認するなど、障がいの方方が働きやすい職場環境の整備にも継続的に取り組んでいます。

高齢者雇用——定年退職者再雇用制度

シスメックス(株)では定年を60歳とし、高齢者雇用を推進するための制度として65歳までの定年退職者再雇用制度を運用しています。2014年度は、定年退職者のうち、社内ルールに基づいて20名を再雇用し、昨年度の16名に比べ増加しました。

女性リーダーの育成

シスメックス(株)では、女性の活躍を支援する取り組みの一環として、女性リーダーの育成に取り組んでいます。2014年度には、ダイバーシティ・マネジメントを支援するNPO法人「Japan Women's Innovative Network(J-Win)」のプログラムに女性社員2名が参加しました。同プログラムは業種や業態を超えたキャリア形成を志す女性が集まり、相互支援のネットワークを築くことを目的としたものです。こうした相互研鑽の機会を通じて、リーダーとしての成長を促しています。

2014年度のシスメックス(株)の女性管理職比率※は5.3%で、昨年度の4.8%に比べ0.5ポイント向上しました。また、グループ全体の女性管理職比率※は11.6%で、昨年度の10.6%に比べ1.0ポイント向上しました。

※ 課長以上の者。

海外事例(アメリカ):アファーマティブアクションプログラムの策定・実行

シスメックス アメリカでは、多様性の実現に向けて、「アファーマティブアクションプログラム(差別撤廃プログラム)」を策定し、実行しています。また、従業員のワークライフバランスを支援するさまざまな制度を運用しています。

評価・処遇・人材育成

評価・処遇

能力・成果に基づく公平な人事評価

シスメックス(株)は自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会を提供するとともに、公正な処遇に努めています。

公正な処遇のベースとなる評価については、「企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いる」という考え方に基づき、成果のみの評価ではなく、成果発揮にいたるプロセスの評価(コンピテンシー評価)も行っています。また、公平かつ納得性のある人事評価を目指し、評価結果、上司コメントを各個人に開示しています。

人材マネジメントシステムの考え方

1. 長期的な雇用を実現するために

- 多様な人材が安心して能力を発揮できる複線型の資格等級フレームを整備し、自己実現と成長の機会を提供

2. 多様な人材の能力開発・育成を推進するために

- コンピテンシーを基軸とする資格等級基準を設定し、昇格基準の明確化による人材育成と昇格運用の適正化を促進
- 成果のみではなく、成果発揮に至るプロセス(発揮能力)を評価し、人材育成と企業風土の変革を促進

3. 企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いるために

- 評価と報酬の関係をシンプルにし、誰にでも分かりやすい制度
- 仕事の貢献度・役割・発揮能力(コンピテンシー)および成果に連動したメリハリのある報酬体系

社員のキャリア設計をサポート

シスメックス(株)では、全社員を対象とした「自己申告制度」を運用しています。これによって、一人ひとりに自己のキャリアの方向性とライフプランについて考える機会を持つてもらうとともに、申告内容を能力開発や人材配置に活用しています。

雇用人数(採用・離職の状況)

シスメックス(株)は、2014年度、130名を新規採用しました。また、42名が離職し、離職率は1.96%、これによつて、2015年3月末現在の全従業員数(単体)は、2,323名となっています。また、新卒3年度定着率の高さが評価され、東洋経済「新入社員に優しいホワイト企業」の1位タイにランクインしました。

契約社員・派遣社員の正社員登用

シスメックス(株)は、契約社員や派遣社員の正社員登用にも積極的に取り組んでいます。契約期限が限られている有期雇用者に対して、公平に登用機会を提供することを社内規程において明文化するとともに、インターネットなどで周知徹底を図っています。また、派遣社員に対しては、個別契約を更新する際、一定の条件を満たしている対象者に直接雇用への切り替えを検討してもらうよう派遣会社へ案内しています。

これらの取り組みを継続的に実施してきた結果、2014年度には、契約社員・派遣社員あわせて19名を正社員として登用しました。

モチベーションアップにつながる社内表彰制度を導入

シスメックスは2011年度から、グループで最も貢献した個人および組織・グループを称える表彰制度「グループCEOアワード」を導入し、1年に1度、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践した個人1名、グループ1組を選出して、その功績をたたえ、全社で共有しています。

また、シスメックス(株)では、研究開発者のモチベーション向上と知的財産に対する意識を高めることを目的とし、「特許大賞・優秀特許賞」、「パテントマイスター」、「出願記念賞」の3つの「特許表彰制度」も導入しています。さらに、品質改善に関する成果を表彰する「品質アワード」も運営しています。

海外事例:各統括現地法人の人事制度

米州、EMEA※、中国、アジア・パシフィックの各統括現地法人においては、各地域の法律、文化に対応した人事制度を整備しています。

評価については、基本的に目標管理制度による評価を実施しています。また、米州とEMEA※、アジア・パシフィックでは、一部、コンピテンシー評価も実施しています。人材育成については、タレントマネジメント教育、階層別教育のほか、日本のシスメックス(株)との従業員交換プログラムも実施し、グローバルな人材交流・人材育成を推進しています。

※ 欧州・中東・アフリカ地域。

人材育成

4つのコンセプトに基づく人材育成

シスメックス(株)は人材育成の4つのコンセプトに基づき、選抜型研修、階層型研修、自律選択型研修を研修体系の軸とした計画的・段階的な人材育成に取り組んでいます。2014年度の1人当たり平均研修時間は28.2時間、平均研修費用は157,789円※となっています。また、2015年4月には、多様な文化や価値観を持つ人々が集い、日常業務や立場を離れて議論を深め、ネットワークを広げる場として、兵庫県芦屋市に「グローバル コミュニケーション センター」を開設しました。



※ 人事部門が提供する研修対象とし、自己啓発および実地研修など業務の一部に該当するものは除く。

■ 人材育成の4つのコンセプト

1. 研修と評価と仕事(成果発揮)を接続
2. シスメックスグループのグローバル化の促進
3. 継続的な人材開発投資
4. 人を育て、人が育つ会社



新入社員研修

■ 研修体系の3つの軸

研修区分	目的
選抜型研修	<ul style="list-style-type: none">• グローバルリーダーの育成• 将来的な経営人材の育成
階層型研修	<ul style="list-style-type: none">• 階層ごとに最低限必要とするマネジメントや課題解決等の知識・スキルの習得• 部門間コミュニケーションの促進
自律選択型研修 (Sysmex College)	<ul style="list-style-type: none">• 業務遂行における実践的な知識・ノウハウ・スキル• ビジネス・マネジメント各種知識

■ グローバル コミュニケーション センターの概要

所在地:	兵庫県芦屋市
敷地面積:	33,399m ²
総床面積:	2,914m ²
施設内容:	研修室、会議室、コラボレーションスペース、シアタールーム、宿泊室、カフェテリアなど



グローバル コミュニケーション センター
(シアタールーム)

グローバルな人材の育成に注力

シスメックスでは、グローバルなビジネスの中核を担うグローバル人材の育成に注力しています。若手社員層を対象として、海外現地法人へ派遣し実務経験を積ませる「グローバルアブレンティスピログラム」を2011年度から実施しています。このプログラムは、グローバルなキャリアを志望する社員を社内公募し、早期に海外業務経験の機会を提供することにより、将来のグローバル人材へと育成することを目的としたものです。

帰国した制度利用者が報告会を開き、海外の市場環境について見聞きしたことを報告するなど、海外の状況を国内に伝える手段としても役立っています。2014年度末までに、計25名がプログラムを利用し、海外に派遣されました。



グローバルアブレンティスピログラムで
交流を深める従業員

グローバルな人材交流の推進

シスメックスでは、2012年度から、日本と海外グループの従業員同士の交流を促し、互いに理解を深めることで関係強化を図る「グローバル人材交流プログラム」を実施しています。

2014年度は、11月に米州、EMEA※、アジア・パシフィック、中国、日本の従業員総勢20名が参加する研修を行い、神戸本社での業務体験やディスカッション・フォーラムへの参加、顧客訪問を通じて交流を深めました。2014年12月には、日本人従業員がドイツにあるシスメックス ヨーロッパを訪問し、業務体験や意見交換などによって相互理解を図りました。

※ 欧州・中東・アフリカ地域。



ディスカッション・フォーラム



業務体験を通じた他地域従業員との交流

製造現場で作業する従業員のスキル向上

医療機器を製造するシスメックスにおいては、製造に携わる従業員の技術力向上も重要な課題です。そこで、シスメックス機器製品の製造に関する知識・技能を習得するための訓練施設「ものづくりトレーニングセンター」を設置し、一年を通じて研修を実施しています。



ものづくりトレーニングセンターでの研修

新しいイノベーションを生み出すためのトレーニング

シスメックス(株)中央研究所は、2013年9月からの1年間、「ラディ活」と題して「ラディカルイノベーションを興せる組織づくり」に取り組みました。

中央研究所には、大きく分けて、イノベーションの創出、最新技術の動向追跡、事業部門からの課題解決要請への対応という3つの役割があります。グループの頭脳としてこうした役割を果たす上で、従来にない技術革新・価値創造をもたらすようなイノベーション、すなわち「ラディカルイノベーション」を興せる人づくりが重要となってきます。

活動では、7つの技術チームに分かれ、それぞれがイノベーション力の向上をテーマとするチームづくりに挑戦。2014年9月の成果報告会で、どのような目標を掲げてチームを構築し、どのように1年間活動してきたか、また今後はどうしていくと考えているかを発表しました。今後もこの取り組みを継続していく予定です。



活動ロゴマーク



成果報告会

海外事例(フランス) : グループ内でのコミュニケーション促進に向けた語学教育を実施

さまざまな言語が使われるヨーロッパにおいても、他地域とのコミュニケーションは大きな課題です。英語はもちろん、各国の公用語を十分に使いこなせることが求められます。

フランスのグループ会社、ハイフェン バイオメド(HYPHEN Biomed)では、2014年度に、英語・フランス語の外部教師を招いて新たな言語教育プログラムを設定しました。プログラムでは、受講者の語学力やニーズに応じていくつかのグループに分け、それぞれにあわせた講座を実施。DVDなどの教材を用いた講義やロールプレイング、ディスカッションなどを通して語学力の向上を図り、教室外で学んだことを実践するテストも行います。本プログラムを経て、受講者たちからは、グループ内でのコミュニケーションがとりやすくなったとの声があがっています。

海外事例(ドイツ) : 従業員の成長を積極的に支援

シスメックス ヨーロッパでは、従業員の専門スキル向上や自己研鑽のほか、語学学習プログラム(日本語・英語)なども用意し、全従業員を対象として定期的な研修を行っています。

「シスメックス・アカデミー」で製品関連の研修を実施しているほか、対面講座とeラーニングの選択式でチームビルディングやリーダーシップ、語学力などのソフトスキル向上を図れる「HRアカデミー」も用意しています。このほか、オンボーディング・トレーニング※なども実施し、従業員の成長をサポートしています。

※ オンボーディング・トレーニング: 新たに採用した人材を迅速に組織になじませることを目的とした社内トレーニング手法のひとつ。

海外事例(アジア・パシフィック) : 従業員の技能向上に注力

シスメックス アジア・パシフィックは、外部機関の協力を得て、全従業員が利用できるオンライントレーニング「Sysmex University」を運用し、毎月eラーニングのプログラムなどを設けています。また、従業員の能力開発プログラムや、互いに技能向上を促すクロストレーニングなどの制度も導入し、従業員の能力開発を促進しています。

こうした制度を整えるとともに、個々の従業員全員について成長へのプランを策定し、年に1度、その進捗状況を確認しています。

ワークライフバランスの確保

仕事と育児の両立支援制度

さまざまな休暇制度や社内託児所で育児を支援

シスメックス(株)は、出産前から育児までに対応した多様な制度を制定しています。不妊治療や出産前のつわりに対しての休暇制度をはじめ、出産後は子どもが2歳になるまでの育児休業や中学就業前までの勤務時間短縮制度、職種別のフレックスタイム制度が利用できます。さらに、子どもの看護のために会社を休む際、法定休業以外に積立有給休暇を利用できる制度を導入しています。

また、男性社員の育児参加ニーズに合わせ、配偶者出産時の特別休暇を出産の前後1カ月以内に2日取得できるようにし、出産準備にも参加できるよう配慮しています。また「育み休暇」として子どもが1歳になるまでの間は育児を理由に連続3日間の特別休暇を設けています。

研究開発拠点「テクノパーク」内には、従業員から乳幼児を預かる社内託児所「シスメックスキッズパーク」を設置し、常時保育だけでなく、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事などにより家族での保育が困難なときなどの一時的な利用にも対応しています。

さらに、育児を理由にキャリアを中断した社員に再び働く機会を与える再雇用制度も設けています。これらの制度を計画的に整備してきたことが認められ、厚生労働省から次世代認定マーク(愛称「くるみん」)を取得しています。



社内託児所「シスメックスキッズパーク」



次世代認定マーク「くるみん」

■ 主な支援制度の利用状況(2014年度)

制度	概要	人数
育児のための勤務時間短縮制度	子どもが小学校6年生を終えるまで利用可能。 (法定:子どもが3歳未満)	利用者50名
休業制度(育休・産休)	育児休業は2歳まで取得可能。 (法定:原則として子どもが1歳まで)	利用者92名
積立年休制度	家族の看護や介護のために、失効した年次有給休暇を最大10日まで積み立て、利用できる制度。 (法定:1年度につき5日(子どもや対象家族が2人以上の場合は10日))	利用者26名
再雇用制度	育児や介護のために退職した社員を再雇用する制度。	登録者5名
社内託児所	育児を0歳児から小学校就学前までの乳幼児を預けられる託児所。常時保育だけでなく、一時的な利用も可能。	利用児童23名

その他のワークライフバランス支援制度

介護や社会貢献活動などを支援

シスメックス(株)では、従業員のワークライフバランスを実現するための制度の一つとして、連続7日以上の療養が必要になった家族の病院受診や入院付添いのために短期の介護休業に積立有給休暇を利用することができます。2014年4月には、介護休業を1カ月以上取得する際に、休業による収入減や突発的な費用発生に対応しやすいよう、会社独自で介護休業補償金を支給する所得補償制度を導入しました。また、介護でキャリアをいったん中断した従業員を再雇用する制度も運用しています。

このほかにも、社会貢献活動に参加する場合に年10日まで取得可能な「ボランティア休暇」(2日までは有給休暇として付与)や、骨髄移植などのドナーとなる場合、1件につき5日まで有給休暇として付与される「ドナー休暇」など、さまざまなワークライフバランス支援制度を設けています。

休業後の職場復帰を支援

シスメックス(株)では、育児・介護休業者がスムーズに職場に復帰できるよう支援する制度を2013年2月から導入しています。本制度では、社内メールやインターネットに接続できるタブレット端末もしくはノートパソコンを貸与することで、休業者が復帰予定の3カ月前から自宅で社内情報を閲覧できるようにしています。利用開始時には上司と面談することを必須としているため、復帰後の働き方を事前に相談する機会を提供することにもつながっています。

休業中、職場と疎遠になることは、復帰後の円滑な職務の妨げにもなります。このしきみを利用すれば、休業者は家庭にいながら社内情報をリアルタイムに入手できるうえ、メールのやりとりを通じて職場とのコミュニケーションの強化が図れます。疎外感や孤独感にさいなまれることなく休業中を過ごし、活き活きと元の職場に復帰できるよう配慮した、IT活用型の支援制度です。

ワークライフバランス支援制度の利用促進

シスメックス(株)では、インターネット上の専用サイトでワークライフバランス支援制度についてわかりやすく解説しているほか、説明会なども開催し、周知を図っています。また、特に利用を推奨している制度については、メールで対象者に個別に案内を出しています。

2014年度には、本社地区において、ワークライフバランスについての意識浸透と新たな休暇制度の活用促進を目的とした説明会を開催しました。

従業員満足度向上に向けた取り組み

シスメックスでは、国内グループの従業員全員を対象として従業員満足度調査を実施しています。調査結果は各部門にフィードバックし、満足度向上に取り組んでいます。また、調査のスコアが伸び悩んだ部門に対しては、人事部門のメンバーが訪問して改善のためのアドバイスなどを実施しています。今後は、中期経営計画やCSR中期計画においても従業員満足度の向上を目標に掲げ、取り組みを加速させていきます。

また、海外のグループ会社においても、それぞれ従業員満足度調査を実施し、満足度向上のための取り組みを実施しています。

海外事例(アメリカ)：ワークライフバランス管理に資するさまざまな制度を運用

シスメックス アメリカでは、多様な働き方を可能にする制度として、社員の在宅勤務を認めるとともに、必要な機器などを支給しています。また、希望する社員にはパートタイム、フレックスタイムでの勤務形態も選択肢として提示しています。

これに加えて、日々快適に仕事ができるよう、ドレスコードをカジュアルなものにするなどの配慮も行っています。また、有給休暇のほか慶弔休暇、家族休暇、医療休暇など各種の休暇制度を用意しています。休暇を充実させることにも注力しており、外部の業者と提携して、旅行やショッピング、その他娯楽サービスの利用に社員割引を適用できるようにしています。このほか、外部サービス会社と契約し、急に家族が病気になった場合などにサポートが受けられるようにするなど、育児や介護と仕事の両立を支援しています。

労働者への権利の尊重

組合結成の自由と団体交渉の権利の尊重

グローバル・コンパクトに参加するとともに、ILO中核的労働基準を支持

シスメックスは、グローバル・コンパクトに参加するとともにグローバルコンプライアンスコード内にILO中核的労働基準への支持を明記し、組合結成の自由と団体交渉の権利を尊重しています。

シスメックス(株)の労働組合であるシスメックスユニオンには、正社員のうち、役職者や管理部門の一部を除く全員が加入しており、全従業員に占める組合員の割合は、2014年度は62.3%となっています。また、シスメックスベトナムや中国の濟南シスメックス、シスメックス 無錫においても労働組合が結成されており、定期的に団体交渉などを実施しています。

労使の対話

グループ各社で労働組合との対話を実施

シスメックス(株)では、2014年5月にシスメックスユニオンとの団体交渉を実施し、賃金のベースアップに関する評価と資格給に応じた傾斜配分を行うことを決定しました。

また、2014年度には労使協議会を11回開催し、人事評価制度や賃金適正化、労働時間管理などについて議論しました。また、海外のグループ会社においても、地域ごとの状況にあった方法で労使対話を実施しています。

従業員の声を経営に反映

シスメックスでは、2年に1回、グループ全従業員を対象とした「企業風土調査」を実施しています。全100項目以上の質問に対する回答を分析し、組織内にある暗黙のルールや価値観、また各種施策の効果を把握することで、当社グループが抱える課題の抽出と解決に役立てています。

安全と健康への配慮

職場の安全・衛生の確保

グローバルコンプライアンスコードにおいて、職場の安全・衛生の確保を明示

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードに「職場の安全・衛生の確保」に取り組むことを明示し、さまざまな活動に展開しています。

グローバルコンプライアンスコード(抜粋)

8-4 職場の安全・衛生の確保

誰もが安心して働くよう、各国・地域の安全・衛生関連法令等を遵守するとともに、心身の健康の維持向上に取り組み、安全で快適な職場づくりに努めなければならない。

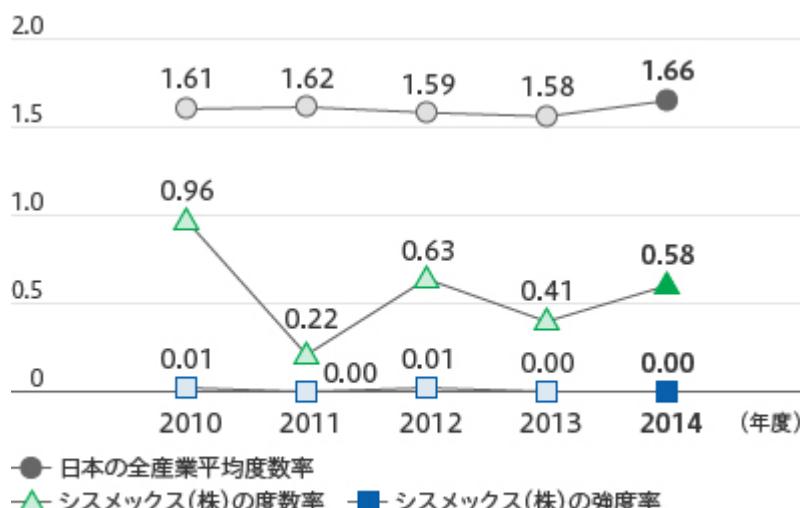
役員・従業員が協力して安全衛生の確保を推進

シスメックス(株)は、従業員の安全衛生を確保するための指針として「安全衛生規程」を定め、事業所ごとに、各事業所長(役員)と従業員代表が参加する安全衛生委員会を定期的に開催し、安心して働く職場づくりに努めています。同委員会では、ヒヤリハット事例や労働災害事例だけでなく、職場巡回を通じて把握されたリスクについても、リスクアセスメントの考えに基づいて、原因を洗い出し、短長期の対策を審議しています。さらに、労使協議会においても、安全衛生について協議しています。また随時、人事担当役員に報告する体制をとることにより、健康と安全に関するリスクを経営層が把握し、対処するようにしています。

また、万一事故や急病人があっても対応できるよう、事故発生時の応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などについて教育を実施しているほか、AED研修、市民救急救命士講習も定期的に実施しています。災害時の対応に関する訓練も適宜実施しており、2014年度には新設のアイスクエアを含む各拠点で避難訓練などを行いました。

2014年度の労働災害度数率は、0.58(負傷者3名、死亡者0名)、強度率は0.00となっています。

■ 労働災害度数率／強度率(シスメックス(株))



注) 労働災害度数率: のべ労働100万時間あたりの死傷者数の割合。
労働災害強度率: のべ労働1,000時間あたりの労働損失日数の割合。

過重労働の防止

シスメックス(株)では、心身の健康を妨げる要因となる長時間労働の防止にも注力しています。関連法令を遵守することはもちろんのこと、時間外・休日労働時間に関して厚生労働省の指針よりも厳しい社内基準を設け、この基準を上回った場合、その上長へ連絡して本人から自己チェック票を提出させ、必要に応じて産業医との面談を実施しています。

海外事例(ブラジル):OHSAS18001※の認証を取得

シスメックス ブラジルは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な規格であるOHSAS18001の認証を取得しています。

※ OHSAS18001:1996年にイギリス規格協会(BSI)が発行した規格BS8800をもとに、約30の各国審査登録機関、標準団体などが集まって1999年に発行された規格。

海外事例(中国):工場での安全・快適な職場づくり

中国の2つの試薬生産工場の1つ無錫工場では、OHSAS18001に基づく厳密な労働管理を実施。安全衛生委員会を設置して労働災害などの状況を把握し、業務改善や防災訓練などさまざまな取り組みを進めています。

もう一つの試薬生産工場、済南工場では、従業員が安心して快適に働く職場づくりを目指して、安全で衛生的な労働環境の整備に努めています。例えば、重量物製品の搬送を機械化することで、労働災害の低減を図っています。また、快適な職場環境にするために、作業室はリフレッシュ効果が高いといわれる自然光を取り入れ、明るく健やかな空間を形成しています。さらに、食堂やレクリエーション室などの福利厚生施設も充実させるとともに、屋外にビオトープや散策小路なども設け、自然に触れることで気分をリフレッシュできるようにしています。

健康の維持・向上

心身の健康の維持・向上

シスメックス(株)では、定期健康診断に加え、人間ドックや女性がん検診などを実施し、疾病の早期発見に努めるとともに、従業員のメンタルチェックやハラスマントに関する状況把握を行う「ココロの健康診断」も年1回実施しています。健康相談に関しては、全社的な窓口を設け、産業医、保健師と面談できる体制を整えており、メンタルヘルスについては外部相談機関(EAP)も設置しています。

また、万が一長期的な休業が必要になった場合も、経済的な補償制度や、復帰時の「ならし出社制度」を設けるなど、安心して働く環境を整えています。

さらに、健康維持のための福利厚生施設として、カスタマーサービスの統括拠点であるソリューションセンターの敷地内にグランドやテニスコート、トレーニング設備を備えた体育館なども設けています。また、従業員自身に健康への関心を持ってもらうためのイベントやセミナーも随時開催しています。社員食堂では、ヘルシーメニューの提供も実施しています。

健康イベントの実施

シスメックスでは、従業員の健康への関心を高めるため、機会を捉えてキャンペーンなどを実施しています。

2014年度には、6月と2月に「ウェルネスフェア」と題してパネル展示や管理栄養士による相談などを実施するとともに、「血液サラサラ体験」イベントを開催し、血流の機能状態測定などを実施。血液という観点から健康への関心を喚起しました。



ウェルネスフェア

海外事例(アメリカ)：従業員が無料で利用できるフィットネスセンターを設置

シスメックス アメリカでは、健康増進への配慮として、従業員が無料で利用できるフィットネスルームを設置しています。

また、毎年フィットネス手当・健康手当を支給し、必要な機器の購入などを支援しています。さらに、健康診断やインフルエンザ予防接種の費用なども補助しています。



フィットネスルーム

社会貢献活動

— 行動基準 —

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。



社会貢献方針

システムズは、健康社会や地域社会に積極的に貢献するとともに、従業員の主体的な活動を支援します。

健康社会づくり活動

医療産業都市構想への参画をはじめとして、医療の発展や健康な社会の構築に貢献するさまざまな活動を開いています。

地域社会への貢献

事業拠点を置く世界各地で、地域の課題解決に貢献するためにはさまざまな活動を開いています。

従業員の社会貢献活動の推進

「社会貢献ポイント制度」を制定し、従業員に対して積極的なボランティア参加を促しています。

社会貢献方針

社会貢献方針

社会貢献活動の方向性を示した方針を制定

社会貢献方針

シスメックスは、豊かな健康社会、活き活きとした地域社会作りにつながる社会貢献活動を積極的に行うとともに、従業員の主体的な社会貢献活動を支援します。

- **豊かな健康社会への貢献**

ヘルスケア企業としての特徴を活かした社会貢献活動を積極的に展開し、より豊かな健康社会づくりに貢献します。

- **活き活きとした地域社会への協力**

「企業市民」として社会と価値観を共有し、社会貢献活動への賛助ならびに自らもその活動に参画することにより、活き活きとした地域社会の実現に協力します。

- **従業員の社会貢献活動への支援**

従業員がグループの一員であることに誇りをもち、市民として社会貢献活動を主体的に実践できるように支援します。

2012年5月制定

健康社会づくり活動

国内での活動

神戸医療産業都市構想への参画

「神戸医療産業都市構想」は、産官学が協力して神戸市への医療・産業の集積を図るプロジェクトです。シスメックス(株)は、プロジェクトの中心的な拠点の一つである「臨床研究情報センター」内に「シスメックスIBRI」を2014年3月に開設し、さまざまな医療機関・企業等と共同研究を促進する場(オープンラボ)として、研究の幅をさらに広げていきます。

寄附講座の開設

2004年度から、神戸大学大学院医学研究科に寄附講座「立証検査医学(シスメックス)」を開設しています。同講座では、近年課題とされている「個別化医療」の実現に向けて、新たな臨床検査法の開発と、有用性の検証が進められています。これらは、正確な診断を実現するのみならず、最も効率的で副作用の少ない医療を患者さんに提供できる方法論の確立につながるものであり、社会に多大な貢献をもたらすと期待しています。

このほか、電子計測技術の発展を支援するために設立した「中谷電子計測技術振興財団」は、2012年に公益財団法人に移行するとともに「公益財団法人中谷医工計測技術振興財団」と改称し、生体に関する計測技術・関連技術についての研究助成と「中谷賞」による研究者の表彰を実施しています。2014年度は設立30周年を迎え、研究助成を拡大したほか、留学助成や中学・高校の科学教育振興助成にも事業を拡大しました。

設立以来、2014年度までの技術開発研究の延べ助成件数は347件、累計助成金額は7億4,567万円※となっていきます。

※ 累計助成金額は、2年にわたり助成する特別研究助成を含む。

グローバルヘルス技術振興基金への参画

シスメックスは、新興国や開発途上国における感染症の診断に寄与するため、マラリア、デング熱、HIVなどの検査技術の創出、製品の開発に取り組んでいます。

2015年6月には、「開発途上国の人々が感染症による苦難を乗り越え、先進国と同様に繁栄と長寿社会を享受できる世界を目指す」を活動のビジョンとし、日本発の技術革新による途上国の医療貢献を目指している公益社団法人「グローバルヘルス技術振興基金※」に参画することを決定しました。同基金へ資金を支援するとともに、感染症の撲滅に向けた診断薬技術活用の可能性を探ることにより、グローバルな医療の標準化および質向上に貢献していきます。

※ HIV/AIDSや結核、マラリア、NTDs(Neglected Tropical Diseases: 顧みられない熱帯病)などの、特に途上国で蔓延する感染症の撲滅を目指して日本発の新薬開発を推進している国際的な非営利組織。日本国政府、国連開発計画(UNDP)、製薬企業、ビル&メリンダ・ゲイツ財団による日本初の官民パートナーシップとして設立され、日本と海外の研究機関の連携促進や助成金交付を通して新薬、診断薬開発を促進。

献血への継続的な協力

献血時に用いる検査機器を提供しているシスメックスでは、自らも積極的に献血活動に参加しています。例えば、テクノパーク、加古川工場、小野工場、西神工場などでは、毎年回数を定めて、従業員が地元兵庫県の赤十字血液センターの献血活動に協力しています。

2014年度は、新設の拠点であるアイスクエアで2度にわたって実施したことをはじめ、国内すべての事業所で献血を実施し、合計247名の従業員が献血活動に参加しました。また、2014年度はヘルスケア企業として日本赤十字社への支援を高めるために「献血サポーター企業」に登録しました。



献血に参加した従業員

市民救命士講習会の開催

シスメックス(株)では、毎年、テクノパーク・ソリューションセンターで「市民救命士講習会」を開催しています。市民救命士講習とは、消防署や神戸市の認定を受けた民間救急講習団体(FAST)が実施する講習で、傷病者が発生したときにその場で適切な対処を行える市民救命士の育成を目的としています。

これに加えて、シスメックス(株)の従業員を対象とする「普通救命講習」も2008年度から毎年開催しており、2014年度は東京支社で11名が講習を受けました。一人でも多くの従業員が救命に向けた知識と技術を身につけるよう促すことで、安心な社会づくりに貢献します。



市民救命士講習会での訓練

海外協力事業への協力

シスメックスでは、海外協力事業として、外務省やJICAなどによる新興国・途上国の医療水準向上に関わる事業への機材提供(円借款および無償援助案件等)に参加しています。

また、毎年、JICAの研修生を当社施設に受け入れ、研修を実施しています。

2014年度には当社のアイスクエアなどで計4回の研修を実施し、アフリカや大洋州、中央アジアなどからの研修生が受講しました。また、新たな試みとして、2015年2月にJICA人事行政セミナーコースの研修生を受け入れました。研修では最初に当社の人事制度について学んでいただき、意見交換などを実施しました。



JICA研修生

「未来医XPO'15」に協賛・出展

シスメックスは、2015年3月28日から9日間にわたって「日本医学会総会2015関西」の一環として神戸で開催された一般市民対象の展示会「未来医XPO'15」に協賛・出展しました。本イベントは、「あなたの暮らしと医の博覧会」をコンセプトに、大人から子どもまであらゆる年代の方々に最新の医学・医療・健康技術を体験いただく参加型イベントです。

当社は、本イベントを地元企業として盛り上げるべく、川崎重工業(株)、(株)メディカロイドと3社共同のブースを出展しました。シスメックスのブースではクイズやさまざまな体験コーナーを通じて、血液について楽しみながら学べるコンテンツを用意し、多くの方に楽しんでいただくことができました。



血液について楽しみながら学ぶ子供たち

教育・啓発のための絵本を作成

病気や検査に関する教育・啓発のための絵本を作成し、病院・診療所などの医療機関に配布して、待合室などに置いていただいている。病気の特徴や検査・治療の方法について、わかりやすく紹介したもので、医学の知識が少ない方や子どもにも興味を持って読んでもらえるよう、物語形式としています。

海外での活動

優れた医療施設を表彰するプログラムを支援(インドネシア)

2014年11月、インドネシアの保健省は、地域の一次医療および保健活動を担う医療保健施設“プスケスマス”から、特に優れた施設を表彰しました。「都市(Urban)」と「地方(Rural)」の2部門で評価がなされ、都市部門では3つ、地方部門では6つのプスケスマスが表彰されました。

本表彰は政府が国をあげて医療施設の機能改善に取り組んでいることを示しています。シスメックス インドネシアは、他のヘルスケア企業とともに表彰を支援しました。



表彰式の様子

地域社会への貢献

コミュニティ発展への貢献

地域の方々との交流イベントを開催

シスメックス(株)は、地域住民の方々を当社施設にお招きし、交流を深めるイベントを毎年開催しています。2014年5月にはテクノパークの庭園を開放し、近隣住民の方に散策を楽しんでいただくイベントを行い、約600名の方々にご来場いただきました。当日は「乳がん治療の現状と個別化医療」、「子宮頸がん検査について」というテーマの講演会や、採血せずに血液中のヘモグロビン推定値が測定できる当社製品「ASTRIM FIT」による健康チェックなども実施し、医療や検査に興味を持っていただけるよう努めました。また、7月には市民の健康増進・栄養改善思想の向上に寄与してきたことが評価され、テクノパークが神戸市からの表彰を受けました。

これに加え、10月には、前年度に引き続いて「みなと異人館」を一般公開しました。みなと異人館は1906年に建造された神戸市の歴史的建造物で、老朽化のため2008年から閉鎖されていました。これを2012年9月に当社が借り受け、修繕した上でゲストハウスとして活用しています。一般公開では、館内を公開するだけでなく、神戸の歴史を紹介する写真展や、一般の方に気軽に楽しんでいただけるイベントを併催し、約200名の方々にご来場いただきました。今後も定期的に地域の皆様へ公開していく予定です。



テクノパークの庭園開放



みなと異人館

さまざまなイベント・団体を支援し、地域振興・文化の発展に貢献

シスメックス(株)は、地元兵庫県の地域振興と文化の発展を目的とするイベントや団体に対して寄付や協賛を通じて支援しています。

例えば、1995年阪神・淡路大震災で亡くなられた方々の鎮魂の意を認めるとともに神戸の復興・再生への夢と希望を託して始まった「神戸ルミナリエ」に毎年協賛しています。また、神戸市立王子動物園の「動物サポーター制度」に協力しています。「動物サポーター制度」は、企業や個人が動物のサポーターとなって動物園の運営を支援するもので、当社はパンダのサポーター企業となっています。その他にも、以下のような団体やイベントを支援しています。

地域振興の支援

- 第44回神戸まつり
- こうべ海の盆踊り
- 第87回兵庫県小・中・高校絵画展
- ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ 第3回兵庫公演 ほか

文化関連事業の支援

- C.A.P.海のうえプロジェクト
- 兵庫県立美術館 ほか

その他

- ・ 公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)
- ・ 官民協働海外留学支援制度「グローバル人材育成コミュニティ」
- ・ 国際連合世界食糧計画WFP協会
- ・ 公益財団法人計算科学振興財団
- ・ セーブザチルドレン
- ・ 中谷医工計測技術振興財団
- ・ 神戸医療産業都市
- ・ 加川広重 大絵画が繋ぐ東北と神戸2015 ほか

地元のスポーツチームに協賛

シスメックス(株)は、地元神戸のスポーツチーム活性化を目的に、Jリーグ所属のサッカーチーム「ヴィッセル神戸」に協賛しています。

こうした取り組みによって地域振興を図るとともに、スポーツを通じた健康な社会づくりにも貢献していきたいと考えます。

海外事例(アジア・パシフィック) : 地域の課題解決に向けてさまざまな活動を実施

アジア・パシフィックのグループ各社では、「Greener Sysmex Project」と題した地域貢献活動など、各地域の課題解決に貢献するためにさまざまな取り組みを展開しています。

2014年度には、同地域の統括現地法人シスメックス アジア・パシフィックが「ニューイヤー・ヘルピング」と題した募金を実施しました。従業員からの募金に会社が一定の金額を上乗せした総額7,650ドルの資金で、地元の貧しい家庭が新年を迎えるための食料や粉ミルク、灯油などの支援物資を購入し、306の家族に提供しました。

その他にも、各地で以下のような活動に取り組みました。

- ・ スリランカで開催されたビジネスパートナーミーティングの期間中に、開催地付近の病院に当社検査機器を、また、学校に医務室用物資を寄贈(シスメックス アジア・パシフィック)
- ・ 地元のオラン・アスリ(先住民)への支援として、従業員チームが住宅を建築して寄贈(シスメックス マレーシア)
- ・ 近隣地域からシングルマザーと孤児を招いてラマダンあけの夕食会を実施。全従業員が参加し、伝統料理やマジックショーを提供(シスメックス マレーシア)
- ・ がん、心臓疾患、聴覚異常を持つ子どもの支援団体のために、寄付や募金活動を実施(シスメックス ニュージーランド)



病院への検査機器寄贈(スリランカ)

海外事例(ドイツ) : 障がい者支援団体に一部業務を委託

シスメックス ヨーロッパは、試薬工場での材料選別などを、障がい者の自立支援に取り組んでいる団体に業務委託し、障がい者の方々に自社の製造ラインで作業に取り組んでいただいている。

災害被災地の支援

インドネシアとマレーシアの被災地を支援

2014年12月12日、インドネシアのバンジャルネガラ地区で大規模な地滑りが発生しました。この結果現地では、108名の方が亡くなるとともに、105世帯の600名が避難を余儀なくされました。シスメックス インドネシアはこうした状況を受けて、同月15日から募金イベントを実施し、集めた資金でおむつやタオル、歯磨き粉などの生活物資を購入し、現地に送付しています。また同月20日には、販売代理店とともに被災地への寄付を行いました。今後も長期的な支援を実施していく予定です。

また、2014年12月、シスメックス マレーシアは、マレーシア東海岸で洪水に被災した100家族に対して、地元医療施設と協力して食料・飲料などの救援物資を提供しました。



インドネシア被災地への生活物資提供

次世代育成への貢献

青少年の育成支援

シスメックス(株)では、兵庫県下の中学生を対象に実施されている職場体験プログラム「トライやるウィーク」や、兵庫県下の理数系の高校生が研究成果を発表し、企業、大学、研究機関と交流するイベント「サイエンスフェアin兵庫」に毎年参加しています。

2015年2月に開催された「第7回サイエンスフェアin兵庫」では、採血せずに血液中のヘモグロビン推定値が測定できる当社製品「ASTRIM FIT」による健康チェックや事業紹介のポスター掲示などを実施しました。約200名の方々に測定を体験していただき、好評を博しました。

インターンシップ・企業見学の受け入れ

シスメックス(株)では、就業体験を希望する学生を積極的に受け入れています。2014年度には、地元兵庫県の大学3校から計75名の学生を受け入れ、企業で働く保健師の役割について学んでもらう機会を提供しました。また、臨床検査科に属する短期大学生63名に新しい機器生産工場アイスクエアとソリューションセンターを見学していただきました。

海外の学生も積極的に受け入れており、2014年度は、インド工科大学の学生3名をインターンシップ生として受け入れ、シスメックス独自の技術を学んでもらいました。また、イギリスのクランフィールド大学の学生25名が神戸大学の学生とともにシスメックス(株)ソリューションセンターに見学に訪れました。これは一週間をかけて複数企業を訪問する日本企業体験プログラムの一環として行われたものです。

さらに、シスメックス アジア・パシフィックでも、現地専門学校の学生による企業見学を受け入れました。



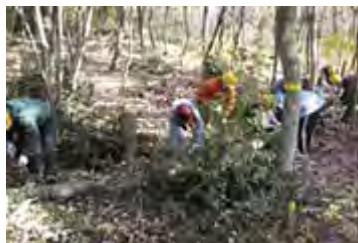
インドからのインターンシップ生

自然保護・クリーン活動

森林保全活動

シスメックスでは、中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用していることから、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置づけるとともに、生物多様性保全への貢献を目指しています。

こうした考えにもとづいて、2013年度には兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、森林整備活動をスタートさせました。試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」(17ヘクタール)のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名づけ、従業員ボランティアによる間伐作業などを実施し、「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。



間伐作業



シスメックスの森

クリーン活動

シスメックスでは、日本全国の事業所で従業員ボランティアによる事業所周辺の清掃活動を実施しています。2014年度は約700名の従業員がこの活動に参加しました。

また、シスメックス ニュージーランドでは、自社の「ボランティア・デー」にモトウタプ島で浜辺の清掃活動を実施しました。モトウタプ島はニュージーランド北部に位置する島で、多くの自然が残ることで知られています。



清掃活動に参加した従業員（シスメックス ニュージーランド）



清掃活動に参加した従業員（シスメックスメディカ）

従業員の社会貢献活動の推進

従業員の社会貢献活動を支援する制度

従業員のボランティア活動を促進する「社会貢献ポイント制度」を開始

シスメックスは、2014年4月に「社会貢献ポイント制度」を開始しました。この制度では、従業員が個人で社会貢献活動を行ったり、会社主催の社会貢献イベントに参加するとポイントが付与されます。そして年度末に貯まったポイントに応じて、会社から寄付を実施します。2014年度はユニセフを通じて、合計約97万円分のはしかワクチンやマラリア予防蚊帳、救急医薬品キットを途上国に寄付しました。

■ 2014年度の社会貢献ポイント実績・寄付実績

国内グループ従業員の約28%、837名が参画

合計9,722ポイント=972,200円分を寄付

- はしかワクチン 10,600回分
- 救急医薬品キット 78キット
- マラリア予防蚊帳 770帳



環境保全活動

— 行動基準 —

法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。



環境方針

環境保全活動を通じた豊かな健康社会づくりを目指して環境方針・行動基準を策定しています。

環境マネジメント

国内外主要事業所での国際規格ISO14001の認証取得や、他の活動を計画的に推進しています。

製品・サービス等の環境配慮

製品・サービスに関する法規制への対応や、環境負荷低減に向けた取り組みを進めています。

事業所の環境配慮

直接および間接の温室効果ガス排出、廃棄物の排出や水の使用など、事業所で生じる環境負荷を把握し、低減に努めています。

その他の環境配慮

事業が環境に及ぼす影響をさまざまな角度から検証し、必要に応じて対策を講じています。

グリーン調達

製品の環境負荷低減などを目的として、グリーン調達を推進しています。

環境データ

環境保全活動を効率的に進めるために、環境負荷を定量的に把握しています。

環境方針

環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品のライフサイクルの各段階において、環境への影響を考慮し、環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
3. すべての事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減、リサイクルを推進し、化学物質の適正管理に努めます。
4. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを遵守します。
5. 環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品が環境に与える影響を最小限にするように努めます。
6. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
7. 環境方針から環境目的・目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2009年5月改定

環境マネジメント

環境マネジメント体制

環境活動の推進

シスメックスは、「シスメックスグループ環境行動計画(シスメックス・エコビジョン2020)」(2010年度策定、2015年度改訂)の目標達成に向けてグループで取り組んでいます。

また、2017年度を最終年度とする新たな中期環境活動計画(2015～2017年度)を策定しました。国内・域間物流のCO₂排出量削減の目標値については、積載効率の向上による効果などがより反映されるよう、単位を「トンキロ原単位」から「単体売上高原単位」に改めています。

2013年度には、グループ各社の責任と役割を明確化してグループとしての環境マネジメントを強化するため、グローバル環境マネジメント規程を制定しました。そして、シスメックス(株)の専務執行役員が環境マネジメントオフィサーとしてグループの環境マネジメントを統括・管理し、その指示のもと、各地域または事業分野ごとに環境活動を推進できるよう、グローバルな環境マネジメント体制の整備を進めています。

■ 中期環境目標(2015～2017年度)

- 環境に配慮した製品・サービスの提供
- 国内・域内物流のCO₂排出量45%削減(単体売上高原単位)
- 事業所における温室効果ガス排出量40%削減(連結売上高原単位)
- 事業所のリサイクル率92%以上の達成
- 試薬工場の水使用量7%削減(生産高原単位)

ISO14001の認証を取得

シスメックスでは、グループの主要な関係会社で環境マネジメントの国際規格「ISO14001」の取得を進めており、2015年4月末現在、累計22拠点で取得を完了しています。

国内については、2013年度、シスメックス(株)とシスメックス国際試薬の認証にシスメックスRAとシスメックスメディカの認証をあわせて、ISO14001の認証を統合しました。2014年度は新たに稼動した新工場「アイスクエア」を加え、国内グループ各社の環境活動を一元化して、活動の進捗状況や問題点をグループとして把握することでマネジメント活動の強化を目指しています。

■ ISO14001認証取得状況

会社名	事業所	取得時期
シスメックス ヨーロッパ	ノイミュンスター工場	1999年11月
	本社	2011年10月
シスメックス(株)	加古川工場	2000年4月
	テクノパーク	2002年2月
	本社	2002年2月
	ソリューションセンター	2005年11月
	アイスクエア	2015年2月
シスメックス国際試薬	小野工場	2001年3月
	西神工場	2007年6月
シスメックスメディカ	—	2001年3月
シスメックスRA	—	2008年6月
シスメックス ブラジル	—	2006年5月
シスメックス アメリカ	—	2009年12月
シスメックス リージェンツ・アメリカ	—	2009年12月
シスメックス ニュージーランド	—	2011年5月
シスメックス ドイツ	—	2011年10月
シスメックス フランス	—	2012年2月
シスメックス インディア	—	2012年3月
シスメックス アジア・パシフィック	—	2012年4月
シスメックス スペイン	—	2012年4月
シスメックス ミドルイースト	—	2013年3月
シスメックス 無錫	—	2013年6月

環境監査の実施

2014年度、認証統合している国内グループ4社では、法規制の「順守評価」に加え、「内部環境監査」、さらに外部審査機関による「外部環境監査」を実施しました。

内部環境監査で2件不適合が見つかりましたが、是正対応を完了しています。また、外部環境監査での不適合はありませんでした。

環境目標と実績(2014年度)

シスメックスグループ環境行動計画(シスメックス・エコビジョン2020)／中期環境目標

	シスメックス・エコビジョン2020の長期環境目標(改訂版)	中期環境目標 (2013～2015年度)	2014年度の活動・実績
製品・サービス等の環境配慮	環境に配慮した製品・サービスの提供	環境に配慮した製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ● RoHS指令適合に向けた活動の推進 ● 消費電力削減に向けた製品開発の推進 ● 試薬に使用する主要原料について、動物由来原料から人工的に作成したタンパク質への切り替えを推進 ● 製品の容器包装・梱包材の使用量削減の推進 ● 環境に配慮したサービスモデルの推進
	国内・域間物流のCO ₂ 排出量50%削減 (トンキロ原単位) ^{※1} 基準年度 2010年度	国内・域間物流のCO ₂ 排出量30%削減 (トンキロ原単位) ^{※1} 基準年度 2010年度	<p>● 海外への輸出について、航空便から海上輸送への切り替え推進</p> <p>2014年度実績: 0.14(t-CO₂/千トンキロ) 基準年度(2010年度): 0.14(t-CO₂/千トンキロ) 対基準年度: 増減なし (排出量は、基準年度の5,400 t-CO₂から5,083 t-CO₂に5.9%減少)</p>
事業所の環境配慮	事業所における温室効果ガス排出量50%削減 (連結売上高原単位) ^{※2} 基準年度 2008年度	事業所における温室効果ガス排出量25%削減 (連結売上高原単位) ^{※2} 基準年度 2008年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 設備導入による温暖化対策(空調の室温管理徹底、省エネ蛍光灯の導入、階段照明への人感センサー設置など)(各事業所) ● 再生可能エネルギーを扱う電力会社から購入(シスメックス ヨーロッパ) ● 太陽光発電の利用によるCO₂排出量削減(シスメックス ヨーロッパ 試薬工場) <p>2014年度実績: 7.28 (t-CO₂/億円) 基準年度(2008年度): 10.07 (t-CO₂/億円) 対基準年度: 28%減</p>
	事業所のリサイクル率93%以上の達成 ^{※3}	事業所のリサイクル率90%以上の達成 ^{※3}	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物処理業者の見直しを実施(テクノパーク) ● 外注包装材料の再利用(シスメックス 無錫) <p>2014年度実績: 90.3%</p>
	試薬工場の水使用量10%削減 (生産量原単位) ^{※4} 基準年度 2008年度	試薬工場の水使用量3%削減 (生産量原単位) ^{※4} 基準年度 2008年度	<ul style="list-style-type: none"> ● 新純水装置の導入(济南シスメックス) ● 凈化処理後の工場排水の再利用(シスメックス インディア) <p>2014年度実績: 21.4 (m³/千箱) 基準年度(2008年度): 21.5 (m³/千箱) 対基準年度: 約1%減</p>

※1 シスメックス(株)

※2 集計範囲:工場および主要事業所

[工場]

シスメックス(株)(加古川工場、アイスクエア)、シスメックス国際試薬(小野工場、西神工場)、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックス ヨーロッパ 試薬工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、濟南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所]

シスメックス(株)(本社、テクノパーク、ソリューションセンター)、シスメックス ヨーロッパ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック

※3 集計範囲:工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所

[工場]

シスメックス(株)(加古川工場、アイスクエア)、シスメックス国際試薬(小野工場、西神工場)、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックス ヨーロッパ 試薬工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、濟南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所]

シスメックス(株)(本社、テクノパーク、ソリューションセンター)

※4 集計範囲:試薬工場(9拠点)

シスメックス国際試薬(小野工場、西神工場)、シスメックス ヨーロッパ 試薬工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、濟南シスメックス、シスメックス 無錫

製品・サービス等の環境配慮

製品の環境配慮

法規制への対応

2011年7月に改正RoHS指令※が発効し、これによって当社の製品では2016年7月から検体検査機器、動物用検体検査機器に同指令が適用されることとなりました。

シスメックスでは、この改正RoHS指令に適合できるよう、欧州へ出荷している製品の部品調査および代替品への変更を進めています。

※ RoHS指令:EU(欧州連合)で販売される電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令。重金属(鉛、カドミウム、水銀、六価クロム)と、ダイオキシン類の発生原因となる特定臭素系難燃剤(PBB、PBDE)の使用全廃を要求したもの。

環境に配慮した製品の開発

シスメックスでは、お客様先での省エネルギーや廃棄物の低減に貢献するため、検体検査機器の省電力化、試薬使用量の低減などに向けた技術開発に取り組んでいます。

また、製品などの輸送時に発生する環境負荷を低減するため、製品の小型化・小容量化、梱包材の使用量削減や、梱包方法の効率化などにも取り組んでいます。

環境に配慮した診断薬原料生産手法の確立

シスメックスでは、診断薬の原料タンパク質に関して、カイコによる生産手法を確立しました。またこの技術を用いて、2012年度から受託生産ビジネスも本格的に開始しており、すでに多くの製薬企業様から注文をいただいているいます。

従来これらのタンパク質は、哺乳類などの細胞を、環境制御タンク(無菌、温度、酸素濃度等)などの機械設備で生産していたため、多くのエネルギーを消費していました。一方、カイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいため、省エネルギーと廃棄物削減が期待できます。



タンパク質生産に用いられるカイコ

サービスなどの環境配慮

環境に配慮したサービスモデル

シスメックスでは、サービスを効率化することで、環境負荷の低減を図っています。例えば、カスタマーサポートセンターの充実を図るとともに、SNCSIによるお客様との双向ネットワークをグローバルに構築し、検査装置のダウンタイムの最小化を図っています。

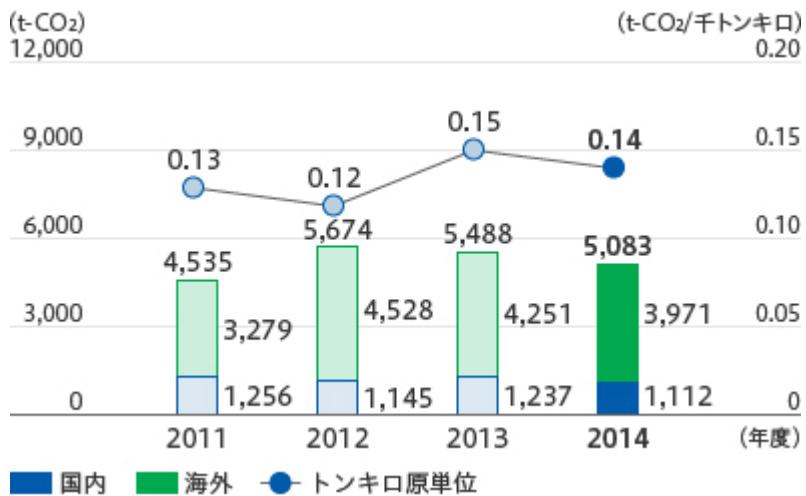
これによってシスメックスの担当者がお客様を計画的・効果的に訪問することができ、サービスのための自動車使用率を抑えて、CO₂排出量の抑制につなげています。

物流におけるCO₂排出量削減

物流工程でのCO₂排出量削減についても、取り組みを進めています。海外への輸送については、航空便から海上輸送への切り替えを進めていますが、緊急品の航空輸送が多くなっていることから、海上輸送コンテナの積載効率を向上させて計画的な船便出荷を実施することで緊急品の出荷を低減させる取り組みも開始しました。また、積載シミュレーションの強化により製品の出荷タイミングを調整し、船便コンテナへの積載率を向上させたり、機器製品の梱包サイズの適正化により保管・積載率を向上させるなど、段階的な物流全般の再構築にも取り組んでいます。

その結果、2014年度のCO₂排出量は、前年度比で7.4%減少しました。

■ 物流におけるCO₂排出量



集計範囲：国内物流倉庫から国内顧客および海外各地域の港、空港までのCO₂

事業所の環境配慮

温室効果ガス排出量削減

電力使用量の削減の推進

事業所における温室効果ガス排出量を削減するために、各事業所でさまざまな活動を進めています。

工場を含む各事業所では、夏期・冬期の室温管理の徹底、階段照明などへの人感センサーの設置、省エネ蛍光灯・LED照明の導入など、それぞれの事業所の特性にあつた省エネ対策を実施しています。一部事業所ではデマンド監視機能※も設置し、電力使用量を総量で管理しています。

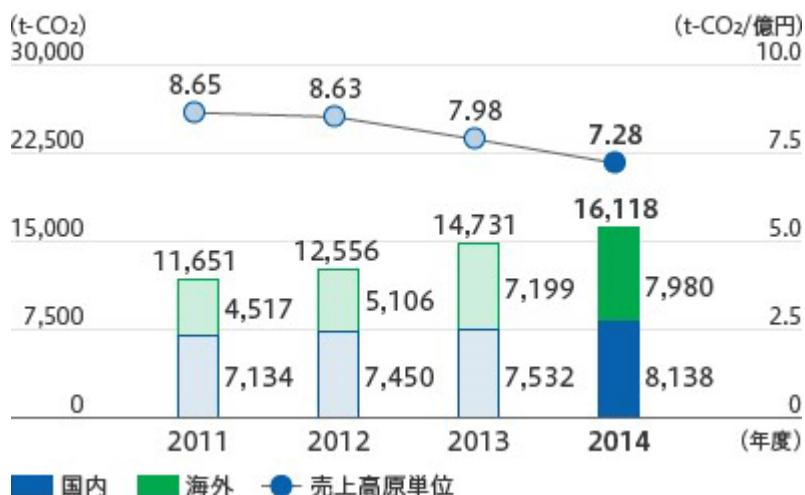
これらの取り組みの効果もあり、2014年度の温室効果ガス排出量原単位は、前年度比で約9%削減することができました。



LED照明(小野工場)

※ 24時間連続して最大需要電力(デマンド値)を計測し設定した目標値を超過しそうになると警報を発信したり、電気の使用状況を日報、月報で報告する機能。

■ 事業所での温室効果ガス排出量



注)集計範囲の見直しにともない、一部「システムックスあんしんレポート2014」で報告している数値から修正しています。

集計範囲:工場および主要事業所

[工場]

システムックス(株)(加古川工場、アイスクエア)、システムックス国際試薬(小野工場、西神工場)、システムックスメディカ、システムックスRA、システムックスヨーロッパ試薬工場、システムックスブラジル、システムックスリージェンツ・アメリカ、システムックスインディア、システムックスアジア・パシフィック、濟南システムックス、システムックス無錫

[主要事業所]

システムックス(株)(本社、テクノパーク、ソリューションセンター)、システムックスヨーロッパ、システムックスアメリカ、システムックス上海、システムックスアジア・パシフィック

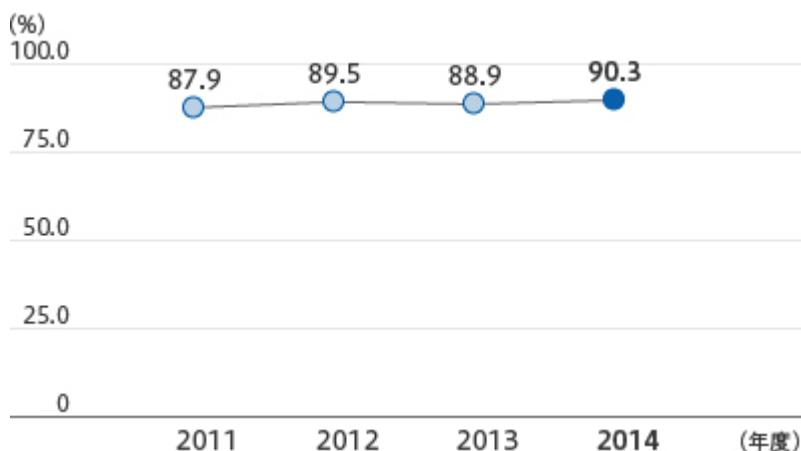
廃棄物の削減

毎年安定したリサイクル率を維持

廃棄物処理業者の見直しを実施するなど、廃棄物の削減やリサイクル率向上にも継続的に取り組んでいます。例えば、シスメックス 無錫では外注包装材料の包装用PE袋を生産・開発の場所で使用したり、生活用ごみ袋として再利用するなど廃棄物の削減にも取り組んでいます。また、濟南シスメックスでは、製造ラインの自動化によって廃棄物排出の削減を実現しています。このほか国内では、社員食堂など生ごみが多く出る場所で生ごみ処理機の活用を進め、生ごみを肥料に変えるなど、各拠点でさまざまな取り組みを継続的に実施しています。

これらの取り組みにより、グループのリサイクル率は、毎年安定した水準を維持しています。

■ 事業所のリサイクル率



集計範囲：工場および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所

[工場]

シスメックス(株)（加古川工場、アイスクエア）、シスメックス国際試薬（小野工場、西神工場）、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックスヨーロッパ 試薬工場、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、シスメックス アジア・パシフィック、濟南シスメックス、シスメックス 無錫

[主要事業所]

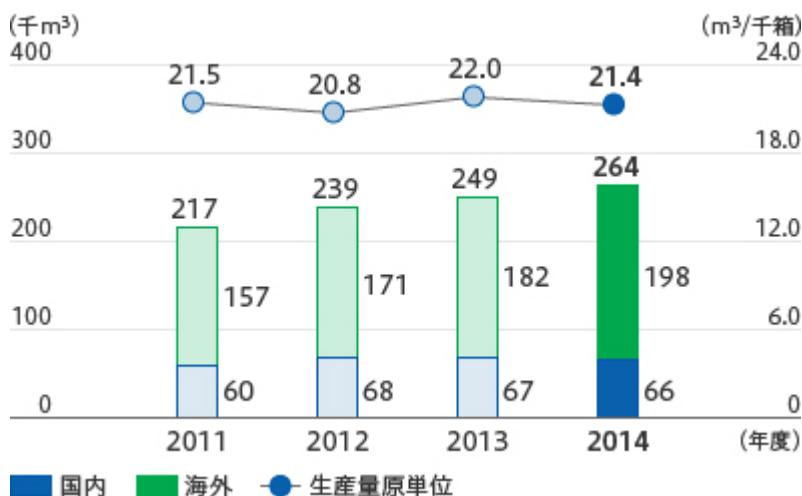
シスメックス(株)（本社、テクノパーク、ソリューションセンター）

水使用量削減と適切な排水処理

各拠点で取り組みを推進

水の使用効率を高め、水使用量の削減にも取り組んでいます。システムズ インディアで浄化処理後の工場排水を工場内の緑地へ引いて、水やりに使用しているほか、各拠点で取り組みを進めています。しかし、新工場アイスクエアの操業開始とともに水使用量の増加などにより、2014年度は、総使用量は前年度比で約6%増加しましたが、生産量原単位では約3%削減することができました。

■ 試薬工場での水使用量



集計範囲: 試薬工場(9拠点)

システムズ国際試薬(小野工場、西神工場)、システムズ ヨーロッパ 試薬工場、システムズ ブラジル、システムズ リージェンツ・アメリカ、システムズ インディア、システムズ アジア・パシフィック、济南システムズ、システムズ 無錫

工場設立時の環境配慮

環境に配慮した設計や設備・機器、運用プロセスを導入

新たな事業所・工場を設立する際、その運用にともなう環境負荷を極力小さくできるよう、環境に配慮した設計や設備・機器、運用プロセスを導入するよう心がけています。

アイスクエアのシンボルの一つであるエントランス前の丘には、建設残土を利用して場外排出を削減し、環境負荷低減にも貢献しています。

海外事例(インド):システムズ インディアのバディ工場が現地の環境アワードで1位を受賞

システムズ インディアのバディ工場は、2014年4月、現地で名誉ある環境アワードとして知られる「Environment Best Practice Awards」の小規模工場部門で1位に選ばれました。

バディ工場が存在するナラガーワークス工業地帯は、インド国内でも有数の工業地帯のひとつです。同賞では、環境・社会関連のトピックに詳しい地元有識者がチームを組み、ナラガーワークス工業地帯に存在する3,000の工場を監査。特に優れた取り組みを行っている8工場を表彰しました。

その他の環境配慮

国内社用車のCO₂排出量削減

ドライバーの意識向上や低燃費車の導入などを推進

約400台ある国内の社用車からのCO₂排出量を削減するために、インターネットを利用して各車両の走行量、使用ガソリン量を「見える化」し、ドライバーの意識向上を図っています。また、低燃費車やハイブリッドカーの導入も進めています。

国内支店、営業所については運転講習会(エコドライブ講習)を通じた燃費改善の効果や低燃費車の導入などにより、ガソリン使用量が前年比約3%低減しましたが、システムズメディカへの部品物流の集約によって納品トラック運用が大幅に増加したことで、軽油使用量は前年比68%増加し、結果として、2014年度の国内社用車からのCO₂排出量は、前年度比で約1%増加しました。

有害物質の管理・処理

各事業所で厳重な管理と適切な処理を徹底

システムズ国際試薬では製品の原材料として、テクノパークでは研究開発の実験材料として、生物由来の物質を取り扱っています。これらは感染の危険性があるため、万が一に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。

また、他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。2014年度には西神工場で廃棄物置場を改修したほか、小野工場では新たにBOD(生物化学的酸素要求量)の警報機を設置するなど、有機物を含む廃液の流出を未然に防ぐシステムを導入しました。

紙使用量の削減

資料の電子データ化を推進

システムズ(株)では、タブレット端末を導入し、ペーパーレス会議を推進しています。これによって紙の使用量・廃棄量削減、印刷・配布などの事前準備の工数削減に取り組んでいます。また、事前に資料のデータを出席者に配付できるようになったことで、会議の効率化にもつながっています。また、サプライヤー向けの製品部品図面を、紙ではなく電子データで提示することでも紙使用量を削減しています。

グリーン調達の推進

取引先と協力して環境に配慮した調達を推進

システムズでは、「グリーン調達基準」を制定し、取引先とともに環境に配慮した調達を推進しています。また、環境に配慮した部品・材料の調達を目指し、製品への使用を制限・削減する化学物質をWebサイトで公開しています。

グリーン調達を推進

「グリーン調達基準」を制定

「グリーン調達基準」を制定し調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定しています。

グリーン調達基準

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

1. 目的

シスメックスグループは、地球環境保全を進めることにより企業の社会的責任を果たすという環境基本方針を基に、環境に配慮した製品づくりを推進するため、地球環境への負荷が少ない原材料・部品の調達を推進し、環境保全活動に意欲的なサプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の発展を目指します。

2. グリーン調達の方針

シスメックスグループは、調達活動における、当社製品の環境負荷を低減することはもとより、サプライヤー様も含めた生産活動を通じた環境負荷を低減するため『グリーン調達』を実施します。グリーン調達の具体的な取り組みとして、以下の2項目を推進します。

- 1) 環境負荷が少ない原材料、部品の調達を推進します。
- 2) 環境保全に意欲的なサプライヤー様との取引を拡大します。

3. 適用範囲

シスメックスグループにおける原材料・部品および製品の調達活動に適用する。

4. 製品使用化学物質の管理

シスメックスグループは、開発・製造する製品に使用する原材料・部品の選定にあたっては、必要な品質・機能・経済的合理性に加え、環境負荷を低減するため、以下に示す化学物質を使用していない原材料・部品を採用するものとします。

- 1) 製品に使用する化学物質の制限で定めている禁止物質を含有していないこと
- 2) 製品に使用する化学物質の制限で定めている化学物質の含有量が把握されていること
- 3) 使用にあたり、化学物質、大気汚染、水質汚濁、土壤汚染発生等の環境負荷が低いこと
- 4) 資材に関する環境情報を公開していること
- 5) 梱包材についても、上記内容と同様、化学物質の含有量削減等がなされていること

以上

2014年11月改定

サプライヤーの皆様へ

環境保全活動に意欲的に取り組んでいる調達先を高く評価

シスメックスは、社会が抱える重要な課題である地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。当社活動の重要性を十分ご認識いただき、グリーン調達にご協力いただきますようお願い申し上げます。当社は、グリーン調達基準に基づき、品質、価格、納期、技術開発力などに加え、環境保全活動に意欲的な取り組みを実践されているサプライヤー様を高く評価いたします。サプライヤーの皆様には、以下のご協力をお願いしております。

1. 環境マネジメントシステムの構築と運用のお願い

シスメックスグループは、お取引を開始するにあたり、環境保全活動に意欲的な取り組みを実践されていることを明らかにしていただくため、第三者による環境マネジメントシステム認証の有無を確認させていただきます。

- 1) ISO14001の認証
- 2) 簡易版の環境マネジメントシステムの認証

2. 原材料、部品の環境情報提供のお願い

シスメックスグループは、シスメックスの環境保全活動にご協力いただくため、サプライヤー様に次に示す環境情報の提供をお願いしております。

- 1) 原材料、部品に含まれる有害化学物質データ
- 2) 欧州RoHS規制物質の不使用証明書
- 3) 欧州RoHS規制に適合した原材料、部品の情報

3. サプライヤー様の外注先様に対する環境対応のお願い

シスメックスグループは、サプライヤー様が取引されている外注先様につきましても、環境マネジメントシステムの構築と環境情報の提供にご協力いただくことをお願いしております。この外注先様につきましては、サプライヤー様が責任を持って管理いただくことをお願いしております。

以上

2014年11月改定

製品使用化学物質の制限

禁止物質、削減物質、対象国を明示

グリーン調達基準に基づき、生産および販売する製品を構成する部品、デバイス、材料などに含有される化学物質(環境負荷物質)への対応について、以下に開示しています。

■ 1. 禁止物質(使用を禁止する物質)

- ▶ 禁止物質  (520KB) 2014年10月24日作成

■ 2. 削減物質(削減を必要とする物質)

- ▶ 削減物質  (1MB) 2014年10月24日作成

■ 3. 対象国一覧(禁止物質・削減物質の根拠となる環境関連法令対応を意図する国および地域)

- ▶ 対象国一覧  (106KB) 2014年10月24日作成

環境データ

事業活動にともなう環境負荷

INPUT			
		2013年度	2014年度
①	電気使用量(千kwh)	34,519	35,988
①	都市ガス(千m ³)	1,185	852
①	LPG(m ³)	5,671	6,268
①	LNG(m ³)	0	0
①	重油(kL)	0	0
①	灯油(kL)	68	70
①	軽油(kL)	19	19
④	国内社用車ガソリン(kL)	795	778
④	国内社用車軽油(kL)	11.7	19.7
③	水使用量(千m ³)	346	368
⑤	OA用紙(t)	50	49
④	PRTR(t)	7.9	0.15



OUTPUT			
		2013年度	2014年度
①	事業所温室効果ガス排出量(t-CO ₂)	20,194	21,472
④	国内社用車ガソリン(t-CO ₂)	1,830	1,856
②	廃棄物等総排出量(t)	1,274	1,353
②	リサイクル率(%)	89.1	90.0
③	水排出量(千m ³)	144	164
④	PRTR(t)	4.8	0

- ① 工場、シスメックス(株)の全事業所、国内関係会社、および統括現地法人
[工場]加古川工場、アイスクエア、シスメックス国際試薬(小野工場、西神工場)、シスメックスメディカ、シスメックスRA、シスメックスヨーロッパ 試薬工場、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス ブラジル、シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス インディア、濟南シスメックス、シスメックス 無錫
[その他のシスメックス(株)事業所] 本社、テクノパーク、ソリューションセンター、支社・支店・営業所・サービスセンター(仙台、札幌、盛岡、北関東、長野、新潟、東京、千葉、名古屋、静岡、金沢、大阪、京都、神戸、広島、高松、岡山、福岡、鹿児島、首都圏サービスセンター)、研究開発センター、たんぱく質開発センター、BMAラボラトリー
その他の国内関係会社:シスメックスCNA
統括現地法人:シスメックスヨーロッパ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック
- ② 工場、およびシスメックス(株)の全事業所(リサイクル率は支社・支店・営業所・サービスセンターを除く)(1を参照)
- ③ 工場、および主要事業所のうち製品・化学物質を取り扱う事業所
[工場](1を参照)
[事業所] テクノパーク、ソリューションセンター
- ④ 国内工場、およびシスメックス(株)の全事業所
[国内工場] 加古川工場、アイスクエア、シスメックス国際試薬(小野工場、西神工場)、シスメックスメディカ、シスメックスRA
[その他のシスメックス(株)事業所](1を参照)
- ⑤ 国内グループのISO14001認証取得事業所
シスメックス(株)(本社、テクノパーク、ソリューションセンター、加古川工場、アイスクエア)、シスメックス国際試薬(小野工場、西神工場)、シスメックスメディカ、シスメックスRA

ガイドライン等対照表

ISO26000対照表

下表では、「ISO26000※」の7つの中核主題と、「あんしんレポート」において関連する情報を掲載している場所を対照させています。

※ ISO26000:2010年11月に組織の社会的責任のガイダンスとして発行された規格

ISO26000中核主題	掲載箇所
組織統治	▶ P31 コーポレート・ガバナンス ▶ P20 CSRマネジメント ▶ P3 社長メッセージ
人権	▶ P60 従業員との関わり
労働慣行	▶ P60 従業員との関わり
環境	▶ P85 環境保全活動 ▶ P9 特集2
公正な事業慣行	▶ P36 コンプライアンス ▶ P57 取引先との関わり
消費者課題	▶ P45 お客様との関わり ▶ P7 特集1
コミュニティへの参画・発展	▶ P75 社会貢献活動 ▶ P11 特集3

GRIガイドライン対照表

下表では、GRI※の「サステイナビリティ・リポーティング・ガイドライン第3.1版」の開示要請項目と、「あんしんレポート」において関連する情報を掲載している場所を対照させています。

※ GRI: Global Reporting Initiativeの略。1997年に、企業のサステイナビリティ(持続可能性)報告に関する国際的なガイドラインの作成とその普及を目的に設立された国際機関

GRIガイドライン第3.1版 開示要請項目		掲載箇所
戦略および分析		
1.1	組織と持続可能性の適合性(関連性)と、組織の戦略に関する組織の最高意思決定者(CEO、会長またはそれに相当する上級幹部)の声明	▶ P3 社長メッセージ
1.2	組織の活動が持続可能性、ステークホルダーに及ぼす主要な影響、リスクおよび機会の説明	▶ P3 社長メッセージ ▶ Webサイト:株主・投資家の皆様へ
組織のプロフィール		
2.1	組織の名称	▶ Webサイト:会社情報
2.2	主要なブランド・製品および／またはサービス	▶ Webサイト:会社情報
2.3	主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの組織の経営構造	▶ Webサイト:会社情報
2.4	組織の本社の所在地	▶ Webサイト:会社情報

2.5	組織が事業展開している国の数および大規模に事業を展開している、あるいは報告書中に記載されている持続可能性の課題特に関連のある国名	▶ Webサイト:会社情報 ▶ P3 社長メッセージ
2.6	組織の所有形態の性質および法的形式	▶ Webサイト:株主・投資家の皆様へ
2.7	参入市場(地理的内訳、参入セクター、顧客／受益者の種類を含む)	▶ Webサイト:会社情報
2.8	報告組織の規模	▶ Webサイト:会社情報
2.9	規模、構造または所有形態に関して報告期間中に生じた大幅な変更	▶ Webサイト:株主・投資家の皆様へ
2.10	報告期間中の受賞歴	▶ P28 社外からのCSR評価

報告書のプロフィール

3.1	提供する情報の報告期間(会計年度／暦年など)	▶ P1 編集方針
3.2	前回の報告書発行日(該当する場合)	▶ P1 編集方針
3.3	報告サイクル(年次、半年ごとなど)	▶ P1 編集方針
3.4	報告書またはその内容に関する質問の窓口	▶ P1 編集方針

報告書のスコープおよびバウンダリー

3.5	報告書の内容を確定するためのプロセス	
3.6	報告書のバウンダリー(国、部署、子会社、リース施設、共同事業、サプライヤー(供給者)など)	▶ P1 編集方針
3.7	報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項の明記	▶ P93 事業所の環境配慮 ▶ P96 その他の環境配慮 ▶ P97 グリーン調達 ▶ P99 環境データ
3.8	共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列でのおよび／または報告組織間の比較可能性に大幅な影響を与える可能性があるその他の事業体に関する報告の理由	▶ Webサイト:株主・投資家の皆様へ
3.9	報告書内の指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の基となる前提条件および技法を含む、データ測定技法および計算の基盤	▶ P1 編集方針
3.10	以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明、およびそのような再記述を行う理由(合併／買収、基本となる年／期間、事業の性質、測定方法の変更など)	
3.11	報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	

GRI内容索引

3.12	報告書内の標準開示の所在場所を示す目次	▶ P101 ガイドライン等対照表
------	---------------------	-------------------

保証

3.13	報告書の外部保証添付に関する方針および現在の実務慣行。サステナビリティ報告書に添付された保証報告書内に記載がない場合は、外部保証の範囲および基盤を説明する。また、報告組織と保証の提供者との関係を説明する。	
------	--	--

ガバナンス		
4.1	戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造(ガバナンスの構造)	▶ P31 コーポレート・ガバナンス
4.2	最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す	▶ P31 コーポレート・ガバナンス
4.3	単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび／または非執行メンバーの人数および性別明記	▶ P31 コーポレート・ガバナンス
4.4	株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム	▶ P31 コーポレート・ガバナンス ▶ P71 労働者への権利の尊重
4.5	最高統治機関メンバー、上級管理職および執行役についての報酬(退任の取り決めを含む)と組織のパフォーマンス(社会的および環境的パフォーマンスを含む)との関係	▶ P31 コーポレート・ガバナンス
4.6	最高統治機関が利害相反(利益相反)問題の回避を確保するために実施されているプロセス	▶ P31 コーポレート・ガバナンス
4.7	性別およびその他のダイバーシティ指標へのあらゆる考慮を含む、最高統治機関およびその委員会メンバーの構成、適性および専門性を決定するためのプロセス	▶ P31 コーポレート・ガバナンス
4.8	経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関する、組織内で開発したミッション(使命)およびバリュー(価値)についての声明、行動規範および原則	▶ P2 シスメックスグループ企業理念および行動基準 ▶ P36 コンプライアンス ▶ P46 品質・安全性の確保 ▶ P57 取引先との関わり ▶ P76 社会貢献方針 ▶ P86 環境方針 ▶ P97 グリーン調達
4.9	組織が自らに固有の経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス(関連のあるリスクと機会および国際的に合意された基準、行動規範および原則への支持または遵守を含む)	▶ P20 CSRマネジメント ▶ P21 CSR中期計画 ▶ P87 環境マネジメント
4.10	最高統治機関のパフォーマンスを、特に経済的、環境的、社会的パフォーマンスという観点で評価するためのプロセス	▶ P31 コーポレート・ガバナンス ▶ P87 環境マネジメント
外部のイニシアティブへのコミットメント		
4.11	組織が予防的アプローチまたは原則に取り組んでいるかどうか、およびその方法はどのようなものかについての説明	▶ P20 CSRマネジメント ▶ P21 CSR中期計画 ▶ P87 環境マネジメント
4.12	外部で開発された、経済的、環境的、社会的憲章、原則あるいは組織が同意または受諾するその他のイニシアティブ	▶ P20 CSRマネジメント
4.13	団体および／または国内外の提言機関における会員資格	
ステークホルダー参画		
4.14	組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	▶ P23 ステークホルダーとの対話実績
4.15	参画してもらうステークホルダーの特定および選定の基準	▶ P20 CSRマネジメント
4.16	種類ごとのおよびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	▶ P20 CSRマネジメント ▶ P23 ステークホルダーとの対話実績

4.17	ステークホルダー参画を通じて浮かび上がった主要な話題および懸案事項と、それらに対する組織の対応方法(報告を通じた浮かび上がらせを含む)		
経済			
マネジメント・アプローチ			▶ P3 社長メッセージ
経済的パフォーマンス			
EC1	中核	収入、事業コスト、従業員の給与、寄付やその他のコミュニティへの投資、内部留保、資本提供者や政府に対する支払いなど、発生し、分配された直接的な経済的価値	▶ Webサイト:株主・投資家の皆様へ
EC2	中核	気候変動による、組織の活動に対する財務上の影響とその他のリスク・好機	
EC3	中核	確定給付制度の組織負担の範囲	
EC4	中核	政府から受けた高額の財務的支援	
市場での存在感			
EC5	追加	主要な事業地域での、現地の最低賃金と比較した標準的な男女の新入社員賃金の比率の幅	
EC6	中核	主要な事業地域の地元サプライヤーに対する方針と業務慣行、支出の割合	▶ P57 取引先との関わり
EC7	中核	主要な事業地域での、現地採用の手順と、現地のコミュニティから上級管理職に採用された従業員の割合	
間接的な経済影響			
EC8	中核	商業活動、現物支給、または無料奉仕を通じて、第一に公共の利益のために提供されるインフラ投資とサービスの展開と影響	▶ P77 健康社会づくり活動 ▶ P80 地域社会への貢献
EC9	追加	重要な間接的経済効果についての見解と記述。影響の範囲も含めて。	
環境			
マネジメント・アプローチ			▶ P3 社長メッセージ
原材料			
EN1	中核	使用した原材料の重量あるいは容量	
EN2	中核	原材料のうち、リサイクル由来の原材料を使用した割合	
エネルギー			
EN3	中核	一次エネルギー源(化石燃料、ウラン、自然エネルギーなど自然界に存在するかたち)ごとの直接エネルギー消費量	▶ P99 環境データ
EN4	中核	一次エネルギー源ごとの間接エネルギー(生産や輸送などに使用するエネルギー)消費量	▶ P99 環境データ
EN5	追加	省エネルギーおよび効率改善によって節約されたエネルギー量	▶ P99 環境データ
EN6	追加	エネルギー効率の高い、あるいは再生可能エネルギーを基礎とした製品およびサービスを提供する率先的取り組み、およびこの取り組みの結果として得られた、必要エネルギー量の減少	▶ P91 製品・サービス等の環境配慮

EN7	追加	間接エネルギー消費量削減のための率先的取り組み、および達成された減少量	▶ P91 製品・サービス等の環境配慮
水			
EN8	中核	水源からの総取水量	▶ P99 環境データ
EN9	追加	取水により著しい影響を受ける水源	なし
EN10	追加	水のリサイクルおよび再使用が総使用水量に占める割合およびその総量	
生物多様性			
EN11	中核	保護地域内および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域であって、所有、賃借、管理している土地、あるいはそれらの土地に隣接している土地の所在地および面積	▶ P80 地域社会への貢献
EN12	中核	保護地域および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域での活動、製品、およびサービスが及ぼす影響についての記述	▶ P80 地域社会への貢献
EN13	追加	保護または回復されている生息区域	▶ P80 地域社会への貢献
EN14	追加	生物多様性への影響を管理するための戦略、現在の活動、および将来の計画	
EN15	追加	事業によって影響を受ける地区に生息するIUCNのレッドリスト種（絶滅危惧種）および国内の保護対象種の数。絶滅危険性のレベルごとに分類する。	なし
排出物、排水および廃棄物			
EN16	中核	直接及び間接的な温室効果ガス排出の、重量ベースでの総量	▶ P99 環境データ
EN17	中核	その他の関連する温室効果ガスの重量ベースでの排出量	▶ P93 事業所の環境配慮
EN18	追加	温室効果ガスを削減するための率先的取り組み、および達成された削減量	▶ P93 事業所の環境配慮
EN19	中核	オゾン層破壊物質の重量での排出量	▶ P93 事業所の環境配慮
EN20	中核	NOx、SOxおよびその他の重大な排気物質についての種類別および重量ごとの排出量	ごく少量のため非開示
EN21	中核	排水の水質および流出先ごとの総量	▶ P99 環境データ
EN22	中核	廃棄物の種類別および廃棄方法ごとの総量	▶ P99 環境データ
EN23	中核	重大な漏出の総件数および流出量	▶ P87 環境マネジメント
EN24	追加	バーゼル条約付属文書Ⅰ、Ⅱ、ⅢおよびⅦの下で有害とされる廃棄物の輸送、輸入あるいは輸出、または取り扱いの重量、および国家間を移動した廃棄物の割合	なし
EN25	追加	報告を行う組織による排水および漏出により著しい影響を受ける水域および関連する生息環境の特定、およびその容量、保護状況、および生物多様性の価値	なし

製品およびサービス			
EN26	中核	製品およびサービスの環境影響削減を緩和する率先的取組みとその削減の程度	<ul style="list-style-type: none"> ▶ P91 製品・サービス等の環境配慮 ▶ P93 事業所の環境配慮 ▶ P96 その他の環境配慮 ▶ P99 環境データ
EN27	中核	使用済みとなった時点で再生利用される販売製品および包装資材の、種類別の割合	
コンプライアンス			
EN28	中核	適用される環境法および規制への不遵守に対する罰金の金額 または罰金以外の制裁措置の総数	なし
輸送			
EN29	追加	組織運営のために利用される製品とその他の物品や材料の輸送と、労働力の移動が、環境に与える重大な影響	<ul style="list-style-type: none"> ▶ P91 製品・サービス等の環境配慮 ▶ P96 その他の環境配慮
全般			
EN30	追加	種類ごとの、環境保護目的の総支出および投資額	
社会			
労働慣行とディーセント・ワーク(適正労働)			
マネジメント・アプローチ			▶ P3 社長メッセージ
雇用			
LA1	中核	雇用の種類、雇用契約および地域別の総労働力の男女別内訳	▶ P25 CSRデータ一覧
LA2	中核	従業員の新規採用数および雇用率(全従業員に占める割合)、総離職数および離職率の年齢、性別および地域ごとの内訳	▶ P64 評価・待遇・人材育成
LA3	中核	主要な事業地域ごとの、臨時社員またはパートタイム従業員には支給されず、正社員には支給される福利のための手当	
LA15	中核	男女別の出産・育児休暇後における、復職率と定着率	▶ P25 CSRデータ一覧
労働/労使関係			
LA4	中核	団体交渉の対象となっている従業員の割合	▶ P71 労働者への権利の尊重
LA5	中核	労働協約として特定されているか否かを含め、業務上の重要な変更に関する、最短通知期間	
労働安全衛生			
LA6	追加	労働安全衛生プログラムについての監視および助言を行う公式の労使合同安全衛生委員会の対象となる従業員総数の割合	<ul style="list-style-type: none"> ▶ P71 労働者への権利の尊重 ▶ P72 安全と健康への配慮
LA7	中核	地域別および性別の、傷害、業務上疾病、損失日数、欠勤の割合、および業務上の死亡者数	<ul style="list-style-type: none"> ▶ P72 安全と健康への配慮 ▶ P25 CSRデータ一覧
LA8	中核	深刻な病気に関する、労働者、その家族またはコミュニティのメンバーを支援するために設けられている、教育、研修、カウンセリング、予防および危機管理プログラム	▶ P72 安全と健康への配慮
LA9	追加	労働組合との正式合意に盛り込まれている安全衛生のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ P71 労働者への権利の尊重 ▶ P72 安全と健康への配慮

教育研修			
LA10	中核	雇用分野別、男女別の、従業員一人あたりの年間平均研修時間	▶ P64 評価・処遇・人材育成
LA11	追加	従業員の継続的な雇用適性を支援し、キャリア終了管理を支援する技能管理および生涯学習のためのプログラム	▶ P64 評価・処遇・人材育成
LA12	追加	男女別の、能力・業績およびキャリア開発に関する定期的審査を受けている従業員の割合	▶ P64 評価・処遇・人材育成
多様性と機会均等			
LA13	中核	性別、年齢、マイノリティグループおよびその他の多様性の指標ごとの、統治体(経営管理職)の構成および従業員カテゴリーごとの従業員の内訳	▶ P25 CSRデータ一覧
男女同一報酬			
LA14	中核	従業員カテゴリー別の男性および女性の基本給および給与の比率	
人権			
マネジメント・アプローチ			▶ P3 社長メッセージ
投資および調達の慣行			
HR1	中核	人権に関する懸念についての条項を含む、あるいは人権についての適正審査を受けた主要な投資協定や契約の割合および総数	
HR2	中核	人権に関する適正審査を受けた主要なサプライヤー、請負業者およびその他の事業パートナーの割合、および実施された活動内容	▶ P57 取引先との関わり
HR3	中核	業務に関連する人権的側面に関わる方針および手順に関する従業員研修の総時間数、および研修を受けた従業員の割合	▶ P36 コンプライアンス ▶ P61 人権・多様性の尊重
無差別			
HR4	中核	差別事例の総数と実行された是正措置	
組合結成と団体交渉の自由			
HR5	中核	結社および団体交渉の自由を侵害する、または重大な侵害の恐れのある業務と重要なサプライヤー、およびこれらの権利の支援のために実施された活動	
児童労働			
HR6	中核	児童労働の重大なリスクがある業務と重要なサプライヤー、および児童労働の根絶に寄与するために取られた措置	▶ P61 人権・多様性の尊重 ▶ P57 取引先との関わり
強制労働			
HR7	中核	強制(・義務)労働の深刻な危険がある業務と重要なサプライヤー、および強制労働の根絶に寄与するために取られた措置	▶ P61 人権・多様性の尊重 ▶ P57 取引先との関わり
保安慣行			
HR8	追加	業務に関連し人権に関する組織の方針または手続きの研修を受けた保安要員の割合	
先住民の権利			
HR9	追加	先住民の人権侵害に関わる事例の総数、および対処措置	

評価(アセスメント)			
HR10	中核	人権審査・影響評価の対象となっている事業活動数と総事業活動数に対する割合	
改善			
HR11	中核	人権に関する苦情について、正式な仕組みを通じて解決された件数	
社会			
マネジメント・アプローチ		▶ P3 社長メッセージ	
地域社会(コミュニティ)			
SO1	中核	事業活動の中で、現地コミュニティ参画、コミュニティへの影響評価、コミュニティの開発プログラムが施行された事業活動の割合	
SO9	中核	事業活動によってもたらされる、現地コミュニティへの潜在的ではあるが大きな悪影響、あるいは実際の悪影響	
SO10	中核	事業活動によってもたらされる、現地コミュニティへの潜在的ではあるが大きな悪影響、あるいは実際の悪影響への予防策および緩和策	
不正行為			
SO2	中核	不正行為に関連するリスク分析を受けた業務単位の割合と総数	
SO3	中核	組織の反不正行為に関する方針と手続きに関して訓練を受けた従業員の割合	▶ P61 人権・多様性の尊重 ▶ P57 取引先との関わり
SO4	中核	不正行為事例に対して取られた措置	
公共政策			
SO5	中核	公共政策に関してとっている立場と、公共政策形成への参加およびロビー活動	
SO6	追加	政党、政治家または関連機関への献金および類似の寄付の総額	
反競争的な行動			
SO7	中核	自由競争の原則に反する行動、反トラスト、独占的慣行に関してとられた法的措置の事例の総数と、法的措置がとられたことによって生じた結果	
コンプライアンス			
SO8	中核	法律と規制への違反に対する重大な罰金の金額と、罰金以外の制裁の総数	該当する事象は発生していません
製品責任			
マネジメント・アプローチ		▶ P3 社長メッセージ	
顧客の安全衛生			
PR1	中核	製品とサービスが安全衛生に及ぼす影響について、改善のための評価が実施されているライフサイクルの諸ステージと、それらの手続きの対象となる主要な製品とサービスのカテゴリーの割合	▶ P46 品質・安全性の確保
PR2	追加	製品とサービスの安全衛生上の影響に関する規制と自主規定が遵守されなかった事例の件数(これらの不遵守が招いた帰結の種類ごとに)	▶ P46 品質・安全性の確保

製品とサービスのラベリング		
PR3	中核	各種手続きによって要請される製品とサービスについての情報の種類と、情報要請の対象となる主要製品とサービスの割合
PR4	追加	製品とサービスの情報とラベリングに関する規制と自主規定に違反した事例の件数(これらの違反が招いた帰結の種類ごとに)
PR5	追加	顧客満足に関する実践----顧客満足を測定するための調査の結果など
マーケティング・コミュニケーション		
PR6	中核	広告、宣伝、後援などのマーケティング・コミュニケーションに関する法律、基準、自主規定の厳守のためのプログラム
PR7	追加	広告、宣伝、後援などのマーケティング・コミュニケーションに関する規制と自主規定に違反した事例の件数(これらの違反が招いた帰結の種類ごとに)
プライバシーの尊重		
PR8	追加	顧客のプライバシー侵害に関する正当な根拠のあるクレームの件数と顧客情報紛失の件数
コンプライアンス		
PR9	中核	製品・サービスの供給と使用に関する法律と規則に違反したことに対して課された罰金の総額

第三者意見

「シスメックス あんしんレポート2015」 を読んで

神戸大学大学院 経営学研究科教授

國部 克彦 様



本業における社会課題の解決について

シスメックスでは、さまざまな検査測定装置を市場に提供することで、検査を受ける患者、検査を行う技師の両者の負担を軽減させています。さらに「特集1」で書かれているように従来品よりも省スペース化を進めることにより、機器の普及を側面から支援しています。より苦痛や手間の少ない検査を、少しのスペースで行えるようにすることで、より多くの人の痛みや苦しみを取り除くことができます。このような目的をもって新しい製品を開発していくという姿勢は、本業におけるCSR活動であると高く評価されます。

グローバルCSR活動

シスメックスはグローバル企業であり、世界各地に拠点があります。本業でのCSR活動やボランティア活動など、地域ごとに独自の活動をされている様子が紹介されています。グローバルの従業員が自発的に、取り組みを行っていることはとても素晴らしいことです。地域に見合った活動を行うことも重要ですが、グローバル企業として地域を連携した「シスメックス」としての取り組み、シスメックスの基本方針を象徴するような協同的な取り組みがあれば、さらに大きな力となるのではないかと思います。

マテリアリティと指標化

シスメックスにおけるCSR活動は、ステークホルダー別に整理されて開示されています。関心の深い分野の情報にアクセスしやすいというメリットが感じられますが、一方で重要性や優先順位などが見えづらくなっているように感じます。「Sysmex Way」を推進するために、シスメックスが考える重要性と社会の要請を鑑み、シスメックスにおけるマテリアリティを開示していくことが次の課題ではないかと思われます。またその課題に沿って指標(KPI: 主要な活動指標)を公表することが進捗度を示すことになり、シスメックスのCSR経営の状況が外部からわかりやすくなると思われます。

ダイジェスト版を「統合報告」に

CSR報告の世界では、財務報告とCSR報告を統合した簡潔な報告書として、「統合報告」が注目されています。シスメックスの「ダイジェスト版」はCSRのみですが、財務情報も取り入れられて、「統合報告」に進化させる方向を目指すべき時期に来ているのではないかでしょうか。そのためには、機関投資家を念頭においていた編集方針が必要になりますが、CSR情報開示のレベルを格段に向上させることにつながります。

シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

www.sysmex.co.jp